全国大学生活協同組合連合会 関西北陸ブロック

関西北陸ブロック活動事例集

北陸エリア　京滋・奈良エリア　大阪・兵庫・和歌山エリア

2018

2018年、関西北陸ブロックで
行われた取り組みが満載！

2019年の活動における
ヒントが盛りだくさん！

K's
関西北陸ブロック
- KANSAI HOKURIKU -
FUKUI ISHIKAWA TOYAMA OSAKA HYOGO WAKAYAMA KYOTO SHIGA NARA

つながる元気、ときめきキャンパス。
CO-OP univ.

Index

- Index/活動事例集の使い方　1
- 2019年度 関西北陸ブロック方針　3
- ありたい姿①ともにつくる　活動事例　7
- ありたい姿②安心・安全　活動事例　25
- ありたい姿③学びと成長　活動事例　38
- ありたい姿④社会に生きる　活動事例　50

[関西北陸ブロック活動事例集 2018]

2018年12月発行

発行人：全国大学生活協同組合連合会 関西北陸ブロック

編集者：全国大学生協連 関西北陸ブロック 学生事務局
(大阪市淀川区西宮原2-7-15 大学生協大阪会館5階)

発行趣旨

関西北陸ブロックが統合して、2018年で3年目を迎えます。従来、各エリアでは12月のエリアフェスティバルに際して、エリアの教訓的な取組みを紹介する事例集を作成していました。

ブロック3年目となる今年は、「関西北陸ブロック事例集」と称して、エリアを越えて**各会員生協が自発的に取組みを持ち寄り交流する場**としても機能できるよう、本冊子を発行します。

Point①　2019年頑張ることを掴む材料として

各事例の冒頭には取組みの教訓的なポイントを、末尾には2019年度関西北陸ブロック方針との関係性を記載しています。

ブロック全体として意識していきたいポイントを、エリアフェスティバル後に改めて確認し、2019年に**各会員生協でどのような取組みを頑張るか考える材料**として、本事例を活用してみてください。

Point②　日ごろの活動を考える材料として

学生委員会での会議や、職員会議の場で、「新しい取組みを始めたいな～」「今やっている活動をレベルアップしたいな～」などの問題意識が出てくることがあるかと思います。

その際に、この事例集を活用してみましょう。「**様々な想いと多様な活動があるんだ！**」といった気づきが生まれると思います。

取組みについて、より深く知りたい場合には、**学生事務局に聞く、実際に活動見学に行く**など、新たな展開ができますね！

使い方

No.	会員生協名	取組みの名前	ページ
01	富山大学生協	焼きたてパンNo.1決定戦	8
02	奈良県立大学生協	総会（総会前企画・丼－１グランプリ）	9
03	大阪樟蔭女子大学生協	総代会の取り組み	10
04	滋賀医科大学生協	生協創立15周年企画	11
05	奈良女子大学生協	設立50周年記念シンポジウム・パーティ	12
06	奈良教育大学生協	夏祭り企画	13
07	京都経済短期大学生協	同志社女子大生協店舗見学・大山乳業フェア	14
08	京都工芸繊維大学生協	イチオシ商品川柳	15
09	近畿大学生協	七夕グランプリ ～あなたの願いは何色？～	16
10	大阪経済大学生協	GI & K's Kitchen Café	17
11	兵庫県立大学生協	アイス頂上決戦!!	18
12	神戸市外国語大学生協	大山フェア	19
13	立命館生協(衣笠)	京北田舎体験ツアー	20
14	滋賀大学彦根地区生協	友活	21
15	大阪電気通信大学生協	新入生歓迎祭2018	22
16	神戸大学生協	RIDE(一泊二日新歓イベント)	23
17	大阪教育大学生協	クイズ企画『第1回全統大教マーク模試』	24
18	奈良三大学	新学期ブラッシュアップ交流システム	26
19	金沢大学生協	いきいきフェスタ	27
20	阪南大学生協	たまねぎ祭・共済祭	28
21	関西学院大学生協	共済月間の取組み	29
22	神戸親和女子大学生協	美のスキルアップ会	30
23	富山県立大学生協	無料自転車点検	31
24	龍谷大学生協(瀬田)	自転車・バイク事故防止活動	32
25	滋賀大学大津地区生協	アルコールリスク啓発企画	33
26	神戸高専生協	神戸市外大との合同共済勉強会	34
27	同志社生協(京田辺)	超えていけ赤緑黄	35
28	京都大学生協	自炊王者メシキング	36
29	奈良高専生協	「ちゃんと食べる」ための食堂回数券	37
30	大阪大学生協	健骨づくり＆大山乳業キャンペーン	39
31	福井大学生協	オープンキャンパス	40
32	奈良教育大学生協	なんでも相談会	41
33	大阪市立大学生協	新入生・保護者説明会	42
34	大阪樟蔭女子大学生協	新入生・保護者説明会	43
35	京都教育大学生協	パソコン講座	44
36	和歌山大学生協	講座スタッフ　PC・IT活用講座	45
37	同志社生協(今出川)	Campus Life Seminar	46
38	大阪府立大学生協	出発(たびだち)サポート	47
39	立命館生協(OIC)	読書に関する取組	48
40	甲南大学生協	年間を通じたiCommonsでのイベント実施	49
41	京都橘学園生協	部会内勉強会	51
42	立命館生協(OIC)	#これって平和コンテスト	52
43	京都府立医科・府立大生協	生協学生委員会おれんじ×TFT KPU企画	53
44	立命館生協(BKC)	ユニオンカフェテリアメニュー総選挙	54
45	滋賀県立大学生協	災害対策2018	55
46	龍谷大学生協(深草)	環災縦断ウルトラクイズ	56
47	大阪大学生協	いちょう祭における環境活動	57
48	大阪教育大学生協	環境企画「リ・リパックのお菓子ハント」	58
49	神戸大学生協	古紙回収企画(PRP)	59
50	関西学院大学生協	生協祭・環境ブース	60
51	神戸市外国語大学生協	ちょっきにボード	61
52	消費者教育推進チーム	大兵和エリア　地産地消体感セミナー	62

関西北陸ブロック 2018 年総括/2019 年度方針ダイジェスト

全国大学生協連 関西北陸ブロック

第 1 章 2018 年度 関西北陸ブロック総括(ダイジェスト版)

2018 年度の成果と課題について「2018 年度 関西北陸ブロック方針」に基づいて振り返りを行いました。

めざすこと① 組合員が大学生協の運営に積極的に参加・参画できるように工夫をしましょう

(1) 様々な組合員の声やニーズをくみとり、お店や活動に積極的に参加・参画できるしくみをつくりましょう。

○生協店舗でのひとことカードの取り組みは、声に関する回答を組合員がわかるように工夫する会員や**組合員に声を上げてもらいやすくする工夫**をしているところがみられました。

○**総代会を軸とした年間を通した組合員活動**を意識することができ、**総代の役割**について理解した上で、総代会に参加してもらう取組みが進みました。

○実出席をあげる取組みを行うことによって、**組合員と直接接点**を作ることができ、**組合員の運営参加が強化**されました。

△総(代)会を軸とした年間を通した組合員活動の推進には課題が残ります。総代会後の総代との関わりが薄い状態です。

△多くの会員生協で総(代)会の実出席が少ない状況が続いています。

(2) 組合員が大学生協の想いに共感し、自発的な運営参加につながるように加入活動・大学生協の活動を紹介する活動を推進していきましょう。

○大学生協の役割についてしっかりと**理解**し、**共感**し、大学生協への加入を促す取組みをすすめることができました。

○組合員にとって、**信頼できる・入ってよかった**と思ってもらうために、生協がどんなことをやっているか伝えられました。

△大学生協が大切にする想いの部分までしっかりと伝えて加入活動や大学生協紹介をできているケースは少ないです。

(3) 組合員・大学・関係団体・地域から信頼される「組織づくり」を進めましょう。

○生協に共感して入った組合員に対し**信頼される存在**であるために、どんな活動・行動が必要になってくるか考えられました。

○**学内外の諸団体と連携**し、生協運営への参加や、組合員のよりよい生活に向けた活動が行えました。

△より多くの会員生協で、さらに多様な関係団体と連携することで活動の可能性が広がります。

△個人情報保護などのコンプライアンス遵守の意識を大学生協全体(学生委員会を含む)で持つことが必要です。

めざすこと② 組合員が健康で安全・安心な生活を送ることができるように様々な活動を行いましょう

(1) 共済 4 本柱の活動を推進することで、組合員に「たすけあい」の輪を広げましょう。

○多くの生協で新学期時期に共済加入について、学生自身が**生活実感に基づいて加入案内**をすることができました。
(学生委員会の活動はもちろん、サポートセンターの学生も共済について理解し、実感に基づいて提案しました。)

○共済月間を中心に、**日常期において、**組合員が健康に目を向けてもらう機会が増えました。

△加入率の向上には課題が残ります。実感を持った上で、自分の言葉で伝えられる学生によって左右されます。

△学生委員会間で共済 4 本柱の活動に差が見られるため、それぞれの活動の意義を伝えていく必要があります。

(2) 共済活動の推進では、大学保健管理センターとの連携や食育や食生活相談の活動と連携していきましょう。

○食生活相談会をはじめ様々な活動で、**栄養士との連携や地域生協との連携**が進みました。

○会員生協によっては**食生活を中心として、健康について考えてもらう**取組みが行われました。

△食生活に関する取組みが多く行われているが、健康への意識まで結びついていない取組みも多いとみられます。

△大学や保健センターと連携することの意義を理解し、積極的に活用していきたいところです。

めざすこと③ 組合員がなりたい姿に向けて成長できるように様々な提案を行いましょう

(1) 学生組合員がなりたい姿をイメージすること、そして目標に向かって行動できるようにしましょう。

○**ビジョンナビゲーションセミナー**について、新たに実施された会員生協が増加したり、学生委員への認知が進みました。

○新学期の説明会などで、**将来について考えてもらう機会**を作る会員生協が多く見られました。

△ビジョンナビゲーションセミナーをさらに広げ、組合員が「なりたい姿」をイメージできる工夫をしていきましょう。

△上級生も「なりたい姿」を考えられる取組みを増やすため、4 年間を通じたキャリア形成支援プログラム展開が必要です。

(2) 生協で扱っている商品や生協のキャリア活動を発信することや、大学のキャリアセンターなどと連携することで、必要な情報や機会を提供できるようにしましょう。

○新学期活動の資格講座や PC 講座などの提案場面において、「**コトモノ提案**」が進められました。

○事業連合主体で「First Year Program in KYOTO」などの**学びの機会・プログラム**を作ることができました。

○ビブリオバトルをはじめとする**読書推進の取組み**が各会員生協にて展開されました。

△大学と生協が連携して活動していくことが必要です。そのために、情報共有を密に行う必要があります。

めざすこと④ 組合員が社会に目を向け考え行動できるように活動を行い、発信をしていきましょう

(1) 組合員が平和、環境、防災などの社会的課題について学び、自分事として考え行動できるようにしましょう。

○組合員が社会的課題について知り、**自分ごととして考える機会**を提供する取り組みが増えました。
―組合員にとって参加しやすい方法を利用して、社会的課題に触れてもらう取り組み
―関西北陸地域では、災害の多発もあいまって、「防災」への意識が高まりました。

○全国セミナーへの参加や、各エリアの推進チームの活動・主催するセミナーへの参加を通して、まわりの組合員を巻き込んで考えていくための**学びや想いを得ること**ができました。

○**組合員の 1 人として**、学生委員自身が、社会に目を向けて考える場面づくりが進みました。

○既存の活動に社会的課題の視点を加えることで、取り組みやすくする**“ちょいたし”の考え方**で社会的課題に取り組む会員生協が増えました。

△大学との連携で得た学びを活かし、社会的課題について専門的に学ぶ場面を増やしていきたいです。

△社会的課題に関して組合員同士の交流する機会を生み出していきたいです。

(2) 組合員が自分だけでなく周りの人々や社会のことを考え行動できるようにしましょう。
(自分の行動が自分以外の人や社会に影響するということを組合員が意識できるようにしましょう)

○組合員が**社会の状況を考えて行動できる**きっかけづくりが増えました。

○総代会や新学期活動などの場面で、組合員が社会的課題に目を向ける機会を提供できました。
―フェアトレードや Table For Two の取組みや、かしこい選択が「消費者市民社会」につながる意識。

△大学生協としてかかわりの深い社会の動きに対する取り組みを強化しましょう。(成年年齢引き下げなど)

第２章　組合員を取り巻く社会や大学の変化

※情報の出典先：第 53 回学生生活実態調査(関西北陸ブロック版)・全国大学生協連第 62 回総会 第 1 号議案

大学生協と協同組合に関すること　（※めざすこと①/ありたい姿(1)に対応）

- ✓ 社会では協同組合の価値が再認識されています。国連総会で採択された「**持続可能な開発目標(SDGs)**」を達成するために、協同組合の価値やこれまでの営みが評価され、達成に向けたステークホルダーとされています。
- ✓ 協同組合の新たな連携組織として、「日本協同組合連携機構(JCA)」が 2018 年 4 月に発足しました。関西北陸地域の大学生協でも、**協同組合間の連携を進めるきっかけ**となり、大学生協と他の協同組合の関わりも増えています。
- ✓ 大学の在学者数は、昨年度に**引き続き増加**し、大学全体では 290 万 9 千人(前年度＋1 万 8 千人)となっています。一方で大学改革への動きも見られ、国立大学への運営費交付金や、私立大学への補助金は**減少傾向**にあります。
- ✓ **大学と大学生協の関係性は複雑**になっています。関西北陸地域でも、大学からの要請を受けたコンビニチェーンとの連携や、競合する大学子会社の事業拡大、施設使用料をめぐる問題など、多くの課題が存在してます。
- ✓ 大学を取り巻く環境が厳しくなる中で、福利厚生充実のために**生協設立を検討している大学**が、小規模大学を中心に関西北陸地域でも増えています。近隣の大学生協や連帯組織による支援が重要となります。

組合員の健康と安全に関すること　（※めざすこと②/ありたい姿(2)に対応）

- ✓ **食生活の意識は徐々に高まりつつあります。**朝食を食べる学生は 70.9%(自宅生は 79.5%、下宿生は 58.8%)と全国平均より高い結果となりました。一方で下宿生の食生活は摂取率・内容ともに不十分である傾向が続いています。
- ✓ 病気・事故、こころの病や消費者トラブルなど、**組合員を取り巻くリスクは多様化**しています。病気・事故ともに共済金の支払件数は前年比増加しており、急性アルコール中毒や、精神障害による給付件数も増加傾向が見られます。

学生組合員を中心とした大学での学びと進路に関すること　（※めざすこと③/ありたい姿(3)に対応）

- ✓ 文部科学省の調査によると、2018 年度の大学・短期大学進学率は、**57.9%と過去最高を更新**しました。大学の在学者数は増加傾向ですが、短大や高専への進学者数は減少傾向が続いています。多くの若者が大学に行く時代になり、将来の職業選択を見据えた、**実学系の大学への人気**が続いており、学部が新設された大学もあります。
- ✓ 1 日の読書時間は、**平均 22.2 分と減少傾向**が続いています。また、1 日の読書時間が 0 分の割合は、**55.7%**(※全国は 53.1%)となっており、関西北陸地域は全国平均よりも読書習慣が薄いことがうかがえます。
- ✓ 就職活動への不安を感じる学生は 73.5%となっており、その中でも特に「就職できるか(内定がもらえるか)」という不安が大きいです。2018 年春の大卒就職率は 98.0%と、景気回復による効果が見られますが、経団連が 2020 年卒業生から**就職活動にかかわるルールを廃止**すると決定しました。今後の動向を注目し、取組みを進めていく必要があります。

大学生協を取り巻く社会情勢に関すること　（※めざすこと④/ありたい姿(4)に対応）

- ✓ 若年層を取り巻く経済状況の課題として、**相対的貧困**の問題や**奨学金制度**に関する課題があります。関西北陸地域でも、32.7%の学生が奨学金を受給しています。奨学金の利用や返済に関しての情報提供が課題となりそうです。
- ✓ **成年年齢の 18 歳への引き下げ**を定めた改正民法が公布され、2022 年 4 月 1 日に施行される予定です。
- ✓ 関西北陸地域では、豪雨災害や地震の発生などさまざまな**自然災害が相次いで**おり、災害への備えが必要です。
- ✓ 核兵器禁止条約や ICAN のノーベル平和賞受賞など、**核兵器廃絶**に向けて世界では積極的な動きが見られます。
- ✓ **マイクロプラスチック**の問題を受けて、プラ製ストローやレジ袋の提供を中止するなど、環境に配慮した動きが見られます。
- ✓ **2020 年東京オリンピック**や **2025 年大阪万博**を控えて、関西北陸地域のさらなるグローバル化が予想されています。

第３章　2019 年度 関西北陸ブロック方針(ダイジェスト版)

1. ありたい姿(1) ともにつくる

大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1.　実現に向けて１

大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。

(ア) 様々な組合員の声や願いが、お店に集約される仕組みや、その内容が理事会や各種会議において共有・議論される仕組みづくりをすすめましょう。
(イ) 自発的な生協加入と運営参加につながるよう、大学生協の想いと活動内容を紹介する取組みをすすめましょう。
(ウ) 学部学生に限らない、大学の構成員すべてに生協加入を広げ、様々な階層の声を大切にしましょう。

2.　実現に向けて２

総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。

(ア) 総(代)会を軸に、年間をつうじた総代(組合員)活動・総代(組合員)との接点作りをしていきましょう。
(イ) 意思決定機関としての理事会・監事会の位置づけを確認し、組合員の声が反映されるようにしましょう。
(ウ) 組織委員会活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にしていきましょう。

3.　実現に向けて３

連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

(ア) 大学生協の連帯活動や、協同組合間協同を通じて、大学生協の魅力を高めましょう。
(イ) 大学との定期懇談・活動報告を計画的にすすめましょう。大学の信頼関係づくり、よりよい大学づくりのパートナーとして連携することで、組合員のよりよい生活をともに実現していきましょう。
(ウ) 大学・関係団体・地域・社会から信頼される組織作りを進めましょう。

2. ありたい姿(2) 安全・安心

安全・安心にキャンパスライフを送り、健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

1.　実現に向けて１

心身の健康について目を向けることが、大学生活の充実やその先の将来にもつながっていることを気づけるよう、実態に応じた取組みを広げていきましょう。

(ア) 健康づくりの取組みを行い、組合員に健康へ意識を向けてもらいましょう。
(イ) 大学の特徴や季節に応じた予防活動に取り組みましょう。
(ウ) 生協食堂などの場や食育の活動で食事の一つ一つが身体を作っていくことを知ってもらいましょう。
(エ) 将来の健康を意識するために必要な、今の段階からの健康への意識と知識を持てるようにしましょう。

2. 実現に向けて２

怪我や病気になっても対応でき、何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、共済 ４ 本柱を意識した活動を通じて、組合員に「たすけあいの輪」を広げましょう。

(ア) 共済の制度について、大学生の学業継続のために必要な保障制度であることへの理解をしてもらいましょう。

(イ) 共済の認知度を上げ、給付申請忘れを未然に防ぐため、組合員自身が共済に加入しているかを確認できるようにしましょう。

(ウ) 共済の「たすけあいの輪」を実感できるような取組みを行いましょう。

3. 実現に向けて３

キャンパス内のすべての人が健康な生活を送れるよう、大学保健管理施設との連携や、ブロックや行政、医療生協をはじめとする健康に関する活動と連携して、活動をレベルアップさせていきましょう。

(ア) 行政や大学の保健センター等と共催で食生活相談会や健康啓発活動などの取組みができるようにしましょう。

(イ) 健康な食生活を送れるように、生協店舗を活用しましょう。またブロック連帯も活用しましょう。

3. ありたい姿(3) 学びと成長

日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

1. 実現に向けて１

組合員が大学生活の実感や経験を自分の言葉で伝えることで、次世代の組合員が目的・目標を持ってキャンパスライフを過ごせるような機会を作りましょう。

(ア) 新入生が、キャンパスライフを具体的にイメージした上で新生活が始められるような提案を行いましょう。

(イ) 学生組合員が入学時になりたい姿をイメージできるような取り組みや提案活動を行いましょう。

2. 実現に向けて２

学生組合員が新生活のスタートから継続して、なりたい姿をイメージでき、達成感を持ちつつ目標に向けて行動できるよう、考える場面を作っていきましょう。

(ア) 「コトモノ提案」で終わらない学年に応じた「コトーモノーコト」提案を進めていきましょう。

(イ) 学生組合員が「なりたい姿」へ向け、大学生活全体やその先のキャリア形成を具体的に考えられるようにしましょう。

3. 実現に向けて３

生協で取り扱っている商品やキャリア事業・活動を発信したり、大学と連携したりすることで、大学内のすべての人が、自身の学びや成長に必要な情報や機会をもてるように工夫しましょう。

(ア) 組合員のなりたい姿を実現するための手段として、生協が扱っている商品やサービスを提供できるようなコトモノ提案を行いましょう。

(イ) 院生・留学生や社会人など、様々な階層の人たちとつながることのできる活動を推進しましょう

(ウ) 大学のキャリアセンターなどと連携することで、必要な情報や機会を提供できるようにしましょう

4. ありたい姿(4) 社会に生きる

社会の一員であることを意識・実感し、自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

1. 実現に向けて１

組合員が社会の一員であることを実感できるよう、平和・環境をはじめとする様々な社会的課題について考える視点を増やすきっかけを作りましょう。

(ア) 掲示物や企画、店舗などを通じた、平和、環境などの社会の動きを知る機会づくりを進めましょう。

(イ) 大学生協の既存の事業や活動の中で、社会に目を向けてもらう機会を「ちょい足し」していきましょう。

(ウ) 学生委員会をはじめとする組織委員が、社会的課題について学び、考え、広げていきましょう。

2. 実現に向けて２

社会の一員であると実感した組合員が、大学生協の事業や活動を通じて、周りの組合員や社会に対して行動が起こせる機会づくりを工夫しましょう。

(ア) 生協購買や食堂の日常利用の場面を通じて、社会に影響を与えられるような活動を進めていきましょう。

(イ) 社会的課題について考える組合員同士の交流を増やし、持続可能な社会に向けて第一歩を踏み出しましょう。

3. 実現に向けて３

社会の一員として組合員が学び行動できる場面を作るため、大学内の教職員や各種団体との連携、協同組合間協同や連帯の場を積極的に活用していきましょう。

(ア) 大学や教職員と連携し、平和・環境・防災などのテーマについて、深く学べる機会を作りだしていきましょう。

(イ) 連合会やブロック、府県連等が企画・運営する「社会的課題に関するセミナー」に参加し、学ぶ活動を増やしましょう。

(ウ) 協同組合間同士で連携して、組合員が学べる場面を増やしていきましょう。

(エ) 学生団体との連携や大学の講義などとも連携して、学び行動できる組合員を更に増やしていきましょう。

以上

［事例集］

00

関西北陸事業連合・関西北陸ブロック
事業連合総会　午前中企画

事業連合職員と各会員生協の学生委員が事業について考える機会に。組合員の参加によって、事業連合の可能性が広がった！

活動概要

【日時】2018/05/27(日) 10:30~13:30
【場所】立命館大学 大阪いばらきキャンパス
【対象】事業連合総会代議員(学生)・傍聴者、事業連合職員
【内容】午後に開催される関西北陸事業連合総会に先立って、事業連合の位置づけや機能への理解を深めてもらう。また、具体的な活動内容を知ることで、事業連合のさらなる可能性を考える場としてワークショップ企画を実施。
当日は、**学生35名・職員14名の合計49名が参加**しました。

▲当日は49名が参加しました！

企画背景　「もっと事業連合という存在が身近になって欲しい！」

例年、事業連合総会では、事業連合の事業や取組みについて理解されないまま議決する人が多いという問題がありました。事業連合について理解を深めてもらい、もっと学生目線で事業連合に意見をしてもらうことで、**今後の活動における組合員参加の可能性が広がるチャンスにしたい**という想いから実施しました。

アピールポイント　参加者と可能性を広げる！

午前中企画は、「事業連合の取組みを知ってもらう」ことに加えて、「活動内容を知ることで、事業連合の可能性を学生目線で広げる」ことに主眼が置かれた内容でした。
学生の食生活(フード)・学習デバイス(ショップ)・大学時代の留学実態(旅行)・推薦生向けの講座作り(キャリア)など、事業連合の取組みに対して、学生目線での生活実感や意見を伝えました。事業連合の取組みに、**学生の願いをもっと反映できる可能性がある**ことを実感できました。

▲学習に使うツールに関する議論中

参加者の反応　組合員参加を実感できた！

参加者からは、「事業連合の取組みが、組合員のよりよい生活につながっていることを実感できました。」「今後の学生委員会の活動で、事業連合の取組みに組合員が参加できるようにしていきたい。」などの感想がありました。
実際の様子からも、事業連合職員の事業紹介・ワークショップを通じて、**事業連合の取組みには学生の意見が不可欠であることを実感**し、もっと組合員参加を促していくことが大切だと感じられた参加者が多いようです。

▲昼食休憩中も電子書籍を体験！

▲当日の流れ（使用PPTより）

内容 ①　事業を知り、実感する。

午前中企画の流れでは、事業連合の柱事業である「食堂」「ショップ」「キャリア形成」「旅行」について説明された後、ワークショップを通じて**事業の中に組合員が参加できる仕掛けがなされている**ことを理解できました。後半では、事業連合職員が悩んでいること・考えている構想を参加者に共有し、**よりよい取組みにしていくために学生目線で率直な意見を交流しあう**ことができました。

内容 ②　事業連合職員も多数参加！

当日は事業連合職員からも多く参加していただきました。ブロック学生事務局と事業連合職員が連携し、事業へのこだわりポイントを各事業部の方からお話いただくことで、日常の事業で考えていることが伝わる時間になったのではないかと思います。事業連合職員からも、「**もっと学生委員や学生組合員と積極的に交流できる場が欲しい**」という声が聞かれました。現在、新事業連合への統合が進められていますが、今後もこうした交流の場を設けていきます。

▲SEQの活用に関してみんなで議論

成果

事業連合の取組みについて理解したうえで、午後の事業連合総会に参加し、議決することができたという声がありました。
単に事業を紹介するのではなく、**その事業に組合員の声がどう生かしていけるのか**、**組合員参加がどのように実現できるのか**まで参加者と考えられたのが大きな成果といえます。

課題

テーマ設定によっては、「組合員参加が分かりづらかった」との声もありました。実際に利用したことが無い人も多い、キャリア形成事業や旅行サービス事業では組合員参加についてイメージしづらさが残ったので、**より具体的な説明とワークを心がける必要がありそう**です。事務面では、準備が直前になったため、早めの準備が大切です。

取組みを参考にする上で気をつけること

この取組みから教訓として生かせるポイントは、「事業に従事する職員も、組合員の参加を大切にしたいと考えている」部分だと思います。各会員生協での活動においても、店長さんなどの職員から事業について伝えてもらうことで、組合員参加のヒントが隠されているかもしれません。
この機会にぜひ、**積極的に職員と学生がコミュニケーションとってみてはいかがでしょうか**。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
大学生協 関西北陸ブロック　事務局長：野尻　／　学生委員長：矢間
TEL：06-7659-9800　E-mail：yazama.yd@fc.univcoop.or.jp

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

大学生協 関西北陸ブロック 2018年活動事例集

ありたい姿

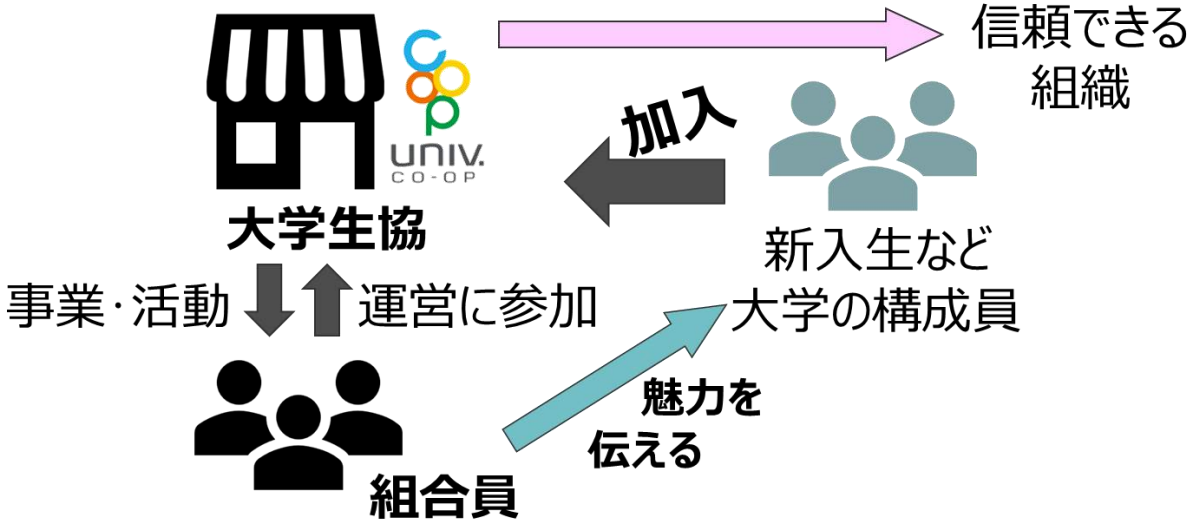
1

ともにつくる

**大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、
よりよい生活をともにつくっていく組合員。**

実現に向けて

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。



［事例集］

01

富山大学生協五福キャンパス
焼きたてパンNo.1決定戦

パンの試食を通じて、生協の事業や学生委員会の活動について総代に理解してもらう場面を作ることができました！また総代同士が交流することで、総代の役割についても理解してもらうことができました！

活動概要

【日時】2018/4/25（水）14：00～18：00
【場所】富山大学五福キャンパス本店食堂
【対象】総代、またはそれに準ずる者（総代補佐）
【内容】生協店舗の焼きたてパンの中で職員さんが選んだ8種類のパンを試食し、一番美味しい（？）組合員に食べて欲しいパンを決定する！また、8種類のパンのPOPを作り、店舗に飾る。当日は、**総代45名**、学生委員18名、計63名が参加。

▲食べ比べ！…の前に全体に説明を

企画背景　＜総代会へ向けて「総代」を意識＞

5月下旬に総代会が行われる。総代として選出されて間もない新入生に、生協の事業の1つとして「焼きたてパン」があるということや、総代が組合員の代表であるといった、**役割を理解**してもらい、**自覚を持つ**きっかけにしてほしいという想いで実施した。また、総代同士の交流もでき、**気軽に意見発信を出来る**環境になれたら良いなとも考えた

アピールポイント　＜生協事業を楽しく知る＞

「総代になったが、生協もよく分からない」という人たちに対して、パンの食べ比べという企画内容は目を惹くものがある。生協が実際どのような事をしているのかを**楽しみながら知れる**企画となっている。生協だけでなく、学生委員会の活動内容も知ってもらい、総代活動だけでなく他の企画にも**参加してもらうきっかけ**にしている。

▲みんな美味しそうに食べてました^^

組合員の反応　＜総代間の交流が出来た＞

キャンパス間を超えた総代同士が交流できた。当日の様子から、初対面の人とも、パンの感想を喋りながら、和気あいあいとした雰囲気であった。
また、自分たちの作ったPOPが実際に店舗に飾られているのを見て、「私たちも**運営に参加していることを実感**できた」という声があった。

▲パンを食べながら感想交流

▲普段行かない店舗のパンも登場！

内容 ①　＜生協の事業の一部！＞

活動前半で、4店舗から8種類の焼きたてパンを試食した。入学して間もないため、生協がどのような事業を行っているのかを理解してもらうため参加しやすい「食べ比べ」という内容になった。**生協へ意見を言いやすい環境**をつくりたいという想いも合わさり、パンへの意見・要望を書いてもらった。

▲パンへの想いをPOPへ！

内容 ②　＜運営に参加を実感＞

活動後半では、8種類のパンにPOPを参加者全員で作成した。食べての感想や惹きつけるような謳い文句を考え、消費者（利用者）としてではなく、**運営側として事業に関わってもらうきっかけ**にした。
富山大学では、組合員の意見を直接もらい、掲示するということは中々無い。学生が作ったPOP自身新鮮なので組合員にも身近に感じてもらう事ができた。

成果

目標にしていた「総代間の交流」ができ、その後の総代活動にも継続して参加してくれたひともいた。また、意見を言いやすい環境を作れたおかげで、**総代会の議論が活発**に行われた。
生協と組合員が密接に関わっているということや組合員の代表だからできる役割をPOP作りを通して理解してもらった。

課題

他キャンパスの店舗のPOPを作ると、実際に貼られている**様子を確認する事ができず**、実感しづらい人もでてしまった。
また、焼きたてパンの出来た経緯から「組合員の意見が大事」など主体的になってもらう言葉が必要があったと考える。

取組みを参考にする上で気をつけること

目的をどこにするかで変わってはきますが、富山大学と同じように新入生総代に対してのアプローチであれば、1回だけではなく、何度も行い、徐々に生協に意識を持ってもらい、意見を言える環境を作っていくのが良いと思います！内容によっては総代だけでなく、組合員全体が参加出来る企画にもなれると思います！

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
富山大学生活協同組合　専務理事：國見伸行　学生委員会委員長：大房　伸
TEL：076-431-4249　E-mail：ohfusa.nb@fc.univcoop.or.jp

TOYAMA　ISHIKAWA　FUKUI　SHIGA　KYOTO　NARA　OSAKA　HYOGO　WAKAYAMA

［事例集］
02

奈良県立大学生協
総会（総会前企画・丼－１グランプリ）

活動の教訓ポイント

学生委員会が主体となって、学生目線で、総会について組合員に伝えることを意識した様々な取り組みが行われました。また、自分たちの声を生協で反映でき、自分たちで運営しているということを総会という場で組合員に向けて伝えることができました。

活動概要

【日時】2018/05/22
【場所】奈良県立大学　三号館二階
【対象】組合員
【内容】総会前企画として食堂内にポスターの掲示、議案の審議、グループ討論、総会後に丼－１グランプリ(メニューコンテスト)の最終選考と試食会。

▲総会前のアイスブレイクの様子

企画背景　総会としてのこだわり

奈良県立大学生協は総代会ではなく組合員全員が対象の総会を開催しています。生協は組合員みんなのお店で、生協の活動を決める「**運営参加の場**」として実際に総会に参加して意見してほしい、という想いで開催しました。そして他にも組合員の方からひとことカードでも声の多かったことについてグループ討論をして、**組合員による運営**が行われているという点を重視しました。

アピールポイント　組合員に伝える

今回の総会では、開催報告を作成しました。Twitterで発信をしたり、食堂や購買内で掲示しました。総会とは何なのか、総会で決まったこととして、それぞれの議案の説明、さらに2018年度の奈良県立大学生協方針と学生委員会方針や、総会内で行なったグループ討論のまとめを掲載しました。実際に総会に参加できなかった人に総会の様子を伝えるために作成しました。

▲食堂内に掲示した開催報告

組合員の反応　グループ討論

今回の総会では、事前に県大声（ひとことカード）でも意見の多かった食堂の営業時間についてのグループ討論を行いました。実際に一組合員の生の声を聞くことができ、その意見を普段の活動や理事会での議論に活かすことができました。

▲グループ討論の様子

▲情宣で使用した画像

内容 ①　総会前企画・情宣

総会前の授業から総会開始までの時間を食堂で過ごしてもらうために組合員の方向けに、職員さんの紹介やちょっきに系の内容でポスターを作成し食堂内で掲示をしました。さらに情宣で使用した画像は、学生委員から募集しました。左の画像以外にも応募があり、**より多くの組合員の方に、総会に参加してほしいという想いを学生委員目線で表現**することができました。

内容 ②　丼－１グランプリ

メニューコンテストとして「丼-１グランプリ」の最終選考会を開催しました。最終選考に残っていた三種類の丼の試食をしました。班内で色々意見しながら試食し、組合員同士の交流にもつながりました。このメニューコンテストでは、**学校職員の組合員の参加もあり、様々な方に楽しんでいただける企画**でした。

◀最終選考に残ったメニュー

成果

昨年度まで、職員さん主体で行なっていた、総会の準備を今年は学生委員主体で行ないました。それによって**学生委員自身も自分たちの総会であるという意識**が芽生えました。他にも、丼－１グランプリでは、職員さんを含むたくさんの組合員の方からのメニューの応募があり、組合員参加を促進することができました。

課題

今年の総会は最終的には成立しましたが、過半数が集まらず、不成立になりかけるということが起こってしまいました。総会であるため、組合員の方の実出席が重要とはなりますが、次の総会では、出席できない組合員には、書面議決の呼びかけを強化し、余裕を持って組合員の過半数以上を集めることが課題となっています。

取組みを参考にする上で気をつけること

総会を成功させるためには、まず学生委員会内で総会や組合員参加についての知識をつける必要があります。実際に春の合宿の段階から、総会についての学習会を行ったり、部会内でも何回も、総会についての説明を行いました。その上で、組合員や特に新入生に向けて総会の説明を行いました。そしてさらに**学生委員会内で組合員参加や総会への想いを１つにする**ことで、総会前企画やメニューコンテストなどのその他の企画につながると感じました。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
奈良県立大学生活協同組合　業務担当理事：石間　学生委員長：宮本
TEL：0742-24-3303　E-mail：n.ishima@u-coop.net

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
03

大阪樟蔭女子大学生協
総 代 会 の 取 り 組 み

活動の教訓ポイント
総代にもっと深く大学生協や総代の役割について知ってほしいという想いで取り組まれた。事前の工夫だけでなく、総代会当日も組合員の特徴をとらえた企画で運営参加を身近に感じることができる工夫がされている。

活動概要

【日時】2018/05/24
【場所】高智館１階　食堂
【対象】総代

【内容】今年は、学生委員会内の学習会や総代向け事前学習会を新たに取り入れました。また総代・理事・オブザーバーを巻き込んだ休憩企画の実施しました。

▲総代・理事・学生委員の集合写真

企画背景　もっと深く、知ってほしい――

総代向けの事前学習を行ったきっかけは、前年度の総代からの「総代会参加したけど、何をしているか分からなかった…」という声でした。総代会とは総代自身が考えることが必要であるにも関わらず、実際は流れ作業のように議決に答えている姿勢が見受けられ、これでは駄目だと思い、総代会に向け真摯に取り組みました。

アピールポイント　総代と一緒に作り上げました。

昨年の総代の声を元に実現させた『総代向け事前学習会』を行いました。事前学習をしたことによって、総代会当日の進行がスムーズにいきました。
また、総代会の途中には休憩企画として食堂の小鉢メニューを考えてもらいました。考えてもらったメニューの一部は試食会を行ったのち、実際に食堂のメニューとして提供する予定です。

▲学生委員会内の学習会

組合員の反応　素敵なご意見、頂きました！

「難しそうな話だったけど分かりやすかった！」や「総代会では自分の声が直接届けることができると知れた！」という声がありました。
また、事前学習会をした結果、さらに総代自身が生協の取り組みを知るきっかけとなりました。

▲議案採決の最中

▲事前学習会にて、議案提案中

内容 ①　総代向け事前学習会

総代会までの一週間のお昼休みに総代を集め、まず初めにパワーポイントを使って総代全員へ向けた「総代会って何？」を説明しました。
次に当日参加できない総代向けに、「書面議決のための簡単な議案提案」を行いました。
総代会の前の一週間を使い、学生委員を除く総代60名（68%）の参加となりました。

内容 ②　Choice Of Vegetable

総代会当日の休憩企画として、28名の総代や理事の方、オブザーバーの学生委員に食堂の小鉢メニューを考えてもらいました。生協の運営に参加することを身近に感じてもらいたいということと、組合員にもっと野菜を採ってほしいという想いから実現しました。女子大ということもあり、当日は楽しくメニューを考案する様子がみられました。
この時に考えてもらったメニューの試食会を実現させて、総代との関わりを作るきっかけとしたいです。

▲実際にメニューを考えている様子

成果

総代向け事前学習会を行うことで、総代自身が総代(会)とは何かという事を知る機会になったと感じました。そのため総代会自体の完成度が上がったように思います。
また休憩企画を行ったことで、総代と関わる機会が作り出せたのではないかと思います。

課題

「書面議決で出来るのなら…」と言って、そっちを選んでしまう総代が多いので、総代会の実出席はまだまだ低い数値となってしまいました。
総代(会)と今後関わるような企画を行うのであれば、事後の事も先を見通して考えておくべきだと思いました。

取組みを参考にする上で気をつけること

以前は、実際の総代の声を聞かずに流れ作業のように行っていた総代会でしたが、今回積極的な姿勢で取り組んだことで、総代会自体が良くなったと思います。何事も実際の声を聞くという事が大切なんだと学ばせられました。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
大阪樟蔭女子大学生活協同組合　　専務理事：後藤　学生委員会当：大畑
TEL：06-6730-6577　　E-mail：seikyo@ex.bw.dream.jp

TOYAMA　ISHIKAWA　FUKUI　SHIGA　KYOTO　NARA　OSAKA　HYOGO　WAKAYAMA

［事例集］
04

滋賀医科大学生協
生協創立１５周年企画

活動の教訓ポイント
組合員から企画案を募集して、15周年の還元企画を行っています。また、年間を通して声を聴き、毎月実施しています！

活動概要

【日時】2018/04/16~2019/01/15
【場所】購買、食堂、本部（総代会、宣伝告知活動など）
【対象】全ての組合員

【内容】
生協創立15周年を記念して、「15周年記念誌」を発行するとともに、学休期間を除く毎月15日（閉店日の場合は前後の日）に「15」に掛けたセール企画を実施して、「15周年」であることを広くアピールしています。

▲150円カレーを楽しむ学生

企画背景 ＜生協創立15周年の感謝と還元を！＞

生協創立15周年を記念して、**組合員への感謝と還元を行う企画**として実施しています。企画としては2つあり、「毎月15日のセール企画」と「15周年記念誌の発行」を年間方針に掲げています。生協設立の経緯や、生協が出来る前と後でどう変わったか？生協の必要性を今の組合員の皆さんに、改めて知っていただくための企画でもあります。

アピールポイント ＜組合員と共に考える＞

4月の企画は生協職員側で考えたものですが、**5月、6月は理事会での意見で決め、それ以降の企画は組合員からの企画案を募集して決めています。**これまで**45通の応募**があり、当選者には賞品として、「A賞　うまい棒150本」「B賞　COOP100円菓子15袋」「C賞　大学生協オリジナルPET飲料（プーちゃん緑茶シリーズ）15本」のいずれかを選んでもらっています。とにかく、なんでも「15」に拘るようにしています。

▲企画の当選者

組合員の反応 ＜事前の問い合わせまで＞

これまでで特に盛り上がったのは「書籍15％OFF」と「150円カレー」です。小さな生協なので、こういう思い切った独自セールをすることがなく、**事前の問合せや、当日は早々にカレーを食べにくる方など、喜んでくれているという実感がとても感じられました。**

▲納涼企画のかき氷を持って1枚

▲教職員にも喜ばれています

内容 ①　＜毎月のセール内容＞

・4/16（月）「おにぎり15円引き」
・5/15（火）「書籍15％OFF」
・6/15（金）「150杯限定150円カレー」
・7/13（金）・17（火）「いちご（15）商品15％OFF」
「前期試験ガンバレ！納涼企画（イチゴのかき氷など）」
・10/15（月）「白米・十五穀米15％OFF＆みそ汁15円」
・11/15（木）「デザート祭り！15％OFF」

内容 ②　＜15周年をアピール＞

5月の総代会で「創立15周年記念誌」の簡易版（年表のみ）を配布し、総代の皆さんに「15周年」であることと、「記念企画セール」の意見を募集して**毎月実施すること**をアピールしました。その直前に「書籍15％OFF」というインパクトのある企画を実施したのも、総代会に向けての「15周年アピール計画」の一環です。

▲150円カレーは早くも完売！

成果

生協創立15周年を広く知って貰えたと思います。昨年度はようやく念願の累積赤字を解消することができ、これまであまり取組めなかった「組合員還元」が出来た事も大きな成果だと思います。また、7月企画については同窓会「湖医会」の協賛もいただき、納涼企画と合わせた2日間の企画とできた事も大きな成果だと思います。

課題

今回、「15年」という年度としての区切りはよくありませんが、生協設立に携わっていただいた教員理事、監事の方数名が、あと少しで定年になるという事情もあり、この企画を行いました。**今後、20年、30年の節目にも、記念の企画を実施出来ればと思います。**

取組みを参考にする上で気をつけること

初めは「記念誌」の発行と、それに注目してもらうためのセール企画をするという程度の案でしたが、理事会での意見を受けて「企画案の募集」という組合員参加を伴う企画になりました。**組合員が身近に感じる**ということが取り組むうえで大切なことだと思います。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
滋賀医科大学生活協同組合　　専務理事：若松　広之
TEL：077-548-2091　　E-mail：h.wakamatsu@u-coop.net

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

05

奈良女子大学生協

設立50周年記念シンポジウム・パーティ
テーマ『50年の思いをつなぐ』

活動の教訓ポイント

これまで奈良女生協が組合員・教職員・大学・地域と築いてきた関係が50周年の冊子作製やシンポジウムの開催などの取り組み表れ、関係を再確認している。また、組合員にヒアリングを行い、これからどういう生協にしていくのかという聞き取りを行うなど、組合員の声を大切にし、組合員自身の手で生協を作っていくというのを体現している。

活動概要

【日時】2018年9月8日(金)　11:00～12:30
【場所】奈良女子大学記念館
【対象】学生教職員、奈良の地域生協、奈良の大学生協、元専務理事、卒業生、県連、ブロック、連合、生産者など。
【内容】奈良女生協が2018年4月22日、設立50周年を迎えました。縁のある方々をご招待し、総勢100名規模で、シンポジウム（講演とパネルディスカッション）とパーティを行いました。

開会のあいさつ　理事長　西村雄一郎先生

企画背景

＜50年を節目としてさらに前進していくために＞

設立から今日まで生協を発展させてきてくれた先輩方の思いを引きつぎ、未来に向かって前進していくための機会にしたいと思いました。50年の歴史をみんなで紐解き、奈良女生協はなぜ満足度日本一と言われるユニークな生協になったのか？みんなで考えあいたいと思いました。

アピールポイント

＜教職員理事・院生理事・学生理事・生協職員で役割分担＞

50周年のスローガンは理事会で考え『みんなで考えみんなで創る奈良女生協～ひとりひとりの想いをカタチに～』としました。シンポジウムやパーティの内容、司会進行、準備、片付け、記念誌の編集、記念品のアイデアなど、理事会で役割分担してこの企画に取り組めたことは非常に意義が大きかったと思います。

シンポジウムの司会を担当した監事　三木健寿先生

アピールポイント

＜多くの方のご協力で記念誌を作成できたこと！＞

・学長とWINDYとの座談会が実現。
・約30名の教職員がメッセージとして“生協の思い出”を寄稿。
・佐保会（同窓会）や生産者の方もメッセージを寄稿。
・寮母さんと卒業生のインタビューが実現。

＜これまで奈良女生協に携わってこられたさまざまな方々の思いを知ることができたこと。＞

生協設立期から現代までのTOPICSを拾い出していきました。当時の理事会や学生教職員の活動や思いを知ることができました。

瀧さんと藤澤さんの発表シーン

内容 ①

＜シンポジウム・第1部講演会＞

①元学生理事の瀧さんより、設立運動の機関紙『生協を私たちの手で』を読み解く。
②元専務理事横山さんより、70-80年代の生協近代化について。
③卒業生の多良さんより、多くの人のつながりの中で実現したベジサンド開発を。
④WINDYの藤澤さんより、現代のWINDYの活動、WINDYの強みの発表。

内容 ②

＜シンポジウム・第2部パネルディスカッション＞

私たちが未来に向かって何を大切にしていくべきかを考えました。
組合員と生協職員との顔の見える関係、自分たちで生協を創っていくこと、願いの実現に果敢にチャレンジしていくこと、効率化ばかりではなく、手書きPOPやNananaなどのアナログな部分の大切さなどがパネリストから発言されました。
まとめのあいさつとして、学生の生活を支えるためには、生産者、教員、保護者、生協関係者、さまざまな方とのつながりが必須だということ。ひとりひとりが思いや願いを持って生協に参画してほしいとうことが語られました。

パネルディスカッション風景

内容 ③

＜記念パーティ＞

司会進行は理事の附属中等教育学校吉川先生。
学長ごあいさつ、副学長カンパイのご発生、ご祝辞として、県連会長、連合中森専務、学生生活課長、附属中等校長。元専務理事の粟飯原さんと竹内さんのスピーチ、文学部山辺先生よりケーキの差し入れ、WINDYによるクイズ大会とモザイクアート発表。最後のあいさつは監事の篠田先生。

成果

50年を振り返る中で、生協は自分たちで創るものだという原点を知るよい節目になったこと。参加者とともに奈良女生協について考えるよい機会になったこと。
今後はビジョンと中期計画をみんなで創っていきたい。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
●●大学生活協同組合　専務理事：★★　学生委員会●●担当：★★
TEL：　E-mail：

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

06

奈良教育大学生協
夏　祭　り

活動の教訓ポイント

奈良教育大学生の生活を考えたうえで、必ず関わってくる「実習先」「地域」という大学とは違うコミュニティとの関係を、日頃の感謝を届けるという想いで、向上させることができました。

活動概要

【日時】2018/07/21
【場所】奈良教育大学、生協食堂付近
【対象】地域や付属小学校の子どもたち

【内容】
日頃お世話になっている子どもたちに向けて、夏祭りを開催しました。食事や遊び、ステージ企画など、様々な面で子どもたちに楽しんでもらいました。

企画背景　＜組合員の感謝を形に＞

ここ数年開催している夏祭りを今年は、地域の子どもたちに向けたものにしました。日頃から、教育実習や教育系ボランティアなどで、子どもたちのお世話になっている組合員が多くいます。その組合員を代表して、彼らに恩返しができたらという想いで、今年も開催に至りました。

アピールポイント　＜楽しさ盛りだくさん！＞

学生委員は、フード、ステージ、アミューズの三つの班に分かれて、それぞれ食事、舞台、遊びの企画の準備を行います。その班の中でもさらに分割し、少人数で一つの企画を確立します。学生委員約70名と、大学の規模から考えて少なくない人数がいるからこそできますし、たくさんの楽しめる場所があるのもポイントです。

組合員の反応　＜来場者の反応＞

今年は情報宣伝に不備が多く、来ていただけるか不安でしたが、当日は多くの親子が来てくださいました。ステージの企画に合わせて動いたり、遊びブースではしゃいだりしている子どもや、それを見て微笑んでいるご両親の様子もすごく印象的でした。

内容 ①　＜ステージ企画＞

ステージ班の企画は、たくさんの人が行きかう〇×クイズ、全員が参加できる旗揚げ、ユニバのチケットなど豪華景品が当たる抽選会でした。また、他団体発表として、ウインドアンサンブルによる吹奏楽や、軽音楽部によるライブなどを行いました。どれも大いに盛り上がったと思います。

内容 ②　＜アミューズ企画＞

遊びブースは、スーパーボールすくい、輪投げ、スパイの疑似体験ができるスパイ24時、ボウリング、もぐらたたきの5種類でした。どのブースにもおおむね常に列ができている大盛況で、子どもたちも楽しそうにしていました。

成果

方針としていた、自分たちも楽しんで子どもたちにも楽しんでもらい、組合員の感謝の気持ちを学生委員が代表して形にすることができたので、とてもよかったと思います。
また、1回生が企画を通して学生委員の仲間や先輩と仲良くなれたので、次以降の企画に繋がる意味でGOODだと思いました。

課題

組合員に、還元されているという実感を持ってもらいにくい点が一番の課題だと思います。子どもたちへの感謝が還元活動になっているのか、疑問を持つ組合員もいるでしょう。そういった組合員や、実際にボランティア活動をしている組合員も巻き込んだ夏祭りにできれば、よりよい企画になると思います。

取組みを参考にする上で気をつけること

今年の企画の主な対象が、組合員でなく地域の方々ですので、失礼のないように気を配りました。近くの学校へビラを配ったり、大学周辺のお宅に騒音に関するお願いをして回ったり、そういうところはしっかりと考えなければならないと思います。また、子どもの安全を確保して、楽しんでもらえるような企画作りが大切だと思います。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
奈良教育大学生活協同組合　　専務理事：石間

TOYAMA　ISHIKAWA　FUKUI　SHIGA　KYOTO　NARA　OSAKA　HYOGO　WAKAYAMA

［事例集］

07

京都経済短期大学生協

同志社女子大生協店舗見学・大山乳業フェアの取り組み

活動の教訓ポイント

学生委員会がなくても、学生理事・職員が協力し他大学生協から学び、自大学生協の活動に活かしている。

活動概要

【日時】2018/10/23
【場所】同志社女子大学
【対象】経短生協の１回生理事・パート職員・店長

【内容】
大学の創立記念日が10月23日。休講となるため、それを利用して、毎年、他大学生協の見学に行っています。今年は新装なった同志社女子大の店舗（今出川）に行きました。

▲ショップを見学中

企画背景　他大学生協を見て、自大学の生協を考える

京都経済短大生協には学生委員会はありません。そのかわり学生理事が店舗活動への協力や新入生への生協紹介パンフの作成等を行っています。短大ということもあり、他の大学との交流も難しいなかで、他大学を見学する機会を作ろう、見聞を広げようと続けている企画です。

アピールポイント　実りある見学とするために

・訪問先の生協にお願いして、最初に生協や店舗の紹介や説明を受け、見るべきポイントを明確にしてから見学。
・生協職員だけでなく、学生委員からの説明や交流も組み込む。
・項目を記載した感想文用紙を準備し、見学の最後に記入して、訪問先の生協の皆さんにお礼の意味を込めてコピーをお渡しする。
・感想文を理事会できちんと他の理事たちに報告している。
・1回生理事が中心だが、今回は新採パートさんも参加。

▲アンケートを書く

内容　感想＝大きい、きれい！

同志社女子大の心和館店舗は、今年、改装してオープン。キャンパスショップと食堂が地階のワンフロアにあります。
当日は、最初に同志社生協の小島専務補佐、関本店長から説明を受けたあと各自自由見学。学生の皆さんのお昼休みとなる前に参加者全員で心和館食堂の食事をいただきました。
店舗見学することで、商品配置の工夫や大学生協の店舗だからこそを感じることができました。

▲食堂の様子

▲並んだ大山乳業の商品

大山フェア　初めて取り組んだ！

経短生協の組合員は450名、店舗は食堂がメインのごく小規模の生協です。食堂ホールの壁面に冷蔵ショーケースや商品棚を置いて、購買系の商品を提供していますが、置けるアイテム数も限られるため、大山フェアは取り組んできませんでした。
今年、1回生理事4名全員が「大山訪問研修」に参加！それ受けて今年初めて大山フェアに取り組みました。

開催中！　学生理事も協力

フェアには学生理事も協力しました。店長作成の看板とあわせて学生理事がポスターを作成。
看板には、大山訪問研修で学んだことをたくさんつめこみ、組合員に大山乳業製品の良さを伝えることができました。
その結果、たくさんの組合員に購入してもらうことができ、組合員の人気もあり、フェアの期間を予定より延長し、開催しました。
学生理事は自分のゼミを活かし、かわいいデザインのポスターを作成しました。

▲学生理事作成のポスター！

成果

ふだんは置いていない大山乳業の製品を組合員に宣伝し、提供することができました。大山乳業と大学生協は40年もの産直の歴史を重ねてきましたが、今回、経短生協のその一翼を担うことができたことは大きな成果だと思います。
また、他大学生協訪問は、学生理事・職員が一緒に見学することによって自分たちの生協を考えさらに良くしていこうという想いが生まれました。

課題

京滋奈良エリアの中では経短生協以外、短大の生協はなく、また学生委員会がないこともあいまってなかなか連帯活動の中に入りにくい状況です。
今回のような他大学生協訪問などを通じて他生協と交流し、少しでも自大学生協の組合員のより良い生活を実現できるように発展させていくことが今後の展望です、

取組みを参考にする上で気をつけること

他生協見学の際には、事前の許可を得て行うことが大事です。説明を受けるなどして、その生協の歴史や状況を知ることで、深い学びにつながります。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
京都経済短期大学生活協同組合

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

08

京都工芸繊維大学生協
イ チ オ シ 商 品 川 柳

活動の教訓ポイント

・「これ便利！という組合員の想いから「共感」が広まる取組！
・学生と職員で「身近な」生協店舗作り！

活動概要

【日時】2018/06/18~27(応募期間)、07/02~13(発表)
【場所】KIT SHOP(生協店舗)内
【対象】組合員全員
【内容】**イラスト**と**川柳**で商品を表現してもらいました。作品はKIT SHOPの特設ブースに設置し、企画終了後には商品のポップとしても掲示しました。
入賞者には生協電子マネーチャージ券などのプレゼントも行いました。**応募作品総数は68通**になりました。

企画背景　組合員に身近に感じてもらえる店舗、生協学生委員会に

KIT SHOPで「買う」という行為だけでなく、組合員としての「想い」を届けることができる場を提供することで**KIT SHOP、生協学生委員会をより身近に感じてもらえるようにしたい**という想いから企画を実施しました。

アピールポイント　組合員が運営に参加！

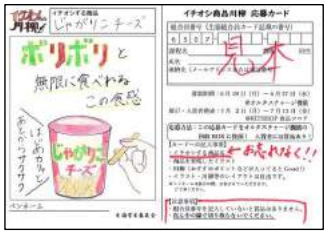
生協店舗の商品を通して、**組合員の想いを他の組合員にも伝える・広げる**という企画を行うことができました。
普段は生協店舗を利用する側の組合員も、自分の好きな商品について応募することで、**運営に参加する**ことができました。組合員同士の協同を実現できた企画になったと思います。
（余談）上記ロゴは、上下をさかさまにすると「No.1」になります。すごい！

▲企画で用いた情宣物

組合員の反応　SHOPがより身近に！

応募総数が68通と、予想を超える応募がありました。**組合員の積極的な運営参加につながりました。**
また、展示期間に展示場所を訪れると、作品をじっくり眺めていた人もいたため、**応募者以外のSHOPの利用推進**につながるとともに、SHOPをより身近に感じてもらうことができたと思います。

▲受賞作品



▲応募期間に掲示した作品見本

内容 ①　イラストと川柳の募集

06/18~27の間にイラストと川柳の募集を行いました。**見本を置くことで、応募しやすいよう工夫をしました。**
また、応募期間終了後は学生委員が入賞作品を選考しました。「大賞」「イラスト賞」「川柳賞」「アイデア賞」「佳作」の五つの賞を用意し、展示期間に向けた準備を行いました。

▶受賞作品の展示

内容 ②　入賞作品の展示と景品受け渡し

07/02~13に入賞作品の展示と景品の受け渡しを行いました。
入賞作品はSHOP食品フロア内、**展示を見た人が商品をすぐ手にとれる場所に設置**することで、SHOP利用者の関心も集まりました。
入賞者への景品として「大賞」受賞者に組合員カードチャージ2,000円などを渡しました。
また、展示期間終了後も職員さんが作品をPOPにして商品棚に展示してくれていました。職員さんとの連携により、**企画後のSHOPの利用推進**につなげることができました。

成果

応募総数68通と、予想を上回る応募がありました。組合員に実際に声を届けてもらうという点で、**協同組合らしい企画**ができたと思います。
また、結果発表ののちの入賞作品の商品の売り上げも上がったため、**組合員により身近に感じてもらえる**企画になったと思います。

課題

組合員から作品を集めるという企画内容の性質上、企画の感想が聞きづらいという点があります。実際、今回は企画後の参加者の声を聴くことができませんでした。
組合員に応募してもらう形の企画では、**事後の参加者の感想、要望が聞き取れるような工夫**があればよりよくなったと思います。

取組みを参考にする上で気をつけること

店舗の企画をやるうえで何よりも大切なのは、**学生委員と生協職員さんとの連携**です。実際、この企画において作品をポップにして掲示してくれたのは職員さんなので、学生委員と職員さんの関係を大事にすることで、さらによりよい企画になると思います。職員さんと連携することでよりよい店舗づくりにつながるので、**企画に悩んでる人は職員さんに相談してみましょう！**

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
京都工芸繊維大学生活協同組合　専務理事：林　学生委員会店舗委員長：西山
TEL：075-781-5359　E-mail：kitcoop.gi.seikyo@gmail.com

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

09

近畿大学生協東大阪キャンパス 七タグランプリ ～あなたの願いは何色？～

活動の教訓ポイント

短冊という季節に合ったものを使って、なおかついくつかお題を用意することで誰でも参加しやすいように工夫されており、ニーズ収集と組合員とのコミュニケーションを同時にしている企画です！

活動概要

【日時】2018/7/3（火）~10（火）（土日は除く）
【場所】近畿大学東大阪キャンパス
【対象】東大阪キャンパスに通う学生・教職員
【内容】期間中、2か所に笹と短冊を設置し、カテゴリー別に色分けされた短冊に願いを書き、笹にかけてもらう。また、各日の5限終了後にその日集まった短冊を回収・集計した。結果、**6日間で計645枚**もの願いが書かれた短冊が集まった。

企画背景

「もっと組合員に季節感を楽しんでほしい！」

例年、7月に入ると学生はどうしても期末試験のための勉強にとらわれてしまったり梅雨による雨の日の連続で「夏」という季節をあまり楽しめていないように感じます。そこで、買い物の後の**数分でも夏という季節をより楽しんでもらいたい！**という思いから実施しました。

アピールポイント

今回からの新しい試み！

この企画は、前々から恒例行事として毎年行ってきましたが、今年から新しく2つの試みを実施しました。

1つ目は、願いの種類によって短冊の色を分けました。これによって、近畿大学の学生や教職員の願いの傾向や種類をより細かく分析できるようになりました。

2つ目は、集まった短冊の中でも特に個性的だったものをいくつかの部門に分けて発表しました。そうすることで、学生委員会だけでなく学生にもみんながどんな願いを持っているかを知ってもらえるようにしました。

◀企画宣伝用のポスター

組合員の反応

組合員の日頃の願いを知った！

今回の企画を通して、普段思ってはいてもあまり言葉に表す機会がない、そんな組合員に自由に各自の願いを書いてもらう機会を設けることで、組合員は夏・七夕という特別感を楽しむために、学生委員会は組合員の願いを聞くための良い機会となりました。結果、事後情宣として設置した発表用の立て看板には多くの組合員が興味を示し、学生でも人によってさまざまなニーズがあることを組合員に知ってもらうことができました。

▲事後情宣として掲示した立て看板

▶6色に色分けした短冊

内容 ①

日頃の願いを形にする

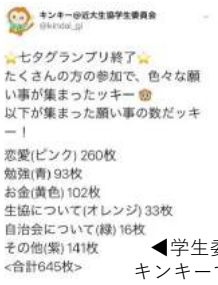
まず、期間中に生協コンビニ前と経営学部自治会前に笹と短冊を設置しました。そして組合員には、ピンク(恋愛),青(勉強),黄色(お金),橙(生協への要望),緑(自治会への要望),紫(その他)の６つに色分けされた短冊に、それぞれの願いを書いてもらい、笹にかけてもらいました。

内容 ②

生協の取り組みに触れる

そもそも今回の七夕企画の目的の一つに、普段学生委員会が職員さんと協力して設置している「一言カードボード」の認知度向上がありました。そのため、今回の短冊の中でも生協への要望である橙の短冊に書かれた願いは、普段の一言カードと同様に扱い、返信をしました。

また、普段は生協コンビニの角に設置している一言カードボードを期間中はいつもより目立つ位置に設置し、期間中でなくてもいつでも生協に要望が出せることを知ってもらえるようにしました。



◀学生委員会のTwitter、キンキーでも結果をお知らせ

成果

今回は、例年とは違い２つの新しい試みもしたこともあり昨年よりは合計枚数は減ってしまいましたが、短冊をカテゴリー分けしたことによって昨年と比べて集まった願いに幅が広がり、よりバラエティに富んだ組合員のニーズを知ることができました！

課題

今回の企画では、七夕である7月7日以降も企画を続けましたが、七夕以降はそれ以前と比べて集まった短冊の数が大幅に減ってしまうという事態が起きました。このことから、組合員のニーズは常に変わりゆく可能性を持っていることを念頭に置いたうえで企画の準備・運営をするべきだったと感じました。

取組みを参考にする上で気をつけること

この取り組みから生かせることとして、七夕以外にも1年の間には季節感を感じられるイベントがたくさんあり、七夕だけでは夏に限定されてしまうので他の季節にも同様の企画をすることでより組合員生活を楽しんでもらえる、ということです。加えて、企画を通して会話をせずとも組合員同士が互いに普段何気なく感じていることを知る機会を設けることも可能であり、よりよい組合員生活につながる、という点が挙げられます。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる

大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
近畿大学生活協同組合　専務理事：入船行由　学生委員会担当：蒔田圭輔
TEL：06-6725-3311

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

10

大阪経済大学生協大隅キャンパス
GI ＆ K's Kitchen Café

活動の教訓ポイント
生協食堂を盛り上げるため、学生委員会と生協職員が綿密に連携して、期間限定でカフェメニューを提供しました。

活動概要

【日時】2018/11/5～2018/11/16　3,4限
【場所】生協食堂 K's kitchen（大阪経済大学学生会館１階）
【対象】

【内容】ケーキとドリンクのセットを250円で販売する。K's kitchenの利用者の増加やケーキのおいしさを伝えることを目指す。大経GIとして1から考えた企画。

▲カフェセット(生チョコモンブラン)

企画背景　生協食堂 K's kitchenをどんな時間帯でも活気のある場所に…

大阪経済大学では、昼食時以外の食堂利用客が少ない。
空きコマの時にゆっくりできる場所が限られている。
大経GIのことを知らない人が多い。

アピールポイント　職員とGIの連携！

大経GIは部会を行う際には、ほとんど毎回専務さんにも部会に参加していただいています。さらに、企画の準備や開催当日も私たちの企画の様子を見に来てくださいます。GI側の意見だけではなく専務を含む職員の方々の意見も強く取り入れることができています。今回の企画では、専務さんだけでなく、食堂の職員の方にも部会に参加していただきました。**商品の仕入れや、価格設定、また、曜日ごとの食堂の利用者の推移などの情報も職員の方を通して取り入れる**ことができました。**今回の企画は特に職員の方たちとの連携があってこその企画**だと思います！

▲専務さんとGI(カフェ利用当日)

組合員の反応　さまざまな声がありました！

アンケートには、美味しかったですという感想が多くありました。要望や意見として、ケーキや飲み物の種類を増やしてほしいという意見が多くありました。中には、このカフェセットで初めて生協のケーキを食べた人もいました。

▲当日の様子

▲1週目のケーキ

内容 ①　当日までの流れ

10月に開催された大学生協コーヒーの試飲会の際、11月のカフェの宣伝の広告を配布しました。当日のGIや職員の方の負担を減らすため、ドリンクはセルフサービスにしました。さらに、この企画についてのアンケートも行いました。当日は、学生だけでなく、大学周辺に住んでいる方なども利用してくださり、GIやこの企画について興味をもっていただくことができました。

内容 ②　当日は、シフトを組んでGIも参加

カフェ期間中、GIもシフトを組んで参加しました。シフト中、K's kitchenで働く職員の方と接する中で、ケーキや通常メニューの人気メニューや今回の企画、GIが発足するまでの食堂での取り組みについて教えていただき、コミュニケーションをとることができました。学生事務局の方も専務さんもお忙しいなか、参加していただきました。カフェを企画した人たちだけでなく、**GIに関わる一人一人が、責任を持って少しでもこの企画に携わること**ができました。

▲メニュー作成

成果

GIや組合員である学生ができるだろうと思っていることが実際に働く職員の方々にとっては難しいこともありました。組合員からの意見を反映させることはもちろん、そこに携わる**GIや職員の方の意見も反映しなければならない**ことを強く感じました。そして、その実現のためにも**職員の方との連携を大切にする**という大きな成果を得ることができました。

課題

大経GIでの大きな課題として、**宣伝と人員不足**があります。GIの認知度が低いこともありSNSでの情報拡散はあまりうまくいきませんでした。さらに人員不足という面ではカフェ期間中に均等にシフトに人員を割くことができませんでした。今回、初めての企画で多くの改善点がありましたが、学びや、良かった点も多く見つかりました。

取組みを参考にする上で気をつけること

販売期間や時間、商品の仕入れ、価格の設定等、職員の方々にたくさん協力していただきました。シフトを組んでいてもGIのメンバーが一人も入れない時間帯がありました。その時も職員の方々にも協力していただきました。**職員の方々との良い関係が築けている**からこそ実現できた企画だと思います。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
大阪経済大学生活協同組合　専務理事：今石　学生委員会：奈良川
TEL：06-6379-2230　E-mail：daikei.gi@gmail.com

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

11

兵庫県立大学生協 姫路工学・姫路環境人間・播磨理学キャンパス

アイス頂上決戦！！

活動の教訓ポイント

現状をよく分析し、一番組合員の利用しやすい店舗というフィールドを使って多くの組合員を巻き込んだ企画を作りあげている

活動概要

【日時】2018年6月21日～7月13日
【場所】各キャンパス大学会館 書籍・購買部
【対象】各キャンパスの組合員
【内容】各キャンパスで代表アイスを決め、売り上げ個数をキャンパス間で競った。アンケート期間は、3キャンパスで合計**450人**以上が参加し、対決期間では、**250個**以上のアイスを売り上げた。

▲企画概要のポスター

企画背景

キャンパス間での格差をなくす！

県大GIの企画はほとんどが姫路工学キャンパスで行われており、播磨理学・姫路環境人間キャンパスの組合員は生協店舗での企画に参加できる可能性が少ない。この現状を踏まえ、3キャンパス合同で企画を行うことで、『自分たちのキャンパスは自分たちで盛り上げる』という意識を持ってもらい、今まで以上に生協店舗に興味関心を持ってもらう。

アピールポイント

対決は2段階！

「ただ売り上げ個数で対決するだけじゃ面白くない」という店舗担当の熱い想いから、対決を2段階にすることにした。これにより、組合員が企画に参加できる機会が増えた。
また、自分が参加したことが結果としてわかるため、臨場感を感じることができた。
夏にアイスに関する企画を行うことで、季節感を味わってもらうことができた。店舗の企画は、企画の幅が広いため、組合員に常に新鮮味を持ってもらえることが特徴だと改めて感じるきっかけとなった。

▲アンケート期間のポスター

組合員の反応

組合員の積極的な参加！！

アンケート期間では、用紙の枠をはみ出すほどシールの量が多く、組合員が積極的に参加してくれた。
初の3キャンパス企画として、面白さを感じてもらえた。
組合員からは、「このアイスが好きだから絶対に勝ってほしい」など、企画に興味を持ってもらえていることを感じることができた。
生協購買部でアイスを購入できることを組合員に知ってもらえた。

▲アンケート期間の模造紙

内容 ①

アンケート期間

アンケート期間（6月21日～6月27日）では、5種類のアイス（MOW・PARM・アイスの実・チョコモナカジャンボ・ビスケットサンド）から各キャンパスの代表アイスを決定した。模造紙に組合員がシールを貼れるようにした。
シールは一人3枚とし、貼り方のバリエーションを増やした。MOW・PARM・アイスの実が、姫路工学・姫路環境人間・播磨理学キャンパスの代表アイスとなった。

内容 ②

対決期間&還元期間

各キャンパスで決まった代表アイスを、対決期間（7月2日～7月6日）の間、売り上げ個数で対決させた。その際に、単に売り上げ個数で対決させると、キャンパス人口が多いキャンパスが勝利してしまうため、各キャンパスの生協購買部利用者1000人に対する売り上げ個数の割合で対決させた。
対決の結果、姫路環境人間キャンパスの代表アイス（PARM）が優勝した。
翌週12日・13日に、姫路環境人間キャンパスで代表アイスを15%還元で販売し、他2キャンパスでは5%還元で販売した。

▲対決期間のPOP

成果

初の3キャンパス合同企画として、キャンパスの一体感を感じることができた。
店舗の企画らしく、季節感を感じることができる企画であった。
対決を2段階にすることで、組合員により長い期間企画に参加してもらえた。
還元をICカード決済のみとしたため、ICカードの利用率を向上させることができた。

課題

対決を2段階にすることで奥深い企画となったが、組合員目線で考えると、少し複雑でわかりにくいと感じた。
POPやポスターの掲示期間が短く、情宣が十分にできていなかった。
3キャンパスでの連携がうまくいなかったこともあり、途中結果を出すことができなかった。

取組みを参考にする上で気をつけること

キャンパス間や担当内での連携は必要不可欠である。企画のかなり前から入念な打ち合わせを重ねることがかなり重要になってくる。また、初めて行う企画は、通年企画と違って組合員が企画に対しての理解がないので、POPやポスターでの情宣で簡潔にわかりやすく企画概要を伝えることを意識して作ってほしい。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
兵庫県立大学生活協同組合　専務理事：末松　学生委員会平和担当：宗石桃佳
E-mail：uhcoop@live.jp

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
12

神戸市外国語大学生協
大　山　フ　ェ　ア

活動の教訓ポイント
組合員と直接交流しながら、POPやチラシといったものに工夫を凝らすことで「なぜフェアを」という部分をしっかりと周知することができており、組合員とともに実感することができている活動です！

活動概要

【日時】2018/10/1～31
【場所】神戸市外国語大学生協購買部
【対象】組合員

【内容】鳥取の大山乳業の商品を複数割引、1週間にわたる大山コーヒー試飲会の実施、大山乳業商品のPOP作成、大山乳業と大学生協の歴史をまとめたチラシの配布、大山フェアに関連した情報をまとめたムービーの放映

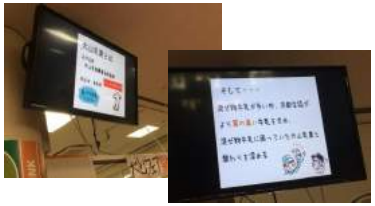
▲写真の説明を入力

企画背景　大山乳業の良さを知ってもらう

今年は前期にも大山フェアを行ったため、「大山」という名前に聞き覚えがある、という組合員は多かった。しかし、**「なぜ生協が大山乳業を推しているのか？」**という点はまだ説明不足だったという反省点があった。そのため今回はその「なぜ」をなくしてもらうことに力を入れ多くの工夫を行い、前期より力を入れた活動を行った。また前期の反省を踏まえ、「フェア」をより分かりやすくした。

アピールポイント　動画放映に初挑戦！

「なぜ生協が大山乳業を推しているのか」を明確にするため、前年度から配布していた大山乳業と大学生協の歴史を紹介するチラシに加え、**大山乳業関連情報をまとめた動画を作成し店舗（食堂）前で人の多い時間帯に放映**した。映像資料を外大GIで作成したのは初めてである。内容は大山乳業の概要、生協との歴史、商品紹介、フェア紹介、試飲会予告であった。約2分間の動画をリピート再生した。店舗・食堂前という非常に人の多い場所で放映したため、チラシ配布のみのときより多くの組合員が見てくれた。


▲放映しているようす

組合員の反応　組合員が良さを実感してくれた

大山フェアは毎年行っているが、今回は動画放映など新しい取り組みもあったこと、試飲会に大山コーヒーを用いるなどしてより参加しやすい形にしたことなどの工夫も功を奏し、多くの組合員が試飲会に参加・大山乳業商品を購入してくれた。期間中、お昼すぎには大山コーヒーなどの大山商品が売り切れる、という様子も多々見受けられた。試飲会で**「大山っていいですよね！」**と言ってくれる組合員も見られた。また説明にも力を入れたため、**「だから大山なんですね（推してるんですね）！」**という声も聞けた。

▲今年運営が始まったInstagramでの宣伝

▲パッケージ投票も同時に行った

内容 ①　試飲会の形式をチェンジ！

今までは大山牛乳と他社の牛乳(生乳100％)を飲み比べしてもらっていたが、味の違いが分かりにくい等の問題があったため、エリアを参考に大山コーヒーと他社コーヒーの飲み比べに変更した。比較対象は購買で一番売れているものにした。結果例年より味の違いが分かりやすくなっただけでなく、**成分表を用いて大山コーヒーの良さを説明しやすくなった**。牛乳が苦手な組合員にも参加してもらえた。

内容 ②　大山乳業商品フェア

10月1日～31日まで生協購買部と協力して大山乳業商品の一部を割引し販売した(シュークリームほか)。またそれに関連してフェア商品のPOP、チラシ、卓上看板の作成なども行った。特に卓上看板は試飲会時会場に設置することで、試飲会に参加した組合員にスムーズに商品紹介を行えた。「前期はフェアであることが分かりにくかった」との購買部の意見を踏まえ、チラシを工夫するなどし、よりフェアであることを強調した。それらの工夫も功を奏し多くの組合員が大山乳業商品を購入。シュークリームが午前中で完売する日もあった。

▲POPはすべてGIが作成したもの

成果

試飲会は1週間（実質4日間）、GIの人数が確保できる時間帯のみと限られたなかで**100人以上の組合員が参加**した。試飲会後進んで大山乳業商品を購入する組合員が増えた。生協が大山乳業を推す理由を説明する媒体を増やしたため、より大山乳業の良さを深く理解してもらえるようになった。**大山乳業研修セミナーで学んだことを組合員にしっかり還元**することができた。

課題

映像資料の放映についてきちんと役割分担しなかったこと、個人のパソコンをつないで放映していたため担当になった者が忙しいとき放映ができない事態が起こったため、次回以降は担当をきちんと決めるべき。試飲会時に生協学生委員会（GI）の活動ということが分かりにくいと組合員から指摘を受けたため、看板に大きくGIと書くなど、GIであることを積極的にアピールすべき。

取組みを参考にする上で気をつけること

フェアを行う場合は生協購買部としっかり連携をとること（報連相）。なぜ大山乳業を推しているのか？どこがいいのか？ということを、しっかりとした理由と共に説明できるようになること。多くの大学が行っている企画であるため、自大学らしさをどのように出すか考えること。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
神戸市外国語大学消費生活協同組合　専務理事：衛藤昭二　学生委員会：与那覇
TEL：078-794-8191　E-mail：gaidaigi2016@gmail.com

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
13

立命館大学生協　衣笠キャンパス
京北田舎体験ツアー

活動の教訓ポイント

同じ京都市内にある京北地域と関係を築き定期的に京北フェアなども実施してきたが、組合員自身が現地に足をはこび、体験をすることで、自分たちが普段口にしている食の背景にある田舎の過疎の問題や、自分自身の健康について考える機会を設けている。また、普段触れることの無い農家と交流することで組合員自身の学びと成長につながっている。

活動概要

【日時】年2回の春と夏の田舎体験ツアー
（2018年は5／19、11／17）
【場所】京北地域、食堂、購買
【対象】組合員（学生、教職員）
【内容】年2回の田舎体験ツアーでは、芋掘り、そば打ち、餅つき、味噌作りの体験や調理実習、自然散策。フェアで掲示するPOP作り。
ツアー後1週間、食堂や購買で京北フェア。

▲ツアーの際に撮影した集合写真

企画背景　「京北の方の想いをくみ取り、組合員に届けたい！」

元々、生協学生委員は京北地域を拠点として活動しているゼミのサポートとして関わっていたが、昨年からゼミの活動がなくなった。そこで、新たにゼミの活動とはまた違った視点で企画を行っている。また、実は京北地域は大学と同じ京都市内にあるが、あまり知られていない。そこで、実際にツアーで京北地域を訪れることで、組合員に地産地消や食育、地域活性について考えてもらいたいという思いから実施した。

アピールポイント　大自然の中で、非日常を体験

自然豊かな京北の地と繋がることで、学生たちは自らの五感を使い多くの事に向き合うことができる。人の手で育てられた野菜のおいしさを味わい、心温かい人々の繋がりを感じ、地域の方から過疎化の問題などの生の声を聞く。

ツアーやフェアで多くの人に参加していただく事は、学生の食生活の改善はもちろんのこと、新たな人との出会いや価値観の違いを得られる場にも繋がる。さらに参加者一人一人の感想や意見を取り入れていく事で、企画の回数を重ねるごとにより良いものを作り続けている。

▲採れたての生野菜を食べている様子

組合員の反応　「つながり」が認知度向上に

年2回、春と秋に京北田舎体験ツアーを行い、ツアー後1週間は京北フェアを食堂や購買で行っているので組合員の企画に対する認知度はかなり上がってきていることをビラ配りなどの情報宣伝や参加申込状況から実感している。

また、ツアーに参加していただいた組合員からは、食育、地産地消を考えることができたという声や、また京北ツアーに参加したいという声、過疎化が進行している京北地域の現状を知り、それを解決するためにはどうすればよいかなどを考え、前向きに企画に参加する様子が見られた。

▲みんなで作ったそばで昼食！

▲炊飯体験で地産地消を実感！

内容 ①　京北田舎体験ツアー

組合員に京北の地に訪れてもらい、班に分かれて体験会を行った。田舎体験ということで内容は芋掘りやそば打ち、味噌作りといった普段経験することができない京北ならではのものだ。昼食後、組合員に京北についてもっと知ってもらうためにクイズ形式で勉強会を行った。組合員に実際に京北の地に訪れてもらうことで地域の方々と関わることの大切さ、新鮮な野菜を作ることができる環境が広がる京北の良さに気づいてもらうことができた。

内容 ②　京北フェア

毎回ツアー後には、京北の新鮮な旬の野菜をたっぷり使ったメニューを食堂で提供している。春の京北フェアは肉じゃがと豚の生姜焼きを提供した。今回の秋の京北フェアでは鹿肉を使ったシチューや芋餅を販売した。また、春のフェア時には、京北産のスイーツの試食会を行い、今回は購買で京北産のスイーツフェアを行った。

これらの購買や食堂でのフェアを通して、多くの人に京北の食材を使ったメニューを食べてみらい、少しでも京北の魅力を感じて興味を持ってもらえればうれしい。

▲購買で販売した京北産のスイーツ

成果

普段意識して野菜を摂っていなかったり、京北地域のことをまだよく知らない組合員に、大自然の恵みの中で採れた新鮮な食材を味わってもらうことで「食育」や「地産地消」について考えるきっかけを作ることができた。また、過疎化が進み、かつて栄えていた林業も衰退していることなど京北が抱えている問題についても考えることができた。

課題

年に2回ある企画のため、「つながり」というテーマを意識しつつもマンネリ化を防ぐために毎度どのように内容を一新していくかが課題。参加者には炊飯体験、フィールドワークなど様々な角度から京北について知ってもらい、何かを感じてもらうきっかけ作りをしていきたい。また京北の方々の想いをくみ取り、それらをどう伝えていくかというのも今後の課題である。

取組みを参考にする上で気をつけること

この取り組みはから教訓として生かせるポイントは、「学外組織と連携した企画の為、こまめな連絡や確認は欠かさない、協力してくださる方への感謝の気持ちを忘れないようにする」ということです。各大学での活動においても、キャンパス内だけでなく、周辺地域を巻き込んだ活動に挑戦してみてはいかがでしょうか。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
立命館大学生活協同組合　専務理事：酒井　　KIC生活店舗向上局長：松尾
TEL：075-465-8280　　E-mail：R_hitokoto@ritsco-op.jp

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

14

滋賀大学生協彦根地区キャンパス
友　　活

［活動の教訓ポイント］

学生委員会以外の団体とも協力しながら、新歓も兼ねて新入生の友達づくりをサポートできた点が教訓的。新入生も在校生も楽しみながら企画を実施できたこともアピールポイント。

活動概要

【日時】2018/04/02
【場所】滋賀大学彦根地区生協食堂
【対象】新入生

【内容】
新しく入学が決まり、新入生に友達づくりの機会を作る。様々なレクリエーションを通して仲を深めてもらう。

▲多くの新入生が参加してくれました

企画背景　新入生が友達づくりのきっかけをサポートしたい！

大学生となってから、様々なことに不慣れであろう新入生。その新入生の多くの悩み、不安の一つであろう「友達づくり」それを早いうちから在校生がサポートできればという思いから実施しました。

アピールポイント　少しでも距離を縮めてもらう！

推薦から後期試験までの入学試験に合格を果たしたすべての新入生を対象に試験の種類を問わず、参加が可能な企画です。入学式前に行うことで、多くの新入生が入学が決まって初めての顔合わせの機会を早めに作り上げることができました。

様々なレクリエーションと、合間に設けているフリーの時間を使って、参加してくれた新入生が友達づくりのきっかけを作ってもらえるよう努めます。また、新入生が在校生とも関わりあう機会も同時に作ることができました、

▲食堂内が参加者で埋まるほどでした

組合員の反応　楽しんで参加できた！

参加者からは「新しく友達を作れた」、「楽しかった」という声が多かったです。実際に多くの参加者がレクリエーションに楽しく参加している様子や参加者同士でLINEの友達登録のやり取りをしている場面がうかがえました。このイベントで知り合った友達と入学式に参加した新入生もいたようです。

また、在校生の組合員にもGLの協力を仰いでいたため、新歓のシーズン、自団体のアピールにもつながりました。

▲GLも楽しんでくれていました

▲背中の文字を前の人に伝達するレク

内容 ①　他を知れるレクレーション

参加者を８～１５名程度のグループに分け、二つのレクとフリーな時間を交互に作りました。ひとつは、あるお題に自分たちグループ内で最も当てはまるものを相談して選出し全体のマジョリティを合わせるもの、もうひとつは、予めひとりひとりに与えられたキーワードをそのワードを使わずに伝達していき、その早さを競うものです。会場内で盛り上がっている様子が伝わってきました。

内容 ②　新歓も兼ねて

新入生のサポートと同時に、在校生にとっては新歓のシーズンでの企画となっております。人員確保との二つの意味を兼ねて、一部の在校生にも、GLとしての参加をお願いしましました（新歓については一部の制限あり）。

GLとなった在校生も新入生と一緒になって楽しんでいた様子で、自分たちの団体のアピールができたともに、他団体とともに新入生と触れ合うなかなかない機会を味わえたと思います。新入生だけでなく、在校生も巻き込むことができました。

▲終了後一部団体は新歓、ほかの団体にその警備などの協力も要請します

成果

午前・午後の部と２つに分け、合わせて366名の新入生が参加してくれました。参加してくれた在校生のGLも含め、多くの組合員に楽しんでもらえ、新入生には、一つの友達づくりのきっかけにしてもらえたと思います。新入生中心の企画でしたが、在校生を含め、多くの組合員を巻き込んで実施できました。

課題

参加してくれたか新入生向けにアンケートを記入してもらっていましたが、混雑などの関係で回収数と参加数とで差が出てしまいます。集計方法を紙だけでなく、QRコードで受け付けるなどして、回収数を増やしたいところです。また運営面で、グループ作成やレクリエーションの時間配分に難が出たことなどが課題です。

取組みを参考にする上で気をつけること

多くの新入生の参加が予想されたので、GLを他団体に要請しました。これには、事前の連絡、準備が欠かせません。また、新歓のシーズンで大学や新歓を統制している団体との新歓に関する規約を守っての企画も必要となります。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
滋賀大学生活協同組合　専務理事：柳澤克哉　学生委員会CIEL担当：松原裕輔

TOYAMA　ISHIKAWA　FUKUI　SHIGA　KYOTO　NARA　OSAKA　HYOGO　WAKAYAMA

［事例集］

15

大阪電気通信大学生協
新 入 生 歓 迎 祭 2 0 1 8

活動の教訓ポイント

他の団体との連携をはかるだけでなく、新歓企画に向けてGIの想いを伝え、何度も練習を重ねることで完成度を高めた。
恒例企画でありながら、今年ならではのこだわりを取り入れ、新入生の満足度も高い企画。

活動概要

【日時】2018/03/14・15・21・22
【場所】大阪電気通信大学　寝屋川キャンパス
　　四條畷キャンパス
【対象】2018年入学予定新入生
【内容】新入生を対象に友達作りや大学生活の不安などを色々な企画を通して解消していく。一日の参加者人数は60人を想定しました。

▲企画当日の集合写真

企画背景　新入生のために・・・

新入生は入学後の大学生活に対して不安を抱いており解消してあげ、先輩自身が経験した大学生活の体験や知識を新入生に伝えることで、大学生活を豊かなものにしてあげたいという想いからこの企画を実施しました。

アピールポイント　新入生第一

大阪電気通信大学では新入生が少しでも不安を解消するために新入生に対するサポートを徹底しています。例えばお出迎えという大学の最寄駅の改札から新入生歓迎祭の会場まで先輩が案内します。また、班構成は新入生6人に対して2人の先輩が付くことにより新入生一人ひとりの変化に気が付くことができます。その他にもスクランブルという役職を設置し、トイレまで新入生を案内したり、企画自体の準備や盛り上げなどを行います。

▲班で記念撮影

組合員の反応　知らない自分になれました

新入生歓迎祭後に新入生に対してアンケートを取りました。そこに書かれていた感想は「他人とあまりコミュニケーションをとったことのない自分がここまで楽しめるとは思わなかった。」「最初は知らない人達だったけど、色々な企画を通じて知り合うことができて楽しかった。」などの意見がありました。
アンケートには良かった意見だけではなく、もっとこうしてほしかったなどの意見が書かれており、次への参考となった！

▲企画中の様子

10:00～	開会式	14:05～	企画2 班外
10:20～	アイスブレイキング	15:05～	休憩
10:45～	休憩	15:15～	企画3 全体
10:55～	企画1 班内	16:40～	閉会式
11:55～	お昼ご飯＆学校探検	17:00～	フリータイム
13:35～	学科紹介		

▲当日の流れ

内容 ①　企画の流れを考える

当日の企画の流れでは最終的に会場全体で新入生から盛り上がってくれることを目標にしました。大きな企画は３つあり、企画１では班内のメンバー同士のアイブレができる内容にしました。企画２では違う班の人たちと交流できるようにし、最終の目的にスムーズに持っていけるように構成した。

内容 ②　他団体との関係

大阪電気通信大学GIは全員で７人と少なく多くの他団体や一般スタッフに協力してもらい全員で合計49人で企画を運営していました。
一般スタッフとはどこの団体にも所属していない学生に募集を募ってきてくれた人たちです。
協力をしてもらうにあたり、グループリーダー・サブグループリーダーの練習などを本番に向けて行います。

▲企画当日のスタッフ挨拶

成果

他団体と協力を行うことにより、普段から連携がとりやすくなりました。また、新入生へのサポートを手厚くした結果がきちんと新入生の**満足度95%**につながったのではないかと思います。

課題

毎年同じような概要で新入生歓迎祭を行っておりその年に合った形のものを開催していきたいと思います。
また、去年のアンケートの結果などを活かせていなかったのでしっかりと活かせるような仕組みを作っていきたいと思います。

取組みを参考にする上で気をつけること

留意点として各大学によって新入生の特徴や現状などがあり、その特徴にや現状ついて理解しそれにあったものを新入生に提供していかなければならない。また、自分が行おうとしている企画は誰のために、何のために行っているのかを頭の片隅に置いておくだけでもその対象にとってより良い取り組みを行えるようになると思います。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
大阪電気通信大学生活協同組合　専務理事：前田
E-mail：gi@kucoop.jp(学生委員会)

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
16

神戸大学生協
RIDE(一泊二日新歓イベント)

活動の教訓ポイント

先輩と2日間一緒に過ごすことで新入生同士楽しみながらも大学生活を実体験から伝えることができる。
様々な人たちの協力で新入生を迎えられている。

活動概要

【日時】2018/3/28～29
【場所】神戸大学
【対象】新入生

【内容】一泊二日を通して新入生の不安解消を行うイベント。

▲イベントのロゴ

企画背景　＜新入生の大学生活への不安解消＞

新入生は不安を抱えている。
＊不安…履修、１人暮らし、バイトなど大学生活に関する不安＋友達が出来るかどうかなど人間関係に関する不安
これらを解消してもらうための企画です。

アピールポイント　＜神大GIで一番大きい企画＞

約半年の期間をかけて作る神大GIで一番規模の大きい企画です。本番のみではなく、リハーサルや2回の説明会などを行い、入念に企画を作っていきます。
ポイントは何と言っても、一泊二日。**大学だけでなく、近くの宿泊施設や銭湯にもお願いして協力していただいてます。現役部員だけではなく、引退したOBOG含む、約80人規模の協力のもとできるイベント**で、その歴史は20年以上続いてます。毎年、このイベントきっかけで入部し、次年度の一泊二日イベントを作る人も少なからずいます。

▲最大の盛り上がりを見せたゲーム大会の様子

組合員の反応　＜参加してよかった！＞

・学生団体がこんなに立派な企画を作っているんだって思って驚いた。
・今でも話すかけがえのない友達ができた。
・大学生活に対して不安が楽しみに変わった。
・来年、自分もこのようなイベントを作って、新入生に楽しんでもらいたいです。
・大学生活で一番の思い出ができました笑。
・素敵な人に出会えて、わくわくが止まらなくなった。

▲最後の集合写真

▲大学構内を巡っている様子

内容 ①　＜１日目＞

1日目は５つの班に分かれて、アイスブレイクするためのゲームを数個行い、食堂で昼食を食べて、六甲の町や神大でゲームをしつつ巡りながら、大学施設や履修などの大学生活に対する知識を楽しみながら得てもらいます。
そして、夕方は銭湯に行き、宿泊施設でみんなで鍋を囲んで触れ合います。

内容 ②　＜2日目＞

2日目は班を変えて、４つの班に分かれ、1日目とは別のメンバーで神大の別のキャンパスでミニゲームをしながら巡って、楽しんでもらい、昼食は自分たちで作って食べて、班で仲良くなってもらい、そのあとはこの一泊二日イベントの目玉である、ゲーム大会を体育館で班対抗で行って各チーム優勝を争って必死に頑張ります。
最後は食堂でみんなで立食パーティをして、各々自由に話してもらい、最後は互いに色紙を書きあってイベントを終えます。

▲ミニゲームを行っている様子

成果

アンケートで成果を確認すると、満足度・目的達成率は98％でした。友達作りができ、大学生活への不安を解消してもらうことにつながりました。
学生員回への入部者の半分がこのイベントに参加していることから、神大GIに対して好印象を抱いていたことが分かりました。

課題

参加者が定員割れしてしまいました。リハーサルなども行うので、部員の負担がおおきすぎることも課題に残っています。費用もかなりかかってしまいました。
また、企画を作るチームの負担もかなり大きくなってしまいました。

取組みを参考にする上で気をつけること

・施設の関係など、職員さんとの連携も重要です。
・しっかり目的を立ててゲームを考えないとただの遊び企画になってしまうことに気をつけていました。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
神戸大学生活協同組合　専務理事：坂本安弘　学生委員会　担当：高木
TEL：078-871-3691　E-mail：gi@kucoop.jp(学生委員会)

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

17

大阪教育大学生協 クイズ企画 『第１回全統大教マーク模試』

活動の教訓ポイント

大学生協と学生委員会について、組合員に知って欲しいという想いから生まれた活動！組合員が楽しみつつ、活動やサービスについて知る機会になりました！

活動概要

【日時】2018/10/22~10/24
【場所】大阪教育大学ショップアイリス前
【対象】組合員

【内容】他団体と区別がついていないまたは知っていてもそれ以上に生協のサービスを知ってもらおうと学委の活動や生協サービス等が書かれたクイズを一日5問ずつ出した。正答数に応じて、もらえるものが違うようにした。

▲学委のメンバー

企画背景 ＜知られていないものばかり＞

他団体の区別がついていないまたは学委の活動が知られていない現状があり、それを知らせたかった。また生協のサービスを学生が理解していないのもあった。普通に知らせても組合員にあまり興味をもっていただけないので楽しんでくれるようなものを考えた。

アピールポイント ＜大事にしたのは”“楽しむ”＞

まずは、組合員を楽しませることに焦点をあてた。なおかつ、学委自身も企画課程等で楽しめるようなものもしたいと考えた。加えて、自大学の組合員の特徴の興味があることに全力で取り組んでくれるということに注目し、景品やくじの引き方も工夫した。また、生協のサービスと学委の活動を知ってもらうという2つのことを凝縮してお伝えできるようにした。
また、10月ということで大山フェアとの関係で、大山牛乳とコーヒー牛乳の試飲会を実施した。

▲組合員がくじを引くのを並んでいる姿

組合員の反応 ＜たくさんの笑顔が見れた＞

途中で歩いている人に企画のことをお伝えすると、やってみたいと言って、直接企画に参加してくれる方がたくさんいた。組合員が楽しんで企画に参加している姿が多く見られた。また、景品もハロウィンの時期に合わせたものを用意したので、反応が良く喜んでくれた。

▲くじを引いている姿

▲問題を解いてます…

内容 ① ＜楽しんでもらうために＞

組合員は問題を解き、正答数に応じてBOXに分かれ、くじを引いてもらった。全問不正解なら何ももらえないが、何かしら正解すると最低お菓子はもらえるというシステムにした。また、景品もハロウィンが近いこともあり、ハロウィンにちなんだものを考え提供した。何が組合員にとってニーズとしているかを重要視しながら会議を行った。

内容 ② ＜活動＋生協を知らせる＞

一日5題、計15問を学委で考え、他団体との区別をつけたいなと思ったので、他団体の活動の内容も考えた。だが、単に活動を知ってもらうのも良いが、やはり生協のサービスを知ってもらいたいので、生協に関することも問題にいれた。それをクイズ形式にすることで楽しみながら学んでくれるだろうという結論に至った。また、10月の大山フェアにあやかり、試飲会も実施した。多くの方に試飲していただき、また、POPを店内に設置したことにより、より大山に対する多くの関心を得られた。

▲試飲会の様子

成果

組合員の反応が予想していたものより良かったことが学委としては良かった。これで、自大学の組合員のニーズを知ることができた。また、組合員を楽しませるだけではなく、活動や生協のサービスを知ってもらえたので、今後の企画に繋げていきたい。

課題

当初、予定していたことが出来てないことが多くあった。前もって、この日に会議の内容はこれをすると決めておかないと達成できないことがあると気づかされた。また、大山の試飲会では、実際のコーヒー牛乳と一緒に持ち歩いて宣伝したらもっと大山の魅力は伝わるのではないかと思った。

取組みを参考にする上で気をつけること

組合員にとって、難しい内容である生協のサービスと組合員を楽しませ方の融合の仕方を考えること。
なおかつ、自大学の組合員の特徴に合わせて考えなければならないこと。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
大阪教育大学生活協同組合　専務理事：下永文貴　学生委員会担当：山根
TEL：072－976-3636　E-mail：daikyougaku@gmail.com

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

18 奈良三大学生協学生委員会 新学期ブラッシュアップ交流システム

隣接する大学の強みを生かし、新学期活動を互いに訪問･意見しあうことで、自発的に高めあい、活動がレベルアップできました！

活動概要

【日時】18年度新学期準備期間
【場所】各大学
【対象】奈良県立大学、奈良教育大学、奈良女子大学の奈良三大学の学生委員
【内容】各学生委員会で行う新学期企画のリハーサルやロールプレイングに新入生やその保護者役として他大学の生協学生委員に参加してもらう制度(企画)。三大学、５つの企画で実施することができました。

▲奈良女の保護者説明会・入学準備説明会のリハ

企画背景　奈良連帯のさらなる活用

これまで奈良三大学は2018年で７度目となる奈良セミナーやPN!奈良などを通して、繋がりを深めてきており、その奈良連帯を活かして新学期活動をより良いものにするために、昨年度から始まりました。「他大学の活動を知りたい。本番まで緊張感を保ちつつリハーサルを行いたい。」という想いから**三大学それぞれの活動に活かすために連帯を活用**し実施しました。

アピールポイント　より本番に近い環境

ホスト側(企画実施側の大学生協の学生委員)は、実際に企画や大学についてほとんど知らない相手にリハーサルやロープレを行うことで、緊張感を保つことができるだけでなく、**本番により近い形での対応を練習**することができたり、**新鮮なフィードバック**を得ることができたりします。
ゲスト側(企画参加者としていく学生委員)は、他大学生協での新学期企画を新入生役として見ることにより、その大学や大学生協の良さを自分たちの活動に活かしたり、改めて**自大学生協の良さ**に気付いたりできると考えます。

▲奈教の「なんでも相談会」のロープレ

参加者の反応　外の意見の重要性

参加者アンケートでは、同じ企画(今回の場合は、「入学準備説明会」や「新歓企画」)でも、**大学のイロ**がはっきり出ていて興味深い、という意見が出ました。他にも新入生に近い、何もわからない状態の**外部の人からの意見がホスト側にとってすごく貴重**だということ、ゲスト側も吸収することや我が身を振り返る点があって**お互いの企画をよりよくするのにブラッシュアップ企画が良かった**との評価もあり、来年の存続を望む声が多く見られました。

▲参加者アンケート記入中

▲大学説明会のロープレ

内容 ①　奈教「大学説明会」「すごろく想暖会」

奈教が行う大学説明会とすごろく想暖会に、新入生・保護者役として奈県と奈良女の学生委員が参加しました。

ホスト側：「**他大学の意見・相談を通して新たに気づけるところがあった**」「**学びに加え、新しい友達もできた**」など
ゲスト側：「**参加者側の立場に立つことで運営側のやっていることの良さがわかった**」など

内容 ②　奈県「ウェルカムパーティ」

奈県が行う「ウェルカムパーティ」(新歓企画)に新入生役として奈良女、奈教の学生委員が参加。パーティ企画ということもあり、ラフな交流ができました。

ホスト側：「**いつもとは違う目線から企画を練り上げていけそう**」「**真剣で丁寧な振り返りをしてくれたのが嬉しかった**」など
ゲスト側：「**似たような趣旨でやってる企画でも全然違って勉強になった**」「**他大学企画に初めて参加し、いい刺激を受けました**」など

▲実際に班に入って交流！

成果

今までリハーサルを行っていなかった奈良女からは、奈県のリハでの感想に「**本格的なリハーサルに参加して刺激を受けた**」という意見がありました。奈県からは奈教のロープレでの感想に「**奈教のロープレの仕方が参考になった**」という意見がありました。この学びを受けて、自大学で19年度新学期ではリハを強化して行う大学もあります。

課題

「**交流という実感があまりわかなかった**」という声が少なからずありました。他にも全体的に「**参加者が少なかった**」という声もありました。2018年度新学期に向けて開催した今回が初めてだったこともあり、告知のタイミングがうまく図れなかったことや、このBU企画の良さを語れる人が少なかったことが理由として挙げられます。

取組みを参考にする上で気をつけること

三大学のこれまで培ってきた関係性があるからこそ実現できた企画です。それぞれの大学の**共通点**や**相違点**を互いの大学生協が認識しているため、指摘やアドバイスが的確で、出た意見の振り返りをする際なども、とても効率的でした。この取り組みをするのであれば、まずは**互いの大学生協をしっかりと知ること、認めることが必要**だと思います。さらに**他大学の活動を知ることで自大学に活かせる**ということを学生委員全体に広めていくことで、より活発になると考えます。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1)　ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

1. 大学生協の魅力を高め、協同組合の想いに共感する組合員を増やすため、組合員の様々な願いを汲み取り、お店をはじめとする事業や活動に、組合員が参加できるように工夫しましょう。
2. 総(代)会を軸とした活動や、組織委員会活動をはじめとする組合員主体の自発的な活動ができるようにしましょう。
3. 連帯の力を生かし学びあい・高めあうことで、大学生協の魅力をさらに高めましょう。また、大学・関係団体・地域そして社会から信頼される生協にしていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
奈良県立大学生活協同組合　業務担当理事：石間　学生委員長：宮本
TEL：0742-24-3303　E-mail：n.ishima@u-coop.net

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

大学生協 関西北陸ブロック 2018年活動事例集 ありたい姿

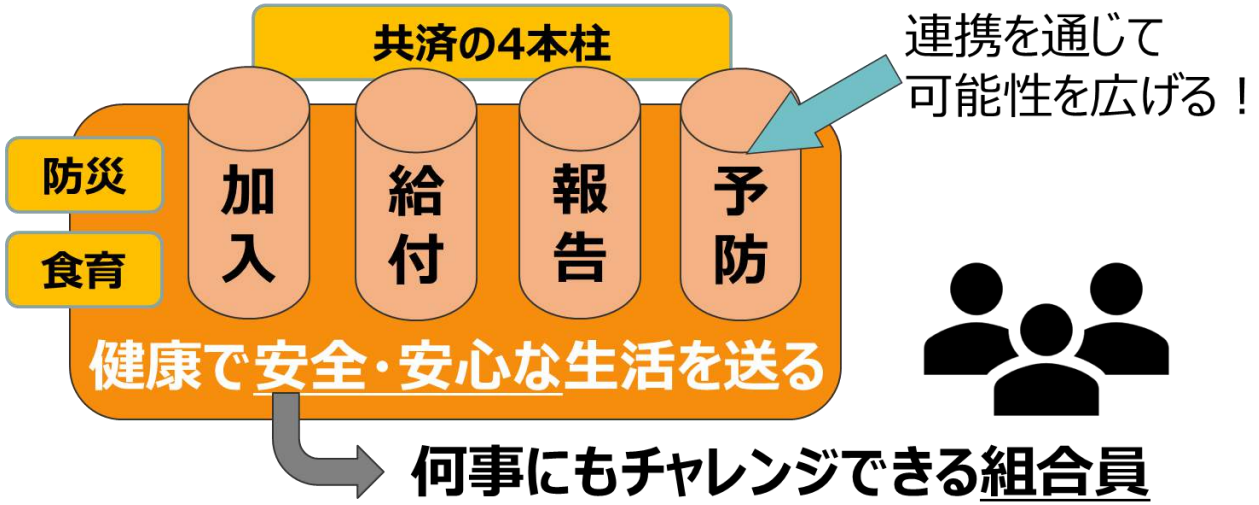
安全・安心

2

安全・安心にキャンパスライフを送り、
健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

実現に向けて

1. 心身の健康について目を向けることが、大学生活の充実やその先の将来にもつながっていることを気づけるよう、実態に応じた取組みを広げていきましょう。
2. 怪我や病気になっても対応でき、何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、共済4本柱を意識した活動を通じて、組合員に「たすけあいの輪」を広げましょう。
3. キャンパス内のすべての人が健康な生活を送れるよう、大学保健管理施設との連携や、ブロックや行政、医療生協をはじめとする健康に関する活動と連携して、活動をレベルアップさせていきましょう。



［事例集］
19

金沢大学生協
いきいきフェスタ

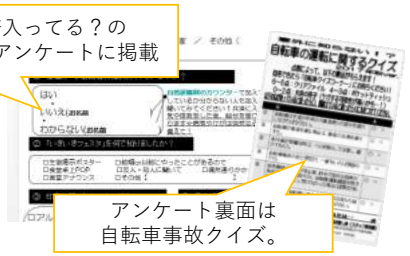
気軽に自分自身の健康を確認できるとともに、体組成計などを通して、楽しく健康を確認できるようにする工夫を行ったり、農政局や企業などといった外部の人たちと関わりながら行ったりしました！

活動概要

【日時・場所】2018/6/12(火)-15(金)
鶴間 実施_11:00～13:00
角間大学会館 実施_11:00～17:00
角間自然研 実施_11:00～15:00

【対象】組合員

【内容】健康チェック企画として実施。外部企業等も招きブースを展開している。「共済」認知度向上、自転車事故への関心を高めることも意識。



企画背景　＜自分の健康を考えるのは健康診断のときだけ？＞

大学生になると、授業で体育が必修なわけでもなく、一人暮らしの人は経済的にも節約重視で、健康についての優先順位は低くなりがちです。自分の健康やケガ・病気のリスクについて考えるのは健康診断のときくらいだなあ･･･という声が学生と職員の会話でよくありました。

アピールポイント　＜楽しく参加してほしい＞

日常の中で、健康をテーマに、普段の生活とは違った興味関心を持てる機会として、いきいきフェスタを実施しようと実施が始まりました。そして、実施するなら少しでも多くの組合員の方に参加してもらいたいという想いから、『気軽に参加できる』『楽しめる』ことを大切にしたいと考え取り組んでいます。企画では、参加者全員に野菜ジュースをプレゼントしていますが、「無料でもらえてラッキー！」という嬉しさがきっかけでもよいので、足を運んで、視力を測ったり体年齢測定で筋肉量を測ったりして、自分の生活を振り返って欲しい、と思っています。

▲会場の様子

組合員の反応　＜楽しんでもらえているかな？＞

●体スキャン･･･「実年齢と体年齢の差に愕然とした。生活習慣考えます･･･。」／「筋肉量や内臓脂肪など普段なかなか測れないものも測れた。」
●視力チェック･･･「改めて計測すると視力が変わっていた。」/「コンタクトの悩みを聞いてもらえた。」
●食生活相談･･･「自分の食生活を改めて見直すことができた。」／「体脂肪など筋肉の維持に食事のバランスが大事だと分かった。」

▲視力チェックの様子

▲体スキャンの様子

内容 ①　＜ブースのご紹介１＞

（１）肌チェック
小さなチェッカーを１つ用意し、実施しています。測った結果を記入し渡す用紙は事業連合の掲示板(※)からダウンロードして使用しています。職員さんに聞いてみましょう。（※：FS事業部→よく使うﾌｧｲﾙﾘｽﾄ→食生活提案「食生活相談資料ﾌｫﾙﾀﾞｰ」）
（２）体スキャン
ブロックから端末をお借りして実施しています。筋肉量や脂肪率、基礎代謝、体年齢が測れて、「へーこんなの分かるんだ」と感心する学生さんが多いです。

内容 ②　＜ブースのご紹介２＞

（３）視力チェック
地元のコンタクトレンズ屋さんにお願いして来て頂いています。専用機械を使って手軽に現在の視力が測れます。視力の変化に驚く学生さん多数。
（４）栄養士さんによる食生活相談
事業連合経由でお願いをしている、栄養士さんにお越しいただいています。自炊レシピを配布いただいたり、貧血チェックの機械を使って計測をしてくださったりしています。

▲食生活相談の様子

その他ブース…ｱﾙｺｰﾙﾊﾟｯﾁﾃｽﾄ、地元のジムによる体力測定、農政局による食生活情報コーナー等

成果

設営をしていると、通りすがる学生が「あ、今日、いきいきフェスタなんだ！」と話すのがよく聞こえてきます。毎年やっている生協の共済の企画、と認識してもらえてきているかな、と思っています。予防や給付申請に繋がっていることを祈り、継続していきたいです。

課題

カリキュラムの変更等により、来場者数が減少傾向にあるため、改善が必要です･･･。新しいブースづくり、もしくは全体的な企画の変更を検討します。

取組みを参考にする上で気をつけること

継続して取り組み、呼び込みを努力し続けることで、より多くの方に参加いただけているように思います。継続しつづけることができる、という点と、より楽しく参加できる企画づくり、はバランスが難しいですが、続かなければ共済を知ってもらうことにも繋がりません。ぜひ、実施する際は毎年続けられる工夫を意識してみてください。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2)　安全・安心
安全・安心にキャンパスライフを送り、
健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

1. 心身の健康について目を向けることが、大学生活の充実やその先の将来にもつながっていることを気づけるよう、実態に応じた取組みを広げていきましょう。
2. 怪我や病気になっても対応でき、何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、共済4本柱を意識した活動を通じて、組合員に「たすけあいの輪」を広げましょう。
3. キャンパス内のすべての人が健康な生活を送れるよう、大学保健管理施設との連携や、ブロックや行政、医療生協をはじめとする健康に関する活動と連携して、活動をレベルアップさせていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
金沢大学生活協同組合　　専務理事：坂口　　学生活動担当：井上
TEL：076-231-2855　　E-mail：inoue@kindai-coop.or.jp

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
20

阪南大学生協
たまねぎ祭・共済祭

地域の農家との連携や地域生協との連携を通じて、組合員に様々な視点から、自分自身の健康について見つめてもらう場作りができました！学生委員の防災への問題意識も企画に反映していきました。

活動概要

【日時】2018/7/16(月)-18(水)
【場所】阪南大学 3号館1階
【対象】阪南大学生協の組合員全員

【内容】阪南大学生協の組合員に健康について感心を持ってもらえるように、健康チェックや自転車点検、防災クイズや骨密度検査、地域の農家さんと連携した玉ねぎの提供と料理の提案を行いました。

企画背景

様々な視点から健康への関心を持てるようになりました

以下のような問題意識から、学生に様々な視点から健康への意識を持ってもらう取組みを進めました。
・健康について意識を持っている学生が少ない　　・共済の認知度が低い
・大学生は自由な時間が増える分、事故に遭うケースも増える可能性があることに学生が気づきにくい

アピールポイント

協同組合らしい健康への取組み

★組合員が健康に目を向け、自分自身の健康を自分で守るために行動しなければいけないことを認識する機会を作ることができました。また、具体的な行動提起を行うことを意識できました。
★医療生協と協同組合間協同を行うことで、より組合員に健康を認知する機会を提供できました。(骨密度検査)
★地域と連携した取り組みを行うことで、地域社会と協力してよりよい(大学)生活を作ることができました。(玉ねぎ祭り)
★ハザードマップや防災クイズなどは、社会を取り巻く現状に即対応し、企画の内容を作ることができました。社会の状況を踏まえて組合員に対してアプローチできました。

組合員の反応

多くの組合員が目を向けた！

組合員が自然に目を向ける流れが生まれていました。組合員によって関心を持つ部分は違いますが、様々な角度から協同組合らしく伝えることができました。
また、展示も人目を惹く工夫・仕掛けがをしたり、学生委員自身の問題意識から防災の取組みを行い、組合員の強い関心を持ち、考える機会を作ることができました。

内容 ①

＜健康チェックの実施！＞

握力、アルコールパッチテスト、貧血チェック、ヤニ検査、泥酔ゴーグルなどの企画を通して、組合員に健康チェックを行ってもらうとともに、自分の体について知ってもらいました。
手軽にできるものも多かったため、多くの組合員の方が参加をしてくれました。

内容 ②

＜地元農家のたまねぎ販売！＞

昨年に引き続き、今年も阪南大学近くの農家さんのたまねぎを仕入れ販売しました。これは地産地消につなげる活動であり、地域とのつながりを意識した取り組みとなっています。
たまねぎを販売するときに、一人暮らしの人や料理が苦手な人でも作りやすいレシピを配布しました。

成果

多くの組合員がたまねぎ祭や共済祭に興味を持ってもらい、ブースを訪れ、楽しく企画に参加してもらえた。
共済祭の豊富なコンテンツにより、自分の体について知ってもらうことができた。

課題

たまねぎ祭にもっと多くの人に参加してもらえるように宣伝方法を工夫する。
たまねぎ販売時に配布するレシピの種類を増やすなどの工夫をする。

取組みを参考にする上で気をつけること

たまねぎを売るということを目的にするのではなく、地産地消の取り組みについてや栄養価についても説明することが必要である。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2)　安全・安心
安全・安心にキャンパスライフを送り、
健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

1. 心身の健康について目を向けることが、大学生活の充実やその先の将来にもつながっていることを気づけるよう、実態に応じた取組みを広げていきましょう。
2. 怪我や病気になっても対応でき、何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、共済4本柱を意識した活動を通じて、組合員に「たすけあいの輪」を広げましょう。
3. キャンパス内のすべての人が健康な生活を送れるよう、大学保健管理施設との連携や、ブロックや行政、医療生協をはじめとする健康に関する活動と連携して、活動をレベルアップさせていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
阪南大学生活協同組合　　専務理事：田村良彦　学生委員会：谷翔太
E-mail：y-tamura@hanshin.coop

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
21

関西学院大学生協
共 済 月 間 の 取 り 組 み

活動の教訓ポイント
セミナーの学びを活かし、共済月間に活動を実施。自分たちならではの目標や想いからしっかりと自分たちの大学の現状を考え、組合員目線を意識し企画を行うことができています！

活動概要

【日時】2018/10/26～11/30
【場所】関西学院大学 西宮上ケ原キャンパス他
【対象】組合員

【内容】
全国共済セミナーでの学びを還元する機会として、店舗企画・店舗装飾や共済の給付申請に関する動画や広告での広報、自転車点検企画を共済月間として行なった。

▲他キャンパスの装飾の様子

企画背景　＜自大学の現状に合った活動に！＞

自大学での生命共済加入率が47％と私立大学の目標である50％に達していないことと、火災共済加入率は下宿生限定とはいえ19％にとどまっているという現状があり加入率を上げたいという想いと、昨年度の給付件数が1597件と学生数と比較して少ないなと感じ、給付申請漏れを防ぎたいという想いがありました。

アピールポイント　＜セミナーの学びを生かして＞

今年の8月に行なわれた全国共済セミナーでの学びを生かして参加したメンバーでセミナーで共済月間でどのようにしていくかを考えました。
さらに、共済月間についてどのような企画をすれば加入率アップや給付申請漏れを防ぐことが出来るのかをGIみんなで検討しました。

▲企画内容検討会の様子

組合員の反応　＜組合員目線を大切に＞

共済月間では様々な企画を行なっているためどの企画が…などは紹介できませんが、**すべての企画において組合員目線を大事にしています！**私たちだけがやって終わりではなく**この後の組合員の健康につながるように**と、工夫して企画を作っています！
写真の野菜生活人気投票企画ではただ投票を行なって割引をするのではなく試飲会を同時に行ない、組合員自身に健康について考えてもらうきっかけをつくりました。

▲野菜生活人気投票企画の様子

▲GIによる撮影シーン

内容 ①　＜Youtubeによる広報＞

広報班ではケガをしてから給付申請するまでの過程を動画にしました。ただ過程を紹介するだけでなく、組合員が興味をもってもらえるようにタヌローを登場させたりコメディシーンを入れたりしました。撮影、脚本、出演、編集はすべてGIメンバーで行ないました。

内容 ②　＜GIの他企画と連携＞

共済月間ではその期間の他企画と連携しました！例えば、多くの組合員が参加する生協祭では、アンケート抽選会の企画で組合員に共済を知っているかだけでなく、自分が共済に加入しているかを知っているかについてアンケートを取ることで今後の共済企画に活かすデータが取れました。
また、生協祭の健康フェスタでは組合員に自分自身が共済に加入しているかチェックするブースを設け、共済加入、給付申請漏れ防止を促進しました。

▲健康フェスタでの共済加入チェック

成果

学生委員会みんなで様々な企画を考えることでセミナーの還元や様々な視点から考えられた活動になったと思います。ただ共済月間という期間があるからするのではなく、**しっかりと自大学の現状やGIの活動範囲を考えて企画を進める**ことが出来ました。

課題

自大学の現状を考えたとはいっても、他団体との協力が上手くいかず企画が出来なかったものもあり、もっと早めに動きだせばよかったなと思います。来年度はもっと共済について詳しく伝える企画を作っていってほしいなと思います。

取組みを参考にする上で気をつけること

この活動ではこのポスターですべて紹介できないほど多くの企画を行ないました。しかし私たちはすべての企画が自大学の現状から考えて必要だと判断したため多くの企画を行ないました。決して多くの企画をすることがいいわけではありません。自大学GIの活動の幅や規模、自大学の現状を考えてみんなで企画を作っていくことが大切だと思います！

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2)　安全・安心
安全・安心にキャンパスライフを送り、
健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

1. 心身の健康について目を向けることが、大学生活の充実やその先の将来にもつながっていることを気づけるよう、実態に応じた取組みを広げていきましょう。
2. 怪我や病気になっても対応でき、何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、共済4本柱を意識した活動を通じて、組合員に「たすけあいの輪」を広げましょう。
3. キャンパス内のすべての人が健康な生活を送れるよう、大学保健管理施設との連携や、ブロックや行政、医療生協をはじめとする健康に関する活動と連携して、活動をレベルアップさせていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
関西学院大学生活協同組合　専務理事：髙橋　学生委員会：石田
E-mail：kggi2018@gmail.com

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
22

神戸親和女子大学生協
美のスキルアップ会

活動の教訓ポイント
参加者した組合員がより深く自分の健康について考えられることに重点をおいて、内容からアンケートまでこだわった健康チェック企画

活動概要

【日時】2018/11/14
【場所】学生会館B１階ラウンジ
【対象】組合員
【内容】
食生活相談・骨密度測定・肌水分チェック・血圧測定・体脂肪率測定・握力測定・アルコールパッチテストなど10項目の健康チェックコーナーを用意し、アンケートに答えてくれた参加者に健康に役立つプレゼントをした。

開催中の様子

企画背景　＜組合員に健康について考えてほしいという想い＞

購買でカップ麺を購入している組合員が多い。またお腹がすいていてもお菓子で済ましたりし、健康に無頓着であったり、アルバイトなどで睡眠不足に陥り、知らないうちに疲れがたまっている場合もある。また、アルコールに初めて接するときに自分がどんな体質なのかを知っておくことも大事である。企画に参加することで、自身の健康状態や身体のことを知ってほしいという想いがあった。

アピールポイント　＜健康を考えられるものに！＞

昨年度は多くの組合員に参加してもらいたいという想いから参加特典を豪華にしたが、今回は組合員にしっかりと自分の健康状態について認識してもらえるように「セルフチェックシート」を用意した。「美は健康から」ということで、イベント名も「美のスキルアップ会」に変更！

セルフチェックシートを用意

組合員の反応　＜内容に興味をもって参加してくれた！＞

アンケート結果によると特典を目的に参加した人が減り、用意したブースに興味を持って参加してくれた人や、健康に興味を持って参加してくれた人が大半を占めていた。
当日対応をしていた際にも特典が欲しくて参加しているわけではなく、アンケートを提出するときに知って驚いている参加者も少なくなかった。純粋に自身の健康について楽しみながらチェックしている人が多かったように見受けられた。

混雑する時間帯もありました

随所に共済のアピールも…

内容 ①　＜セルフチェックシート＞

組合員が行った健康チェックの数値などを記入できるようにし、ご自身の健康状態をチェックできるように簡単な指標も掲載した。書きあがったチェックシートは回収せず振り返りができるように持ち帰っていただいた。
当日はそれぞれ近くにいる学生委員や職員が器具の使い方を説明しつつ書きこむように促したため、真面目に書き込んでくれている参加者が多かった。

内容 ②　＜食生活相談＞

昨年は参加者が殺到し、ゆっくりと食生活相談に参加できない時間帯があった。今年は参加者数ではなく、じっくり相談・説明してもらうことを重視しました。参加した組合員はじっくりと自分の食生活や健康状態について相談できました。

食生活相談もじっくりと

成果

昨年度の反省をもとに参加者数ではなく中身の充実度を重視して実施したが、目的どおり達成できた。参加した一人一人が自分の健康状態について知る良い機会を提供することができたのではないかと思う。また、参加者も運営側も楽しめたというのもよかった点としてあげられる。

課題

参加者アンケートの結果によると、たまたま通りかかって興味があったから参加した組合員が多かった。人通りが多く、目につきやすい場所で実施していたこともあるが、次回実施するときには事前の宣伝を頑張りたい。
また、今回は学生委員会がやっていることを伝えられるようなものがなかったので、今後はせめて名札だけでも用意したい。

取組みを参考にする上で気をつけること

今回は参加者数ではなく、参加者の満足度を重視して作りこんだため、健康にあまり興味のない組合員の参加が少なく、昨年ほど参加者数は多くなかった。今後は中身の充実化と多くの組合員に参加してもらうという両輪のバランスが重要になってくることを意識したい。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2)　安全・安心
安全・安心にキャンパスライフを送り、健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

1. 心身の健康について目を向けることが、大学生活の充実やその先の将来にもつながっていることを気づけるよう、実態に応じた取組みを広げていきましょう。
2. 怪我や病気になっても対応でき、何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、共済4本柱を意識した活動を通じて、組合員に「たすけあいの輪」を広げましょう。
3. キャンパス内のすべての人が健康な生活を送れるよう、大学保健管理施設との連携や、ブロックや行政、医療生協をはじめとする健康に関する活動と連携して、活動をレベルアップさせていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
神戸親和女子大学生活協同組合　専務理事：坂本　学生委員会 担当：川井田
TEL：078-595-0303　　E-mail：seikyo@email.plala.or.jp

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
23

富山県立大学生協
無　料　自　転　車　点　検

活動の教訓ポイント

自転車による事故をなくしたいという想いから、自転車点検を軸に、交通ルールを伝えたり、危険運転について知ってもらい予防するなどの工夫を行いました。

活動概要

【日時】2018/07/03
【場所】富山県立大学　六角堂前
【対象】自転車通学している組合員
【内容】組合員の自転車に不具合があっては安全に走行することが出来ないため、自転車点検をすることで安全に乗ってもらえるようにする。また、おろそかにしがちな点検をすることで、普段からの点検の大切さを再認識してもらう。交通ルールを再認識してもらう。

▲受付の様子

企画背景　＜自転車による事故を無くしたい！！＞

組合員の多くが通学に利用する自転車を点検することにより、未整備や空気圧が足りないまま運転する自転車をなくし、安全に通学してもらえるようにする。

アピールポイント　＜交通ルールを知って欲しい！！＞

自転車点検を行うとともに、自転車の交通ルールも知ってもらいたいと思いました。そこで、自転車の危険運転についてのポスターを作成し、自転車点検の受付に貼り出しました。さらに、自分がやったことのある危険運転にシールを貼ってもらい、危険運転をしないように意識を高めてもらおうと思いました。

組合員の反応　＜自転車が直ってよかった！！＞

自転車を自転車屋に持っていくことが難しかったり、自転車屋がどこにあるのか知らない組合員が多く、自転車を手軽に直すことができて、すごく喜んでいました。また、危険運転のポスターを見て、自分が気づかないうちに危険運転をしていたことに驚いていました。

▲ポスターの写真

▲点検の様子

内容 ①　＜点検の流れ＞

組合員に受付まで自転車を持ってきてもらい、その場で修理してもらいたい箇所や点検してもらいたい箇所を受付用紙に記入してもらいます。その際に、有料修理をする場合の金額上限も記入してもらいます。受け取りの際には、アンケートを記入してもらいました。

内容 ②　＜危険運転リスト＞

自転車の危険運転に関するリストをポスターにまとめ、掲示しました。危険運転をした際の罰則についても記載し、違反行為であることの意識を高めてもらいました。自転車を受け取る際に、自分がしたことがある危険運転にシールを貼ってもらい、その運転行為が危険であることを自覚してもらいました。

▲当日の流れ

成果

組合員に対して、自転車の交通ルールについて知ってもらうことができました。また、自分では見つけられないような不具合も業者さんに直してもらえたので、より安全にこれからも通学できるようになったと思います。

課題

参加者を増やすために、ポスターを自転車小屋や購買に掲示したり、SNSをもっと利用したりするのが良いと考えました。受付を行った場所は通る人が少なく、自転車点検を行っていることに気づく人が少なかったと考えました。また、自転車小屋と受付が遠く、自転車を持ってくるのが面倒だと感じた人が多かったとも考えます。

取組みを参考にする上で気をつけること

ポスターをただ掲示するだけでなく、参加型にすることによって、組合員にポスターを見てもらうことができます。その結果、危険運転を減らすことに繋がると思います。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2)　安全・安心
安全・安心にキャンパスライフを送り、
健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

1. 心身の健康について目を向けることが、大学生活の充実やその先の将来にもつながっていることを気づけるよう、実態に応じた取組みを広げていきましょう。
2. 怪我や病気になっても対応でき、何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、共済4本柱を意識した活動を通じて、組合員に「たすけあいの輪」を広げましょう。
3. キャンパス内のすべての人が健康な生活を送れるよう、大学保健管理施設との連携や、ブロックや行政、医療生協をはじめとする健康に関する活動と連携して、活動をレベルアップさせていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
富山県立大学生活協同組合　　専務理事：神谷　和秀
学生委員会自転車点検担当：長野　　E-mail：t714045@st.pu-toyama.ac.jp

TOYAMA　ISHIKAWA　FUKUI　SHIGA　KYOTO　NARA　OSAKA　HYOGO　WAKAYAMA

［事例集］

24

龍谷大学生協　瀬田キャンパス
自転車・バイク事故防止活動

活動の教訓ポイント

組合員の生活実態に合った、本当に必要としている企画を行っている。また組合員からの声を反映させたハザードマップで組合員同士のたすけあいを実現できている。

活動概要

【日時】2018/06/27・28
【場所】自転車・バイクの駐輪場
【対象】自転車・バイクを利用している組合員

【内容】※ざっくりと記入
・ポスターによる点検の呼びかけ
・業者のかたによる点検
・チラシによる自転車・バイクの点検方法掲示、共済についての説明
・ハザードマップで通学路の危険箇所の再確認

▲点検してもらっている様子

企画背景　＜もっと共済を身近に感じてほしい！＞

駅からキャンパスまでを自転車やバイクで通学している学生が多く、そのことによる事故も多発しています。組合員が安全に自転車やバイクを利用できるように、またもし事故が起こったときにどのように対処すれば良いか、共済はどのように利用できるかを示し、安全に自転車やバイクを利用し、共済をもっと身近に感じてもらいたいという想いから実施しました。

アピールポイント　＜待ち時間にも楽しんでもらおう！＞

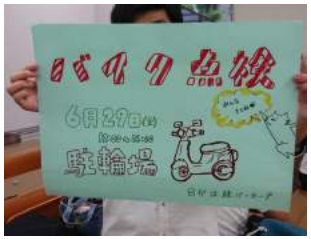
共済のことをあまり身近に感じてもらえていなかったので、チラシを作成することによって誰でも共済を身近に感じてもらえるようにしました。また、点検している間の待ち時間を無駄にしないように、組合員が楽しんでもらえるような対処法として共済や交通ルールについてのクイズを行いました。

▲クイズをしているとき様子

組合員の反応　＜実感！共済の必要性と大切さ＞

参加者からは、「またこのような機会をつくってほしい。」という声や、時間がなく点検ができない組合員からは「点検をする時間がないのでいい機会になった。」「これを機にメンテナンスをしっかりしていきたい。」というような感想がありました。

実際の様子からも、共済や交通ルールのクイズは組合員にとても好評な企画であり、共済の必要性や大切さを感じられた参加者も多かったようです。



▲大学内に貼ったポスター

▲大学内に貼ったポスター

内容 ①　＜危険箇所の再確認！＞

今回の企画では、自転車やバイクの点検方法の掲示と共済を身近に感じてもらうためのチラシの作成と、駅からキャンパスまでの通学路のハザードマップの作成しました。ハザードマップは実際に自転車やバイクを利用している学生や昨年のアンケートを基に危険な箇所を聞いて作成したため、組合員からの評価も高かったです。

内容 ②　＜共済に対する意識UP!＞

業者の方に点検してもらっている間の待ち時間を使って、ハザードマップを掲示し危険箇所の再確認、共済や交通ルールについてのクイズを出題し、正解した参加者には景品を渡すというような待ち時間を有効活用し、組合員の共済に対する意識や交通ルールの見直しをはかりました。

▲ハザードマップ

成果

昨年同じ企画を行った際には行わなかった、共済や交通ルールに関するクイズは、初めて行う企画だったため、成功するか不安だったが学生委員の共済に対する意識や普段の交通ルールの確認もできこの企画を行って良かったと思います。

課題

企画を行うにあたって、企画担当の1回生に、早い段階で参加してもらい企画を行う段階で一緒に準備するべきであったということと、企画の宣伝があまりできなかったため、企画の情報を広めるために、SNSで情報をながす際は、Twitterだけでなくinstagramでの情報宣伝もしっかり行うというような課題が出ました。

取組みを参考にする上で気をつけること

自転車・バイク点検をする際待たせてしまうことが大半だと思います。その時間を使って、大学までの通学路のハザードマップの確認をしてもらったり、クイズなどの掲示物を使って待ち時間を有効に使うことが良いと思います。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2)　安全・安心
安全・安心にキャンパスライフを送り、
健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

1. 心身の健康について目を向けることが、大学生活の充実やその先の将来にもつながっていることを気づけるよう、実態に応じた取組みを広げていきましょう。
2. 怪我や病気になっても対応でき、何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、共済4本柱を意識した活動を通じて、組合員に「たすけあいの輪」を広げましょう。
3. キャンパス内のすべての人が健康な生活を送れるよう、大学保健管理施設との連携や、ブロックや行政、医療生協をはじめとする健康に関する活動と連携して、活動をレベルアップさせていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
龍谷大学生活協同組合　　専務理事：谷口　　学生委員長：芦田
E-mail：N170394 @mail.ryukoku.ac.jp

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
25

滋賀大学生協大津キャンパス
アルコールリスク啓発企画

活動の教訓ポイント

秋に新歓が増えるという滋賀大大津の学生の現状を丁寧に分析し取り組んでいる。また、アルコールパッチテストの実施で終わらせず、その後取り組みの報告や、保険管理センター監修のアルコールに関するポスターで啓発運動を行ったことは、テスト後に何を気を付ければいいのか提案することでより組合員に寄り添った活動になっている。また、自分たちだけでなく他団体と協力して活動を行うことで活動の幅を広くしている。

活動概要

【日時】ポスター掲示：2018/10/16(月)~11/9(金)
　　アルコールパッチテスト：2018/10/18(木)12:00～12:50
【場所】生協食堂・購買前
【対象】全組合員
【内容】
　・食堂内でのポスター掲示
　・アルコールパッチテスト
アルコールパッチテストでは、95名が参加しました。

▲アルコールパッチテストの案内ポスター

企画背景　飲酒時のリスクを知ってほしい！

滋賀大学大津キャンパスでは、毎年秋になるとそれぞれの専攻の新歓や教育実習の打ち上げなどで飲酒をする組合員が多くなります。なので、楽しくお酒を飲むために、**自分が飲める体質なのか、また飲酒に関わるリスクにはどのようなものがあるのかを知ってほしい**という想いから実施しました。

アピールポイント　ポスターの監修は内科の先生

飲酒に関するポスターとして、アルコールが代謝される仕組み、酔いの深さ、飲酒時に体調不良の人が出た場合の介抱法、アルコールハラスメントと飲酒事故の事例について書いたものを掲示しました。特にアルコールの代謝や酔いの深さ、介抱の仕方などは私たちの知識では限界があるので、**保健管理センターの内科医の先生に内容の助言をしていただきました**。

▲アルコール代謝の仕組みについてのポスター

組合員の反応　自分の体質を知ることができた

参加者からは「自分のアルコール耐性が知ることができて嬉しかったです。」「自分自身飲めると思っていたけれど、意外と飲めないことが分かった。」「飲酒時の注意や自己管理にもつながるので良いと思った。」などの感想がありました。

▲アルコールパッチテスト当日

▲酔いの深さについてのポスター

内容 ①　様々な内容の啓発ポスター

組合員の皆さんに飲酒に関する情報を知ってもらうため、保健管理センターの内科医の先生方に協力していただき、より深い内容の啓発ポスターを作ることができました。
ポスターの内容は、アルコールが代謝される仕組み、酔いの深さ、飲酒時に体調不良の人が出た場合の介抱法、アルコールハラスメントと飲酒事故の事例などの５つです。

内容 ②　自分の体質を知る

アルコールパッチテストは10月18日の昼休みのみの開催だったにもかかわらず、95名もの参加者がありました。
アルコールパッチテストの存在は知っていても、なかなかする機会がなかった現状があり、今回はこの企画を通して、飲酒をする機会が多くなる組合員の皆さんに**自身の体質を知ってもらう機会づくりができた**と思います。

▲アルコールパッチテストの説明

成果

今回のアンケートで「1度やってみたいと思っていたので、できて良かった。」という声が多く寄せられたため、アルコールパッチテストをする機会づくりができたと思いました。そして、**体質を知るだけでなく、飲酒時の注意を促す啓発ポスターを作り段階を踏んだ企画展開**ができました。

課題

課題としては、**アルコールパッチテストの実施時間が短かったこととテスト用のキットの準備数が少なかったこと**です。多くの組合員の皆さんに参加していただいたことは事実ですが、時間やキットの数の少なさの影響で限られた人にしか機会を設けられませんでした。また、アルコールパッチテストのみでなく、飲酒メガネを取り入れられると、誰でも参加できる企画になったと思いました。

取組みを参考にする上で気をつけること

ポスターを作成する際、どうしても私たち自身やインターネットの情報ではあやふやであったり信憑性にかけるであったりする可能性があるため、しっかり**専門の知識を持った方に相談する**といいと思います。また、私たちの経験からパッチテストには時間がかかるため、余裕を持った実施時間にすることがより多くの組合員の方の参加があると思います。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2)　安全・安心
安全・安心にキャンパスライフを送り、
健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

1. 心身の健康について目を向けることが、大学生活の充実やその先の将来にもつながっていることを気づけるよう、実態に応じた取組みを広げていきましょう。
2. 怪我や病気になっても対応でき、何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、共済4本柱を意識した活動を通じて、組合員に「たすけあいの輪」を広げましょう。
3. キャンパス内のすべての人が健康な生活を送れるよう、大学保健管理施設との連携や、ブロックや行政、医療生協をはじめとする健康に関する活動と連携して、活動をレベルアップさせていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
滋賀大学大津地区生活協同組合　本部

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
26

神戸高専生協
神戸市外大との合同共済勉強会

活動の教訓ポイント

近隣の学生委員会同士で交流会兼共済の勉強会を実施。各種共済セミナーなどを経てお互いの現状が異なるからこその学びあいを行うことができている取り組みです。

活動概要

【日時】2017/11/22（水）15：30～17：00
【場所】学園都市 unity 協同研究室
【対象】神戸高専と神戸市外大の学生委員
【内容】
後輩育成のためグループワークや説明を通して共済に関する知識と理解を深める。また、給付事例を紹介することで具体的なイメージを得る。当日は神戸高専と神戸市外大の学生15人が参加した。

▲15人の学生が参加しました！

企画背景　＜固定概念を吹き飛ばせ！＞

以前自大学で共済についてのイメージを質問した際、学生によって各々異なった意見を有していることが判明した。しかし、それらを共有せず、他人の意見を取り入れ自身の意見を考え直すということを行わなかった。そのため個々のイメージだけが定着し偏ったイメージとなっていた。今回の合同勉強会では、各々の意見を共有する場を設け、自身とは違った分野の方から意見を聞き、そのような固定概念をなくしていこうという趣旨で行った。

アピールポイント　＜他大学との交流＞

最大のアピールポイントは、学校同士の距離が近く普段から部会に参加してくれるなど、交流が深い神戸市外大との合同企画という点である。他大学と接する機会がセミナーのみという大学が多い中、交流のある外大とさらに関係を深めるために今回の合同勉強会を開いた。さらに自大学だけでなく他大学の活動を知ることで、お互いが実施してきた活動から得られた知識や経験を今後の活動に反映できる可能性があることを実感できた。

▲グループワーク中の様子

参加者の反応　＜実例からわかる共済＞

参加者からは、「実際の事例を基にグループワークを行うことですごく勉強になった。」「具体例を挙げることでどのような場合に給付されるのか考えることができるため、事例学習は共済活動に効果的であると思った。」　などの感想があった。

また、活動について他大学との比較ができるため、自大学で何をすべきか考えるきっかけになった。さらに、交流会後、他大学の活動の中で自大学に取り入れることができるものはないか検討したいなどの意見もでた。

▲神戸高専と外大の交流

▲当日の流れ

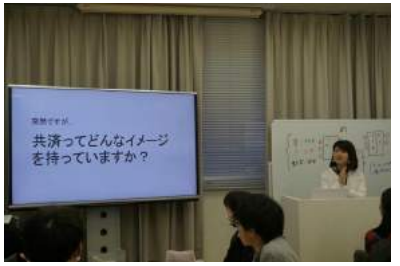
内容 ①　＜グループワークと説明＞

共済について説明を行う前に、グループワークを通じて学生が各々有している意見を交換することで、学生同士のイメージの違いを実感することができた。さらに誤って認識していること、理解できていないことも共有することで、自身の共済に関する理解度を把握することができる。その後、共済について説明することで、自身が理解できていなかったことや知らなかったことをスムーズに理解することができた。

内容 ②　＜給付事例学習会＞

いくつかの事例をもとに意見交換を行った。神戸高専は部活動での事例が多く、神戸市外大では通学の事例が多いという違いがあった。各大学ごとに事例は異なり、その事例をもとに行う企画も異なることを知った。また、同じ企画を実施していても取り組みの方法や担当者の割り当て方などたくさんの違いが見られた。

他大学の給付事例とそれに伴い実施している活動を知ることで、自大学では実施していない活動をより身近にわかりやすく理解することができた。



▲共済に関する説明を行っている様子

成果

- GI(学生委員)の共済に関する知識が深まった。
- 共済についてのイメージがより鮮明になった。
- 給付事例学習により、共済について自大学の現状を理解した。
- 両学校で実施している自転車点検の様子をお互いに確認するため、見学することとなった。

課題

- 参加人数が少なくこの合同勉強会で学んだことを他のGIに共有して知ってほしい。
- 給付事例の学習ができた一方、どのような活動に生かしていくか検討する必要がある。
- 昨年は主に給付事例学習会の勉強だったが、今年は共済の制度に関する勉強や実際に実施した活動集の発表などを行いたい。

取組みを参考にする上で気をつけること

頻繁に交流できる距離でない学校同士が交流会をする場合には、TV会議やスカイプを活用するなどの工夫が必要。分野が似ている大学同士だと、事例も似ると思われるため効果が薄い可能性がある。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2)　安全・安心
安全・安心にキャンパスライフを送り、
健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

1. 心身の健康について目を向けることが、大学生活の充実やその先の将来にもつながっていることを気づけるよう、実態に応じた取組みを広げていきましょう。
2. 怪我や病気になっても対応でき、何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、共済4本柱を意識した活動を通じて、組合員に「たすけあいの輪」を広げましょう。
3. キャンパス内のすべての人が健康な生活を送れるよう、大学保健管理施設との連携や、ブロックや行政、医療生協をはじめとする健康に関する活動と連携して、活動をレベルアップさせていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
神戸高専生活協同組合　専務理事：中川 一穂　学生委員会学生委員長：友枝
TEL：078－795－4051　　E-mail：kcct_seikyo_gi@yahoo.co.jp

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
27

同志社大学生協京田辺キャンパス
超 え て い け 赤 緑 黄

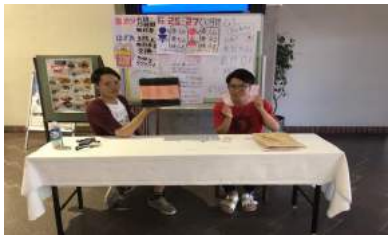
活動の教訓ポイント

・組合員の現状を細かく分析し、企画単体で終わることなく年間を通して、栄養バランスの取れた食事提案を行っている点。
・組合員への啓発方法を工夫し、組合員も参加したくなるように創意工夫がなされており、実際に組合員に変化が現れた点。

活動概要

【日時】2018/6/25~27
【場所】同志社大学　京田辺キャンパス
【対象】同志社生協組合員

【内容】3郡点数法を用いて、栄養バランスの取れた食事をしてもらうために、三群点数法の基準値を超えたレシートを企画場所に持って来てもらうとクジが引ける企画を実施。**参加者数は合計162人**でした。


▲企画場所の設営完了

企画背景　「毎日栄養バランスの取れた食事をして欲しい！」

組合員が栄養バランスの取れた食事をできていないという現状があったため、栄養について考えるきっかけにして欲しいという気持ちを込めて企画を実施しました。

アピールポイント　栄養への意識を高める

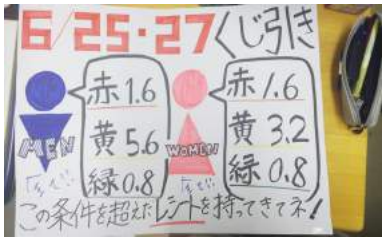
栄養バランスを考えるきっかけにするために、3郡点数法の基準値を超えると小鉢無料券が当たるクジを行いました。栄養について書かれた三角柱を食堂の全席に設置し、食事中でも栄養について学んでもらおうと考えました。

また**この企画単体だけで終わらせずに、栄養についての企画を年間を通して行っている。**栄養面から見たオススメ商品紹介の企画を実施し、栄養についての知識を組合員につけてもらおうと取り組みました。

▲オススメ商品紹介で使用した三角柱

組合員の反応　サラダの選択率が上がった！

参加者が食堂で列に並んでいるときに、メニューカードの三群点数法の部分をよく見ていて、企画に積極的に参加してくれていることが確認できました。**サラダの選択率も前週よりも約3%アップ**し、栄養バランスの取れた食事をできた組合員が増えました。



▲企画参加のための基準点

▲みんなで参加者を待っています！

内容 ①　参加してよかったと思える企画

企画の概要は、三群点数法の基準値を超えたレシートを企画場所に持って来てもらうと小鉢無料券が当たるクジが引けるというものです。**栄養について考えてもらいつつ、組合員が参加したい**と思うような企画作り行いました。また3日間企画を実施したので、3日間毎日参加してもらえるように、クジのハズレ券を3枚集めると小鉢無料券をプレゼントしました。

内容 ②　宣伝方法に工夫を！

京田辺GIは企画の宣伝が弱いという課題があったので、この企画から宣伝方法を工夫しました。1つ目は、栄養について書かれた三角柱に企画の実施日と内容を掲載し、食堂の全席に置いたことです。2つ目は、以前から行っていたtwitterのGIアカウントでのツイートを利用したものです。この企画についてのGIアカウントのツイートをリツイートしてもらうとクジがもう一度引けることにしました。**GIアカウントをフォローしていない人にもSNSから企画について知ってもらう**ためです。

▲企画に伴い設置した三角柱

成果

三群点数法の内、緑の点数が低いことが課題でしたが、それを補うために組合員がサラダなどで緑を摂取しようと考えてくれたことが数字に表れました。このことから、**この企画が組合員の栄養に対する意識を少しでも変えれた**ことが大きな成果と言えます。

課題

栄養バランスについて組合員が考えるきっかけを作ることはできましたが、企画終了後、栄養に意識が向かないと意味がないと考えています。そのために栄養についての企画を年間を通して行うことで組合員の栄養に対する意識を高めようと努めています。

取組みを参考にする上で気をつけること

この企画は3日間行ったのですが、1日目の参加者が少なく、2日目、3日目の参加者が多いという結果でした。1日目の参加者が少ないことから、2日目はより学生委員が声掛けを積極的に行うことで参加者数が増えていきました。**どれだけ企画が良いものでも、参加してもらわないと組合員には伝わらない**ので、積極的な声掛けで企画を盛り上げましょう。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2)　安全・安心
安全・安心にキャンパスライフを送り、
健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

1. 心身の健康について目を向けることが、大学生活の充実やその先の将来にもつながっていることを気づけるよう、実態に応じた取組みを広げていきましょう。
2. 怪我や病気になっても対応でき、何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、共済4本柱を意識した活動を通じて、組合員に「たすけあいの輪」を広げましょう。
3. キャンパス内のすべての人が健康な生活を送れるよう、大学保健管理施設との連携や、ブロックや行政、医療生協をはじめとする健康に関する活動と連携して、活動をレベルアップさせていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
同志社大学生活協同組合　　専務理事：堂免　　学生委員長：江南
TEL：075-251-4430　　E-mail：info@doshisha-coop.com

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

[事例集]

28 京都大学生協 自炊王者メシキング

[活動の教訓ポイント]

組合員の参加と助け合いの場をつくることで下宿生の自炊をサポートできている点が教訓的。Webの活用や、栄養士さんとの連携など企画をよりよくする工夫もアピールポイント。

活動概要

【日時】2018/5/21~2018/10/5
【場所】主としてWeb上
【対象】*新入生を中心とした組合員全体*

【内容】組合員から「自炊してみたくなる料理」をテーマとしてレシピを募集し、Web上にてグランプリ形式で公開した。組合員には、一番作ってみたいレシピに投票してもらった。

▲投票を呼びかけるビラ

企画背景 組合員の自炊を応援

組合員から自炊用のレシピを求める声が多くあった。また新入生を中心として、自炊に対する意欲はありながらも、何を作ったらいいかわからず行動に移せない人もいた。これらに応えるため、実用的なレシピを共有するための企画を行った。

アピールポイント Webの利用で参加者を増やす

昨年度は、自炊推進の企画として、参加者を募り一緒に料理を作るという企画を行っていた。しかし、施設の広さ等の関係上参加できる人数が強く制限されてしまうことが問題視されていた。

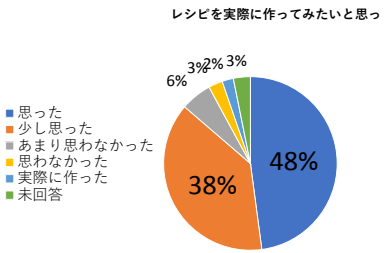
そこで今年度は、Webを中心とした企画を行うことで、レシピ投稿者46名、投票者186名とより多くの方に参加していただくことができ、自炊の推進につながったと言える。

▲Web上で公開したレシピ

組合員の反応 組合員から高評価！

レシピに投票してもらう際にアンケートを行ったところ、レシピを実際に作った人が4名(2%)、作りたいと思った、少し思った人が合わせて160名(88.6%)と、自炊の後押しにつながったと言える。

また、企画に対して、「面白い」「またやってほしい」「自炊したい気持ちになった」などの感想もいただいた。



▲募集用のビラ(表・裏)

内容 ① 組合員からレシピを募集

この企画では、学生委員会から単におすすめのレシピを提供するのではなく、「自炊してみたくなる料理」というテーマのもと、「手軽さ」「コスパ」「独創性」の３つの部門を設け、実際に組合員が普段利用しているレシピを募集した。レシピの応募は、Web上のフォーム・学内で配布する用紙から行えるようにした。普段組合員が実際に利用しているレシピのため、学生でも作りやすいレシピを集めることができた。

内容 ② より多くの人にレシピを共有

管理栄養士の方と相談し、募集したレシピの中から特に優れたものを選考、WebやTwitterを通じて９件のレシピを公開した。このとき、グランプリ形式をとることで、より組合員に興味を持ってもらうようにした。また、Googleformを利用して実際に作ってみたいレシピへの投票も行った。グランプリ形式とWebでの公開により、レシピが組合員の目に触れる機会を増やすことができたと考えられる。また、選ばれなかったレシピのうち選考会で評価が高かったものも、事後情宣として８件をWeb上に公開した。

▲Twitterへの投稿

成果

単なるおすすめのレシピではなく、組合員が実際に作っているレシピを紹介することで、より実用的なレシピとなり自炊を後押しすることにつながった。また、今回初めてWebを中心とした企画を行った。Webの利用で参加者の拡大ができたことは一つの大きな成果である。

課題

Webの利用により、メニューを目にする機会を増やすことはできたが、実際にレシピを作ってもらえたかを、どう確認するかが課題となる。

また、Webの利用方法についても、レシピを実際に調理している様子をダイジェスト動画にして公開するなど、さらなる活用ができると考えられる。

取組みを参考にする上で気をつけること

Web上での企画は、企画参加への敷居を下げ、参加者を増やすことにつながります。しかし、それ故に参加の度合いが浅くなってしまいやすいと感じました。企画の目的に応じて、Webの良さも十分に活かしつつ、実際に組合員に足を運んでもらう企画も行っていく必要があると思います。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2)　安全・安心
安全・安心にキャンパスライフを送り、
健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

1. 心身の健康について目を向けることが、大学生活の充実やその先の将来にもつながっていることを気づけるよう、実態に応じた取組みを広げていきましょう。
2. 怪我や病気になっても対応でき、何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、共済4本柱を意識した活動を通じて、組合員に「たすけあいの輪」を広げましょう。
3. キャンパス内のすべての人が健康な生活を送れるよう、大学保健管理施設との連携や、ブロックや行政、医療生協をはじめとする健康に関する活動と連携して、活動をレベルアップさせていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
京都大学生活協同組合　　専務理事：中島達弥　　学生委員長：山河絵利奈

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
29

奈良工業高等専門学校生協
「ちゃんと食べる」ための食堂回数券

活動の教訓ポイント
組合員がバランスの良い食事がとれるよう、
食事の品数が増えるよう工夫した点に注目！
「規模」に言い訳せず、よりよい食事の提案！

活動概要
【日時】2018年新学期活動～2018年前期セメスター
【場所】生協食堂
【対象】2018年入学予定の新入生
【内容】POSレジがない食堂ですが、ミールを回数券で始めました。きっかけは先生から教えてもらった保護者の声。17年度生協説明会での食堂利用体験をもとに回数券導入を検討し、導入しました。初回利用者は24名。利用者は取り点数にも変化が見られ、今後も継続することになりました。

企画背景　＜きっかけは先生から教えてもらった保護者の声＞
「先生、私はいつまでお弁当を作ればいいんでしょうか？」先生から教えてもらった保護者懇談でのエピソードから、「保護者も毎日のお弁当づくりで悩んでいる！？」「生協食堂が役に立てる事が伝わってない！」「生協の食堂は食卓の延長！（not外食）」と考え、お弁当と食堂の食事で奈良高専生を支えられる「回数券」の形で実施する事にしました。

アピールポイント　＜組合員も生協も元気になるミールシステム＞
丼だけ、麺だけの「ダケ食い」からプラス１品♪
⇒生協食堂の使命【組合員の命と健康を守る】
「ちゃんと食べる」仕組み、しかけが重要、役割発揮
食堂の顧客を増やし、利用単価の引き上げ
⇒利用の安定化、事業構造の改善

損得ではなく、財布の中身を気にせずちゃんと食べたもらいたい。ミールで「儲ける」のではなく、１年生の春から食堂が身近になるように。５年間のお付き合い。安心と信頼を軸に枚数や価格設定を心がけました。

組合員の反応　＜ちゃんと食べようと思う＞
「ちゃんと食べよう」と思う、「良いペースで使えている」と答えてくれる子ばかりでした。最初は、うどんだけ、ラーメンだけとなる子が多かったので、レジ担当の専攻科の先輩から「小鉢を１つ取ってきて」と言うようにして、出来るだけ４５０円に近づくよう、最初の２週間は声かけ頑張ってもらった。券を使っている子同士で固まって席で昼食を摂ったり、小鉢情報を交流したり、この組み合わせが金額的に良いだの話している場面も♪

▲食堂回数券イメージ図

内容 ①　＜食堂利用回数券の概要＞
・33枚綴り　13,500円
・利用期間：4月9日(月)～8月3日(金)：登校81日
・申込方法：入学者オリテ日申込書提出
・支払方法：入学式 回数券お渡し時に現金支払い
・初年度目標件数：20件
※お渡し時にも丁寧に説明し誤解されたままの購入を防ぐようにした。「100円券だと思っていた」と誤解していた方が3名キャンセルされた。（結果的に当日購入4名あり、準備した分は全て販売できた）

内容 ②　＜2018年度前期結果＞

	18年目標	18年(件)	18年(%)	17年(件)	17年実績	16年実績	15年実績
生協加入	100%	204	100.0%	207	100.0%	100.0%	99.0%
共済加入	57%	128	62.7%	116	56.5%	48.8%	46.8%
学賠加入	75%	147	72.1%	140	70.0%	72.2%	72.2%
扶保加入	15%	29	14.2%	37	18.3%	15.6%	10.2%
自転車	50	55	27.0%	62	30.0%	48台	48台
電子辞書(台)	105	108	52.9%	104	50.2%	110台	89台
食堂利用回数券(件)	20	24	11.8%				

成果
目標：20人　申込：24人
利用していない学生と利用学生で取点数に変化も。

課題
・在校生や教職員向けの販売：後期実施済み
・食堂事業の安定（赤黒トントン。安心して利用できるお店。）
・購入数増加により、券の運用は準備や処理が大変。落し物もある。POSレジ導入でミール回数券の仕組み導入の検討。
・小鉢品切れ防止や混雑緩和対策必須。（店舗で対応できる範囲を超えた際、学内議論が発展すれば食堂改修も夢ではない。）

取組みを参考にする上で気をつけること
（本人・親）損か得か？（生協）儲かるか？を軸にするとミールシステムの本質、生協食堂の使命から遠のきます。『どんな食堂であればいいだろう？』⇒意見の出し合い、観察、分析、共感、納得 が大事です。『ミールシステムを活用してみんなの食生活向上を実現しよう♪』という願いを事業化する事が職員の使命ではないでしょうか。規模や施設を言い訳にせず、学生の命と健康に向き合い続けましょう。

2019年ブロック方針との関係性
ありたい姿(2)　安全・安心
安全・安心にキャンパスライフを送り、
健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

1. 心身の健康について目を向けることが、大学生活の充実やその先の将来にもつながっていることを気づけるよう、実態に応じた取組みを広げていきましょう。
2. 怪我や病気になっても対応でき、何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、共済4本柱を意識した活動を通じて、組合員に「たすけあいの輪」を広げましょう。
3. キャンパス内のすべての人が健康な生活を送れるよう、大学保健管理施設との連携や、ブロックや行政、医療生協をはじめとする健康に関する活動と連携して、活動をレベルアップさせていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
奈良工業高等専門学校生活協同組合　店長　西田　有希（にした　ゆき）
TEL：0743-55-2466　E-mail：narakosenc@fm2.seikyou.ne.jp

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

30

大阪大学生協

共済強化月間活動「秋の健康・安全キャンペーン」より
健骨づくり＆大山乳業キャンペーン

活動の教訓ポイント

学生委員会と生協職員が連携し、大山乳業キャンペーン（大学生協牛乳・コーヒーの試飲会）と健康チェック（骨密度測定）を組み合わせた取り組みを行い、組合員に「楽しく」健康について考えてもらうことができた。

活動概要

【日時】2018年10月22日～26日
※試飲会は期間中、各キャンパス1日開催
【場所】大阪大学　豊中／吹田／箕面キャンパス
【対象】全組合員
【内容】共済強化月間における取り組みについて、「秋の健康・安全キャンペーン」と題し、以下の企画を一連で提案実施した。
①無料自転車点検会（10/18）
❷健骨づくり＆大山乳業キャンペーン（2018/10/22～26）
③管理栄養士による食生活相談会（2018/11/19～21）

▲ 情宣ポスター

企画背景

産直活動と予防活動をからめた共済強化月間の取り組み

共済強化月間を含め、阪大生協の共済活動は、ここ数年、先細り、停滞気味であった。今年、共済強化月間での取り組みについて、大学生協らしい「なにか」ができないかと思案するなかで、7月に参加した「大山訪問研修」での学びを結び付けた。訪問研修で自分達（学生委員、職員）の目で確かめた「産地直結の信頼性と安全性」を組合員に伝える一方、そこで学んだ「食への関心度の重要性」を訴えることを共済活動の柱の1本である「予防」活動に据え置いた。

アピールポイント

『おいしい！』『楽しい！』『健康！』をキャンペーンのテーマに

『おいしい！』試飲会で大山乳業製品のおいしさを実感
『楽しい！』学生委員会てんぽ♪局による売り場装飾
新パッケージデザイン投票
『健康！』自身の骨の健康度をチェックし食生活を見直すきっかけに

当初は購買事業部職員、学生委員会、総務部職員がそれぞれに思案していた個々の企画・案であったが、これら職員と学生委員のアイデアをパッケージ化し、組合員へ提案、提供することで、コンテンツに富んだキャンペーンにすることができた。また、それぞれの訴求力に相乗効果を得ることができた。

▲学生委員会よる売り場装飾

組合員の反応

おいしい！甘い！そんなに俺って骨ないの？賑わった試飲会会場

アンケート、現場での反応では、「おいしかった」「甘い」「カロリーが・・・」という試飲についての感想の他、「もっとカルシウムを摂らなくては」「自分の判定結果にショックを受けた」などの骨密度判定結果についての感想、反応も多く見られた。また、これらの感想、反応を参加組合員、スタッフ間でも共有され、交流の場としても大きく賑わった。ちなみに、キャンペーン期間中1週間の大山乳業製の大学生協牛乳・コーヒーは前週比で135％（試飲会実施3店舗のみの集計では160％）の供給増となった。

▲試飲会場（箕面）

▲産直・予防ポスター

内容 ①

学び、調べ、伝えたいことを学生委員がポスターに

キャンペーン期間中、各キャンパス１店舗（合計3店舗）の大山乳業製品売り場を学生委員が装飾、「大山訪問研修」での学び（産直活動）とカルシウム摂取の重要性（予防活動）をポスターにして掲示し、組合員に広め、訴えた。
また、期間中は、通常の品揃えに加え、大山乳業製デザート商品も販売し、賑やかで発信力のある売り場となった。

内容 ②

試飲と合わせて、骨密度判定で骨の健康度をチェック

試飲カウンターには、豊中・吹田：各200名、箕面：300名の組合員が訪れ、サンプル品は予定通りに消費した。また、骨密度判定では多くの組合員がトライ。昼休み時間内での開催であったため、来訪者数は限られ、昼休みという一時的ではあったが試飲カウンターは大きく賑わい、試飲の感想、判定の結果についての反応など、組合員間の交流の場としても大きな意味をなした。

▲試飲会場（豊中）

成果

今回、大学生協牛乳・コーヒーの纏わる購買事業部の企画と学生委員会てんぽ♪局の企画に「カルシウム」というキーワードで共済の「予防」提案活動を絡めた。また、食堂事業部が開催を思案していた食生活相談会についても、共済強化月間の活動のひとつとして、開催を後押しするかたちで実現し、結果的にではあるが、今回の共済強化月間における取り組み「秋の健康・安全キャンペーン」は共済担当部署（総務部）だけの活動にとどまらず、複数の事業部、学生委員会の生協全体で取り組ことができた。

課題

大学生協には「加入」「給付」「予防」「報告」の発信・提案といった共済活動を添えることができる（するべき）商品、サービス、機会に溢れている。
各事業部職員、学生委員会を含む生協全体が共済活動の推進を大学生協の基幹活動のひとつとして、より強い意識を持つことにより、共済教化月間中のみならず、日常から共済活動の幅は大きく広げることができると思われる。今後、この意識付けを組織全体に広め、活動、取り組みの源としたい。

取組みを参考にする上で気をつけること

「気をつけること」ではなく所感ですが、今回の「健骨づくり＆大山乳業キャンペーン」「管理栄養士による食生活相談会」はともに、事業部が予定、思案していた試飲会、相談会に「相乗りしてまとめ、推し進めた」というかたちです。これには共済強化月間での取り組みの着手が後手気味になったという事実要因による結果でもあります。しかし「相乗り」というと聞こえは悪いものの、結果的には生協全体の取り組みとすることができ、共済活動について内部意識高揚にもつながったと思っています。共済強化月間の取り組みはもとより、日常の共済活動について、いま一度、原点に戻り、組織内で基幹活動のひとつとして意思統一し取り組んでゆくことの重要性を改めて感じました。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2)　安全・安心
安全・安心にキャンパスライフを送り、
健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

1. 心身の健康について目を向けることが、大学生活の充実やその先の将来にもつながっていることを気づけるよう、実態に応じた取組みを広げていきましょう。
2. 怪我や病気になっても対応でき、何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、共済4本柱を意識した活動を通じて、組合員に「たすけあいの輪」を広げましょう。
3. キャンパス内のすべての人が健康な生活を送れるよう、大学保健管理施設との連携や、ブロックや行政、医療生協をはじめとする健康に関する活動と連携して、活動をレベルアップさせていきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
大阪大学生活協同組合　専務理事：關戸　企画担当：宮﨑（総務部）
TEL：06-6841-3326　E-mail：n-miyazaki@osaka-univ.coop

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

大学生協 関西北陸ブロック 2018年活動事例集

ありたい姿

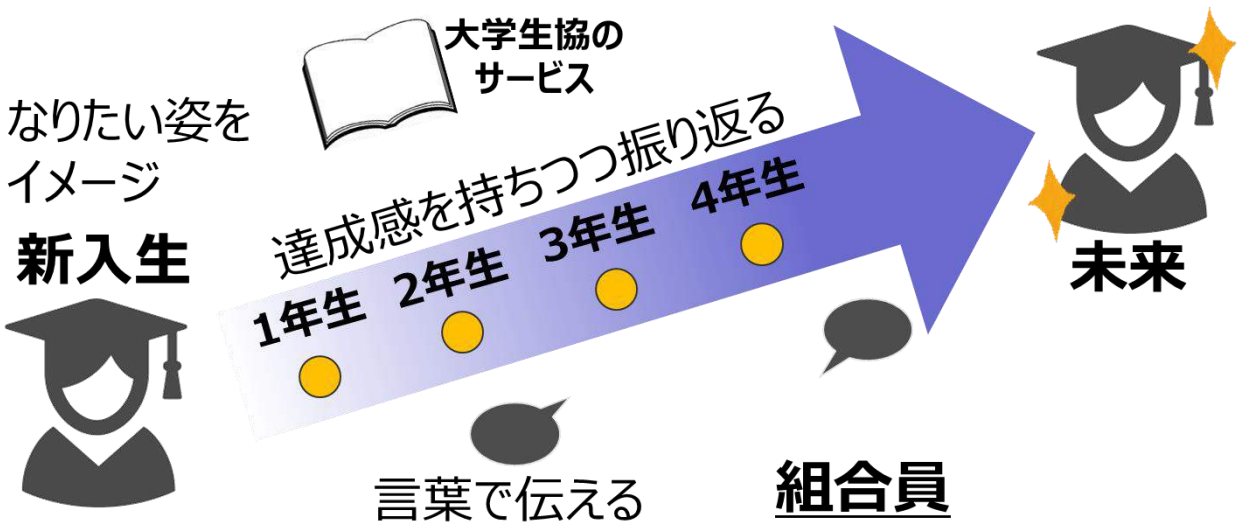
学びと成長

3

日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、
将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

実現に向けて

1. 組合員が大学生活の実感や経験を自分の言葉で伝えることで、
   次世代の組合員が目的・目標を持ってキャンパスライフを過ごせるような機会を作りましょう。
2. 学生組合員が新生活のスタートから継続して、なりたい姿をイメージでき、
   達成感を持ちつつ目標に向けて行動できるよう、考える場面を作っていきましょう。
3. 生協で取り扱っている商品やキャリア事業・活動を発信したり、大学と連携したりすることで、
   大学内のすべての人が、自身の学びや成長に必要な情報や機会をもてるように工夫しましょう。



［事例集］
31

福井大学生協
オープンキャンパス

未来の組合員に福井大学や大学生活の魅力を知ってもらうため、キャンパスツアーや生活紹介を実施。大学とも連携を図りました。

活動概要

【日時】2018/8/8－8/9
【場所】福井大学文京キャンパス・松岡キャンパス
【対象】受験生・高校生

【内容】
未来の組合員である、受験生に対して、学生の目線から大学生活を伝える、キャンパスツアーや生活紹介などの企画や、かき氷配布などを実施。

▲`担当したスタッフ

企画背景　＜未来の組合員に大学生活をイメージしてもらう！＞

入試課が例年主催しているオープンキャンパスであるが、学生委員として、未来の組合員に大学生活に希望を持ってもらうために、学生の視点として学生生活を伝えらるような活動を実施。高齢企画であるが、今年度は企画内容の再検討も実施。

アピールポイント　＜大学生として参加＞

それぞれの企画にて、しっかりと統括が大学生としての視点でどのようなことを伝えられるか、どのようなことが知りたいのかをしっかりと検討し、生活紹介では、発表内容を、キャンパスツアーでは、回るコースを検討した。
また、新しく入ってきた1年生にとっては、初めてやるようなことになるので、しっかりと1月以上の研修期間を設け、本番に備えて、先輩がノウハウを伝えていけるようにしている。

▲かき氷配布

組合員の反応　＜楽しさを伝える＞

参加者は主に、受験のことなどを知るために参加しているが、大学生活を楽しそうに伝えている、先輩を見て、楽しさが伝わっているように感じた。
勉強のことだけはなく、実際に学生がどのような生活をしているかや、大学の様子などを感じてもらう機会になったと考える。

▲キャンパスツアー時の写真

▲キャンパスツアー受付

内容 ①　＜キャンパスツアー＞

工学部コースと、教育・国際コースに分かれて実施されるキャンパスツアーを実施。学部に合わせて、コース編成を実施。例年はいつでも入れるところを回ることが多かったが、今年度は、学生しか入れない、図書館の書庫を見学。
事前にメンバーを選び、実際のコースを何回か回りながら、ツアーする側の内容も、しっかりそれぞれで考えてもらう。

内容 ②　＜生活紹介＞

パワーポイントを用いて、学生の普段の、授業だけではなく、アルバイトや、長期休暇、サークルなどの、全般的な大学生活について先輩の実際の生活を踏まえて高校生に紹介する。
また合間時間に来場してくれた参加者に対しても、相談ブースとして、質問などがあれば、先輩が答えてくれるという企画も同時に実施した。

▲生活紹介

成果

それぞれの企画にて、それぞれの方向性で大学生活を伝え、大学の生活をイメージしてもらうことができたように感じる。キャンパスツアーに関しては100組弱の参加があり、行列ができた。

課題

例年同じような企画を続けており、企画の方向性としては問題ないが、内容をもっと検討し直し、良いものにしていかないといけない。キャンパスツアーに関しても、少し冗長的なコースになっているかもしれないので、もっと学部にフォーカスして内容を検討するべき。

取組みを参考にする上で気をつけること

前提として、入試課との連携が絶対なので、オープンキャンパス全体を統括し、入試課と連携する担当者をつける必要がある。また、大学ごとに入れるところや、大学側で利用している教室もあるので、その辺りをしっかり確認して企画づくりをする必要がある。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3)　学びと成長
日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

1. 組合員が大学生活の実感や経験を自分の言葉で伝えることで、次世代の組合員が目的・目標を持ってキャンパスライフを過ごせるような機会を作りましょう。
2. 学生組合員が新生活のスタートから継続して、なりたい姿をイメージでき、達成感を持ちつつ目標に向けて行動できるよう、考える場面を作っていきましょう。
3. 生協で取り扱っている商品やキャリア事業・活動を発信したり、大学と連携したりすることで、大学内のすべての人が、自身の学びや成長に必要な情報や機会をもてるように工夫しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
福井大学生活協同組合　専務理事：磯崎　学生委員長：清水
TEL：0776-21-2956　E-mail：shimizu.yy@fc.univcoop.or.jp

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
32

奈良教育大学生協高畑キャンパス
なんとしてでも総じて解決！
～ なんでも相談会 ～

活動の教訓ポイント

新入生組合員のニーズに沿った企画として、新入生の97%が参加してもらうことができました。また準備段階から大学と連携することができました。

活動概要

【日時】2018/4/4(水)・5(木)　13：00～18：00
【場所】奈良教育大学　高畑キャンパス
【対象】奈良教育大学2018年度新入生

【内容】学生スタッフ70名、新入生265人(273人中)参加
新入生が大学での充実した学びを行えるよう、履修計画を立てるサポートを同じ所属の先輩と共に行う。各所属ごとに異なるカリキュラムに対応して個別相談を行う。

▲新入生の97%が参加！

企画背景　一人一人にあった計画を立てる。

本学では教育学部という1つの学部で、専門科目や分野ごとに学生が所属する「専修」が分けられており、それぞれの専修ごとに必要な単位、受けるべき授業が異なり、それによって全員の共通の講義の登録にも大きな差が生まれるなど、各所属ごとの特有の事例が多く、対応が必要だと考える。

アピールポイント　先輩による個別対応

新入生一人一人に取得したい資格や教員免許状の種類が異なり、それらが大まかに専修で分けられてはいるが、全員が受ける大学のガイダンスでは一人一人の対応をすることはできない。そのため、同じ専修の先輩のサポートで個別対応を取ることにしている。また、「なんでも相談会」と銘打っていることもあり、部活動やサークル、学生生活についての不安解消など、新入生の様々な悩みに対応できるように、各スタッフの経験談を交えて話ができるよう学生委員会のメンバー以外の学生にも協力してもらった。

▲1対1での対応。新入生もスタッフも同じ所属の先輩後輩。

組合員の反応　来年以降も計画を立てられる

参加者からは、授業の登録についての冊子を渡されるだけで、途方に暮れる中でこの相談会が開かれ、安心して大学生活を始められた、先輩と関わる機会ができたという声が毎年あがる。この相談会では1年の授業計画を立てる手順を記した冊子を参加者に渡しており、それを使えば次年度以降の計画にも役立つと評判が良い。こうして助けられた経験から、学生委員会外の協力を好意的に行ってくれる学生も多い。

▲全体図。円形のブースにして多人数対応を行いやすくした。

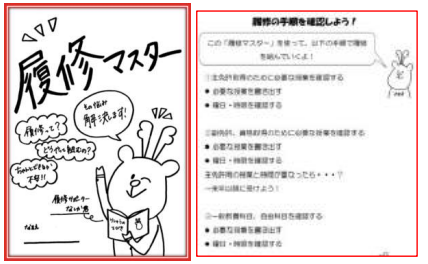
▲実際の配置図

内容 ①　履修相談

本学では、専門科目(数学、国語など)や専門分野(特別支援教育、心理学など)ごとに所属が分かれ、その所属する専修によって卒業要件となる教員免許状の種類が異なる。(小学校免許、中学校数学の免許など)また、2つ目の免許として自分の専門以外の免許も取得できる。それらのニーズに対応して、各スタッフがそれぞれどの免許について知識を持っているかを把握し、それぞれの分野ごとのブースを作った。

内容 ②　自作冊子による流れの一括化

なんでも相談会では毎年、多くのスタッフで行うため、どの先輩が相手でも同じように計画を立てられるようになる必要がある。それを為すために「履修マスター」という冊子を作成した。これは大学からもらう授業登録のための冊子の解説をしながら、計画と登録の手順を確認し、全員が同じ流れで計画を立てるための冊子である。また、履修マスターを使って事前に相談のロールプレイングを行い、スタッフ全員が参加者の持つ履修マスターを共に読み解きながら相談を進められるようにした。



▲履修マスター。
この冊子で相談の流れを統一した

成果

この企画は大枠は変えず何年も続けて行われているものであり、学内での知名度は高い。毎年多くの新入生が経験するイベントであり、学生委員会に入ろうと思ったきっかけになったという声もある。それだけ大きな規模で行えている現状を継続していきたい。また、2年生からも「昨年のように履修マスターを使って計画を立てた」という声もあり、ニーズに合った活動と言える。

課題

今回の企画では相談会の開催時間が大学の新入生向けのガイダンスと一部重なってしまい、行事の把握や日程調整など、大学との連携が完全なものではなかった。毎年、入学式から授業開始までの短い期間に行わなければならないので、しっかりと情報を集めて必要な連携はしっかりと取っていく必要がある。

取組みを参考にする上で気をつけること

授業選択、授業登録の複雑さは各大学ごとのものだと思われるので、対応の方法はそれぞれに異なると思います。また、カリキュラムが発表されてそれをまずはスタッフが理解したうえで初めて新入生に説明ができるようになるので、大学の教務関係の窓口との連携は必須です。本学では毎年新年度のカリキュラム公開から企画当日までの期間が短いので、先を読んだ準備が大切です。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3)　学びと成長
日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

1. 組合員が大学生活の実感や経験を自分の言葉で伝えることで、次世代の組合員が目的・目標を持ってキャンパスライフを過ごせるような機会を作りましょう。
2. 学生組合員が新生活のスタートから継続して、なりたい姿をイメージでき、達成感を持ちつつ目標に向けて行動できるよう、考える場面を作っていきましょう。
3. 生協で取り扱っている商品やキャリア事業・活動を発信したり、大学と連携したりすることで、大学内のすべての人が、自身の学びや成長に必要な情報や機会をもてるように工夫しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
奈良教育大学生活協同組合　専務理事：石間奈津子　　学生委員長：大濵良太
E-mail：ryot0316a@gmail.com

TOYAMA　ISHIKAWA　FUKUI　SHIGA　KYOTO　NARA　OSAKA　HYOGO　WAKAYAMA

［事例集］
33

大阪市立大学生協
新入生・保護者説明会

活動の教訓ポイント

職員・組織部・講座に関わる学生などが一丸となって新入生・保護者を迎えることができている説明会。伝わりやすい流れが意識された全体発表では複数の4年生が目的意識をもって大学生活を過ごすことの大切さを伝えている。

活動概要

【日時】2018/3/17/18/21/24/25/28
【場所】大阪市立大学　810教室　北食堂
【対象】市大の新入生とその保護者
【内容】
新入生やその保護者の大学生活の不安解消を目的として、生協のサービスや資料の紹介、大学の先輩や教授からのお話、組織部の新歓の宣伝などを行っています。一日に300人以上の新入生や保護者の方が訪れることもあります。

▲当日の会場の様子

企画背景　大学生活の不安を解消したい

大学入学前に不安を抱える新入生やその保護者には「大学ではどのようなことを学ぶのだろう」「大学生活で何か困ったことが起きたとき、生協ではどのようなサービスを利用できるのだろう」など様々な不安があると思います。そのような不安を解消するために新入生・保護者説明会を行っています。

アピールポイント　様々な人と一緒に作っている

新入生・保護者説明会は組織部員や専務だけでなく、生協の職員さんや生協で行っている英語講座やパソコン講座のスタッフの一緒になって作り上げています。このことで生協の様々なサービスについての詳しい説明を行うことができるだけでなく、様々な学部の学生がスタッフであるため新入生の学部別の様々な質問な悩みにも答えることができます。
またこの説明会は市大生協全体の連携を確認する貴重な場にもなっています。

▲様々なスタッフが活躍している様子

組合員の反応　詳しい説明を聞けて良かった！

1日に300人以上の方に来ていただけるなど大盛況でした！また、新入生からは「自分の学部の先輩にいろいろ相談できてよかった」「大学の雰囲気が分かってよかった」などの声をいただきました。また保護者の方からは「ミールカードや共済についての詳しい説明が聞けてよかった」「親目線の生協や大学生活の説明もあったので安心できた」などの声をいただきました。新入生と保護者の方のそれぞれの不安や悩みに寄り添った説明会を行うことができたのではないかと考えています。

▲説明会後のブース対応の様子

▲全体での説明会の様子

内容 ①　大学の先輩によるお話

この説明会では最初に理事の先生に大学生活の学びについての話をしていただいた後に、市大の４回生の先輩に就職など将来のことを見据えて、大学生活で得てほしいものについての話をしてもらっています。
複数の先輩の話を聞いてもらうことで、新入生に大学生活や将来のことについてのビジョンを広く持ってもらうことができるような説明会を目指しています。

内容 ②　新入生・保護者別の説明

お昼の時間には新入生と保護者で別々に昼食を取ってもらいます。その間に保護者の方には専務や生協職員からの生協のサービスについてのより詳しい説明を行ったり、新入生には学部別の相談会を行ったりしてます。このことで新入生・保護者それぞれの不安や悩みにさらに寄り添った説明や相談などを実現しています。またお昼の時間には隣の会場で新入生向けのパソコン講座の体験版を行い、実際の生協で行っている講座を体験してもらう時間も設けています。

▲保護者の方に向けた説明の様子

成果

1日に300人以上の方に来ていただいた日もあるほどの大盛況でした。新入生・保護者の方の大学生活の不安を解消できたという声を聞くことができました。またこれからの様々な活動に向けて、専務や組織部員、生協職員や生協で行っている講座のスタッフなど生協全体での連携を確認できたのも大きな成果と言えます。

課題

今回の説明会では説明会の最後に設けている生協パソコンやミールカード、共済についてのブースを利用される方が少なかったのが問題としてあがりました。今後は午前中の説明会の内容を最後のブースにどこまでつなぐことができるのかということが課題としてあげられます。

取組みを参考にする上で気をつけること

この取り組みでのポイントは「新入生・保護者の大学生活に対する不安を解消にしたいという思いをもって、生協全体で協力した」というところだと考えています。学生委員だけではなく、様々な生協関係者を巻き込み１つの共通した思いを持った取り組みを行ってみてはいかがでしょうか。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3)　学びと成長
日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

1. 組合員が大学生活の実感や経験を自分の言葉で伝えることで、次世代の組合員が目的・目標を持ってキャンパスライフを過ごせるような機会を作りましょう。
2. 学生組合員が新生活のスタートから継続して、なりたい姿をイメージでき、達成感を持ちつつ目標に向けて行動できるよう、考える場面を作っていきましょう。
3. 生協で取り扱っている商品やキャリア事業・活動を発信したり、大学と連携したりすることで、大学内のすべての人が、自身の学びや成長に必要な情報や機会をもてるように工夫しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
大阪市立大学生活協同組合　　専務理事：堀隆行　　学生委員長：岡
TEL：06-6605-3011　　E-mail：soshikibu@coop.osaka-cu.ac.jp

TOYAMA　ISHIKAWA　FUKUI　SHIGA　KYOTO　NARA　OSAKA　HYOGO　WAKAYAMA

［事例集］
34

大阪樟蔭女子大学生協
新入生保護者説明会

活動の教訓ポイント

「知りたい」に応えようという想いで様々なコンテンツが用意された。特に今年度は「クロージング紙芝居」に力をいれ、大学生協や学生生活など1日の内容を丁寧にわかりやすく伝えることができた

活動概要

【日時】2018/2/17,24・3/10,17
【場所】翔空間10階1001教室
【対象】新入生・保護者

【内容】
学生生活と生協紹介
生協総合共済と各種教材のご案内
私の4年間と夢の実現へ向けて
キャンパスツアー
生協食堂を利用する
座談会
相談展示ブース／学科＆教材ブース

▲学生生活と生協紹介の時間

企画背景　『知りたい』に応えようという想いから始まったーー

・入学前の新入生と保護者に不安や疑問を解消してもらいたい。
・そして保護者に子供が通う大学について知っておいてほしい。

アピールポイント　ここ、がんばりました。

・学科特性に合ったキャンパスツアー
　学生委員の普段の経験とともに伝えました。
・クロージング紙芝居
　1日の内容をふり返ることを大切にしました
・地下ブース
・ことモノ提案

▲クロージング紙芝居で1日を振り返る

組合員の反応　貴重な意見の一部を公開

・使う教室を丁寧に教えてもらった。どのように大学生活を過ごせば良いかわかりました。（新入生）
・**先輩学生の4年間の大学生活は、詳しくて特に参考になりました。4年間をイメージ出来ましたし、不安も少し解消したかと思います。（保護者）**
・学生目線で自分の体験されてことを話されていたのでわかりやすかった。（保護者）

▲学生・新入生・保護者の距離が近いキャンパスツアー

▲台本なんてない。自分の言葉で伝えた紙芝居

内容 ①　クロージング紙芝居

食堂模擬利用後の座談会にて**1日の内容を振り返る紙芝居**を学生委員が行いました。この紙芝居には学生生活や生協について、共済や各種教材についてなどを記載しています。ポイントをイラストで分かりやすく表し、班についている学生委員各々が**自分の言葉で伝える**ことに努めました。

内容 ②　地下ブース

各学科の時間割、生協学生委員会の活動紹介を展示しました。また、教科書やノート、学科によっては授業内で作成したモノも実際手に取ってもらえるよう展示しました。**学科ブースには学生委員の各学科の者が常駐し、新入生・保護者の質問に応えました。**女子大ならではの学科など、特徴的な学科が多いので、よりイメージを持ってもらうためのブースづくりを行いました。さらにパソコン、ピアノ、電子辞書に実際に触れてもらい、紹介しました。

▲学科ごとの不安に応えます！

成果

様々な工夫で新入生・保護者多数の人の不安を解消することができました。**入学までの準備だけでなく、4年間を意識できるように伝えることができました。**
また、今後の保護者説明会に活かせる意見も出てきたので、次回以降、より新入生・保護者の「知りたい」に応える説明会にしたいです

課題

キャンパスツアーにて学科ごとに情報の偏りが見られたため、より全員が各学科の情報を把握し偏りなく提供できるようにします。

取組みを参考にする上で気をつけること

・間違った情報を伝えないように大学側とも要相談！
・大学との協力・連携の重要性

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3)　学びと成長
日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

1. 組合員が大学生活の実感や経験を自分の言葉で伝えることで、次世代の組合員が目的・目標を持ってキャンパスライフを過ごせるような機会を作りましょう。
2. 学生組合員が新生活のスタートから継続して、なりたい姿をイメージでき、達成感を持ちつつ目標に向けて行動できるよう、考える場面を作っていきましょう。
3. 生協で取り扱っている商品やキャリア事業・活動を発信したり、大学と連携したりすることで、大学内のすべての人が、自身の学びや成長に必要な情報や機会をもてるように工夫しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
大阪樟蔭女子大学生活協同組合　専務理事：後藤　学生委員会担当：大畑
TEL：06-6730-6577　E-mail：seikyo@ex.bw.dream.jp

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
35

京都教育大学生協
パ　ソ　コ　ン　講　座

活動の教訓ポイント

新学期活動で提案したモノをその後の大学生活できちんと使ってもらう、「コトモノコト提案」の実践例です。さらに、学生主体で作りこむことで、先輩の生活・経験を基にしたより参加者にとって役立つ内容にできていることもポイントです。

活動概要

【日時】2018/04/12～5/12
【場所】京都教育大学　D棟各講義室
【対象】新入生
【内容】
教育大ではレポートを書く機会がわんさか！でも書き方が分からない･･･といった新入生を対象にOfficeの各機能の使い方をsurface proを生かしながら分かりやすく教える講座です！

▲実際使用したスライド（予告動画）

企画背景　＜将来を見据えて！＞

教育大生には欠かせない教育実習！パソコンが使えなくて夜遅くまで頑張っている学生がたくさんいました。また、1回生はレポートの書き方がわからないという悩みがあり、何か助けができないかと考えWord等のツールを基礎から**「学生が」先輩の経験から講座を作り**、先輩が教える講座にすることで繋がりも出来るし積極的に質問もしやすくなるのでは？と考えました。

アピールポイント　＜学生主体！＞

今までは外部からパソコンに詳しい講師の方をお呼びして、主にWord,Powerpoint,Excelについて講義を行ってもらっていましたが、今回は講座自体を1から学生たちの力だけで作り上げました。
私達が1回生の時はパソコンに関してどのようなことで困っていただろう？どうすればより分かりやすく伝わるのだろう？ということを常に考えることを基本方針として製作を進めました。

▲実際に使用したスライド（Excel編）

組合員の反応　＜やってよかった…＞

受講生からは大変満足度が高い反応をいただきました。アンケートからは、**「パソコンをこれからも活用していきたいと思った」「苦手意識がなくなった」「先輩がやさしく教えてくれてよかった」**というような声がありました。
また、来年度のパソコン講座のTAをぜひやりたい！と言ってくれている1回生がたくさん見られました。

▲surfaceの活用シーン

▲受講生によるプレゼンテーション

内容 ①　＜学生が作った授業＞

今年のパソコン講座は、先程も申し上げた通り**学生が全て講座の中身を考え、そして学生が授業を行いました。**つまり、前に立つ講師もGLもすべて京教生です！また、word・excel・power pointの3観点に加えて**surface proの特徴を活かせるようにone noteの講座**も作りました！大学生活においてどのようなパソコンスキルが必要かを**先輩の経験**から作り上げていく講座を目指しました！！

内容 ②　＜教育大らしい！！＞

将来教員になる京教生！だけどパソコンはレポート以外使わないし学校に持ってきていなかったり、教育実習の場面でパソコンの使い方がわからず焦ったし時間がかかったという声から**教員を意識した講座**を大切にしました。学級通信を作成したりプレゼンテーションを行なったり成績処理の話を入れ込んだりしました。
また、**教えあいができるようにグループ活動**にしたこともポイントです。

▲グループ活動（PowerPoint）

成果

①受講生同士の**教えあい**が講座だけでなく、講座以外でも見られた。
②受講生だけでなく**講師・TAもスキルアップ**することができた。
③先輩・同回との**友だち作りの輪**を作ることができた。

課題

①満足度は高かったが、出席率が後半になってくると低下していった。部活やサークルで忙しい１回生に講座の重要さ伝え出席率を上げていきたい。
②講師・TAの知識や意識が統一されていなかったため講座のレベルに若干の差が生じ、受講生のモチベーションにも影響した。

取組みを参考にする上で気をつけること

学生が教えることはすごく責任が大きいと思います。なので、講師・TAの講習会などに積極的に参加していただいて、学生自身もスキルを身につけた上で講座に臨んでほしいと思います。
また、受講生のパソコンのもともとの上達度によってどれほどの難易度の講座にするか考えることが必要になってきます。クラス分けするというような工夫が必要です。ぜひ参考にしていただけたら嬉しいです。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3)　学びと成長
日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

1. 組合員が大学生活の実感や経験を自分の言葉で伝えることで、次世代の組合員が目的・目標を持ってキャンパスライフを過ごせるような機会を作りましょう。
2. 学生組合員が新生活のスタートから継続して、なりたい姿をイメージでき、達成感を持ちつつ目標に向けて行動できるよう、考える場面を作っていきましょう。
3. 生協で取り扱っている商品やキャリア事業・活動を発信したり、大学と連携したりすることで、大学内のすべての人が、自身の学びや成長に必要な情報や機会をもてるように工夫しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
京都教育大学生活協同組合　専務理事：崎濱　学生委員会PC講座担当：菊池

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
36

和歌山大学生協
講座スタッフ　PC・IT活用講座

活動の教訓ポイント
新学期活動の中で参加者に対して性格分析を行い
参加者の強みを生かせるように工夫している点が教訓的！

活動概要

【日時】2018/4/17~2018/6/28
【場所】和歌山大学　GENKI食堂
【対象】講座受講希望の新入生

【内容】PCスキルや友達作りに不安を抱えている新入生のために、**友達作りの場**として、**学びの場**として、生協が提案している講座です。

企画背景　PCを「活用」してほしい

PC必携化となり、昨今ますますPCスキルに不安を持つ新入生が増えています。PCは使えなければ買う意味がありません。その不安を解消し、PCとITスキルを活用することで大学生活をより充実したものにしてほしい、という想いで開講しています。

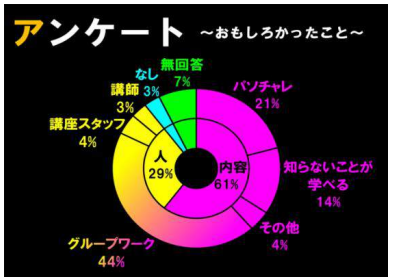
アピールポイント　徹底した「グループワーク」

S-Portを受講生にあらかじめ受けてもらい、その分析結果を元に受講生を班分けします。この時4つのタイプが均等になるように、学部別・男女別などなど…色々なことを考慮しました。班にはスタッフが付きますが、受講生の人数に比べてスタッフの人数が少ないので、複数の班を1人で持っています。そこで、班の中で「**グループリーダー**」を１人作ってもらいます。グループリーダーに、こちらが用意した「指示書」を渡し、**協力してワークをこなしていくことでグループ内の交流を積極的に増やしています。**

▲実際の講座中の画像

組合員の反応　Googleフォームアンケート

講座終了後、Googleフォームを使って受講生にアンケート（おもしろかったことを自由記述形式）を取ったところ、右のグラフのようになりました。特に**グループワーク**の内容や、その際のスタッフの立ち振る舞いがよかったという評価をもらうことが出来ました。**PCスキルが身に付き**自信になったり、**友達や恋人**ができた受講生も多いようです。



▲アンケート（おもしろかったこと）

▲実際の席の配置

内容 ①　講座までの準備

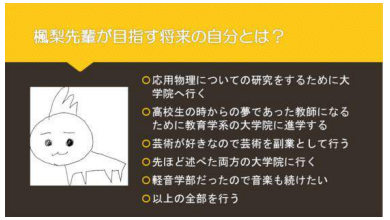
株式会社EDUCEさんと、**年間を通じて講座の打ち合わせをしてきました。**スタッフとしての立ち振る舞いを学ぶために研修にも積極的に参加しました。また、ショートカットキーなどの小技を教えられるように、スタッフ側のパソコン講座も行いました。

スタッフが受講生の見回りを行いすぐに助けられるように、席の配置を考えました。

内容 ②　受講内容

はじめに、Windowsの基本操作を学び、パソコンを操作することに慣れてもらうことから始めました。次に、パソコンの操作が分かったら、**Word, PowerPoint, Excelの操作方法を、大学の授業での活用場面などを紹介しながら学んでもらいました。**

最後に、この講座で学んだことを活かして、グループで「かっこいい先輩」をPowerPointを使って発表してもらいました。これにより**受講生はプレゼン能力も身につけることができました。**



▲実際に受講生が作ったスライド

成果

年間を通じて綿密に計画や準備したことが、受講生の喜びの声として視覚化することが出来ました。また、受講生・スタッフ共に**仲良くなり、楽しく学ぶことができたと実感した**ので、満足度の高い講座になりました。グループワークとグループリーダーの制度が、成功のカギだったと思います。

課題

グループリーダーを設けることによって、理論上、複数の受講生を少数のスタッフで対応することが出来ます。しかし、トラブルが多くの場所で起きた時に対処できないので、今後の活動のことを考えると**スタッフの人数が少ないということは課題である**と思います。

これからスタッフの勧誘も積極的に行っていく必要があります。

取組みを参考にする上で気をつけること

入学前の新入生とその保護者を対象に行われる新入生・保護者説明会のプレゼンや個別相談会を私たちスタッフが担当して、**新入生と話す機会や私たちを知ってもらう機会を増やしています。**そこで、PC・IT活用講座、パソコン必携化に伴う大学の授業について説明し、新入生にPC・IT活用講座を受講してもらうようにしているので、**どれだけ新入生に宣伝できるかが重要**だと考えています。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3)　学びと成長
日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、
将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

1. 組合員が大学生活の実感や経験を自分の言葉で伝えることで、
   次世代の組合員が目的・目標を持ってキャンパスライフを過ごせるような機会を作りましょう。
2. 学生組合員が新生活のスタートから継続して、なりたい姿をイメージでき、
   達成感を持ちつつ目標に向けて行動できるよう、考える場面を作っていきましょう。
3. 生協で取り扱っている商品やキャリア事業・活動を発信したり、大学と連携したりすることで、
   大学内のすべての人が、自身の学びや成長に必要な情報や機会をもてるように工夫しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
和歌山大学生活協同組合　　専務理事：栗山　　学生スタッフ：井口
TEL：073-452-8497　　E-mail：k-kuriyama@hanshin.coop

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
37

同志社生協今出川キャンパス
Campus Life Seminar

活動の教訓ポイント

参加者の学びの流れを意識しながら企画コンテンツを作りこむことができています。参加者に大学生活の4年間のプランを立ててもらうことで、その後の大学生活においてもビジョンをもって過ごしてもらうきっかけづくりができました。先輩の経験・実感を伝えられているのもポイントです。

活動概要

【日時】2018/3/30(金)～3/31(土)、6/23(土)
【場所】同志社大学明徳館食堂
【対象】同志社大学新入生
【内容】2日間の企画の中で、**講師講演や様々な経験をしてきた先輩達の講演**などを聞くことで大学生活の送り方を知ったり、**SEQや人生の折れ線グラフ**などを通して自分なりの大学生活のプランを考えたりして、最後には**大学4年間のプランを立ててもらった**。

▲企画終了時の集合写真

企画背景 ＜充実した大学生活を送ってもらいたい！＞

大学入学前に一足先に**大学生活の4年間のプラン**を持ち、大学生活の先を見据えた行動をとることで、充実した大学生活を送ってもらいたいという目的があった。
また、企画当日は入学式直前ということもあるため、日々の生活に関する情報なども交えていくことで、**入学前の不安解消にも役立てたい**と考えていた。

アピールポイント ＜充実したコンテンツとプラン立てに活かせる流れ＞

初日に**講師講演で大学生としての歩き方を学び**、その後実際に大学生活を送ってきた**4回生の話を聞くことで4年間の過ごし方を知る**ことができた。こういった講演を聞いたうえで、自らのやりたいことを考えてそれについて具体的に調べることを2日目までの宿題とした。
2日目の参加者それぞれが**4年間のプラン立てをする際に初日の講演や宿題といった流れを踏まえた**ことで、より充実したプランを立てることができていた。
また、プランに沿って大学生活を送れているかを振り返るために6月に事後企画を行った。

▲講師講演と4回生の話の様子

組合員の反応 ＜学ぶだけでなく、楽しめた！＞

2日間のアンケートには「入学前に一足先に**大学生活のビジョンを考える**ことができて本当によかった。」「2日間でたくさんの1回生や先輩方と交流でき、**不安が軽減**された。」といった意見が多数あった。
特に、各コンテンツの満足度が高いだけでなく、GLとして参加した学生委員の先輩との交流を通して楽しんで参加してもらえただけでなく、不安解消にもつながった。
また、**同じ目標を持った1回生同士で交流**を深めたことで、4年間ともに**頑張っていこうという意欲が強まっていた**。

▲ゲームなどを交えた班内交流の様子

▲様々なジャンルで活躍する先輩達

内容 ① ＜先輩企画＞

サークル・バイト・留学・ゼミ・大学院・ビジネスの6つのジャンルでそれぞれ活躍されている先輩を呼び、分人会形式での発表を聞くことで、**参加者に視野を広げてもらい、自分のプラン立てに活かすことができていた**。
また、**先輩たちそれぞれにも楽しんでもらい**、この先輩企画によって参加者がより幅広い大学生活のイメージをもつことができた。

内容 ② ＜4年間のプラン立て＞

初日に自らのやりたいことについて具体的にネットなどで調べてきてもらうように宿題を出し、その**宿題をもとに4年間のプラン立てを行った**。この宿題があったことによりスムーズにプランを立てることができた。
また、**プラン立ての際はやりたいことが似た参加者ごとに班分けをし直した**ことで、より多くの参加者同士の交流ができただけでなく、同じような目標を持った参加者同士でプランを立てていったため、お互いにがんばっていこうという意欲が出てきた。

▲4年間のプラン立て表の例

成果

2日間を通して大学生活に対して幅広い視野を持つことができ、自らの大学4年間のイメージを持っただけでなく、**具体的な4年間のプランを立てることができた**。
さらに、多くの参加者同士や先輩との交流などを通して**入学前に抱いている様々な不安を解消することもできた**。

課題

2～3回生がGLとして4年間のプラン立てをサポートしたが、4回生の時に何をするのかということが具体的にわからずうまく説明できなかった。
また、**4年間のプラン立てをした後の事後フォローができないということがあった**ため、事後企画を急遽6月に行ったものの、参加者がなかなか集まらずプランの振り返りを行うには不十分なものとなってしまった。

取組みを参考にする上で気をつけること

先輩企画で発表してもらう様々なジャンルで活躍されている先輩を探すことが時期的にも難しく、4回生に関してはより難しかったため、事前に探しておくことをお勧めします。
また、まじめな内容が多く、時には参加者が眠たくなることがあったため、コンテンツを面白くしたり先輩GLがサポートしてあげたりする必要があると思います。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3)　学びと成長
日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

1. 組合員が大学生活の実感や経験を自分の言葉で伝えることで、次世代の組合員が目的・目標を持ってキャンパスライフを過ごせるような機会を作りましょう。
2. 学生組合員が新生活のスタートから継続して、なりたい姿をイメージでき、達成感を持ちつつ目標に向けて行動できるよう、考える場面を作っていきましょう。
3. 生協で取り扱っている商品やキャリア事業・活動を発信したり、大学と連携したりすることで、大学内のすべての人が、自身の学びや成長に必要な情報や機会をもてるように工夫しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
同志社生活協同組合　専務理事：堂免裕子　学生委員会委員長：児島佳幸
TEL：075-251-4863　E-mail：ryoshin.cv@doshisha-coop.com

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
38

大阪府立大学生協
出発サポートプログラム

活動の教訓ポイント

「明るく、元気で、たくましい学生」を社会に送り出すために、1年間通じて新入生の学びと成長をサポートできた活動。自己分析からスタートし、自分の殻を破るチャレンジ、そして自己成長の振り返りを一貫して行い、新入生に寄り添っている！

活動概要

【日時】2018年4月(新学期)～通年活動として実施
【場所】大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス
【対象】受講者は1年生。サポーターは2,3年生。
【内容】大阪府立大学生協では、「自分の視野を広げる」「自分の成長と行動特性に気づき行動に移せられる」学生を増やしたいという願いから、学生主体のキャリア形成活動「出発(たびだち)サポートプログラム」に取り組んでいます。

▲受講者に成長を伝えるサポーター

企画背景　年間通じた学びプログラム

大学に入学する新入生にビジョンを持ってもらうと同時に、1年生の初期で終わらない成長の機会作りをしたいという想いから、本プログラムはスタートしました。下関市立大学生協で取り組まれていた取組みから発展させて、大阪府立大の学生に応じた内容を充実させていっています。

アピールポイント

馬を水辺に連れて行くことはできるけど、水を飲ませることはできない

この比喩は、サポーターが新入生(馬)を成長することはできませんが、成長の仕方(水の飲み方)を教えることはできる比喩です。また前提として、成長したいという気持ち(のどの渇き)に気づいていなければ、行動に移すことができません。本人の気づきと成長意欲を大切にすることを第一に意識します。

▲「出発サポートプログラム」運営の上村くん(左)と小松くん(右)

「安心･安全の場」を作るという意識

成長するためには、まず「チャレンジ」することが必要です。そのために、みんながチャレンジを肯定的に受け入れる「安心･安全の場」を作るという意識で場づくりをしています。

組合員の反応　成長を実感できました！

受講生の組合員は、「大学入学が目標で終わっていた、自分なりの活動をして自分の1年を意義のある1年間だったと振り返るということができた」という声が多いようです。自分自身の成長を自身に活動の幅を広げる人も多いです。

▲講義のプレゼンテーションでは、先輩サポーターが伝えます。

内容

「**出発サポートプログラム**」は、1年間通じて自分のなりたい姿を見つけ、実現していくことを意識したプログラムとなっています。

SEQやコミュニケーション講座を通じて、自分の行動特性を把握･向上します。
夏にはチャレンジ企画を通じて自分の殻を破ります。「**自分らしくないこと**」にチャレンジすることで、新たな自分に気づき、なりたい姿に近づけるようになります。

1年間の大学生活を、客観的に振り返り、12月に**集大成発表**をすることで、自分の成長を可視化していきます。

4月～7月	ビジョンナビセミナー	ビジョンナビセミナーでは、高校と大学の違いを知り、大学生活で自分が実現したいことを考えます。大学生活を充実させるための考え方や、大学生活の目標を考えることで、1回生最初の大切な時間に後れを取らないスタートを切ります。
	SEQ面談	自己分析ツールであるSEQを用いて、プロのカウンセラーと面談をします。自分の改善したい部分や、自分の理想を考え、それを達成するためのアドバイスをもらいます。 ▲SEQって？ 私たちは、普段無意識に自分をコントロールし、周囲との関係を作りながら社会生活を送っています。この自分をコントロールするカがEQ(=感情能力)です。普段の行動の量を測り、EQの能力値を数値化するための検査がSEQ(Student EQ)です。
	コミュニケーション講座	コミュニケーション力は大学生活でも社会にでても必須の力です。コミュニケーションをつける意義や人とかかわる時の考え方を知り、上手にコミュニケーションをとるためのプロセスを学び、実際に体験し、能力を身につけます。
	目標設定	夏休みに向けて、目標を設定し、達成するための計画を立てます。目標を分割して考える方法と、自分のモチベーションを上げるための考え方を学び、夏休みに実際に行動に移します。
夏休み 8月～9月	チャレンジ企画	講座で学んだカを活かして、チームで何か一つ、今までに挑戦したことのない大きなチャレンジに取り組みます。チャレンジを通して、積極性や行動力、チームカを鍛えます。個性が集まることで、自分の強みを知るきっかけにもなります。
10月～12月	振り返り	10月からは、自分の行動を振り返り、体験・経験から自分の変化(成長)を捉え、次の行動につなげるためのワークを行います。出来なかった、やらなかった事の原因(壁)の存在を認識し、それを壊す術などを考えます。
	集大成発表	たびサポを通じて過ごした1 年間を振り返り、何にチャレンジし、何を感じ、考え、どう変化したのかをまとめ、1年間の集大成として発表し合います。お互いの発表を聞き、刺激を受けあい、さらなる成長につなげます。 人前で発表する事で、自分のプレゼンテーション能力を磨くきっかけにもなります。

成果

今年で大阪府立大学生協での「出発サポートプログラム」の取り組みは7年目となりました。
毎年、内容をパワーアップし、受講者の成長が見えるように工夫しています。父母向けの通信を発行したり、参加者へのフィードバックを丁寧に行うなど、**個別での対応に力を入れていきました。**

課題

受講生集めの段階で、さらに「出発サポートプログラム」の魅力を新入生に伝えることを意識したいと考えています。新入生が大学時代に目的意識を持って成長できる環境に身を置くことで「**自分を変えられる**」という実感を持てるような提案活動を進めたいと考えています。

取組みを参考にする上で気をつけること

大阪府立大学生協の
ホームページをご参照ください

受講生とサポーターの両方に安心・安全の場作りを！
運営する側のサポーターにとっても初の経験が多いと思いますが、**受講者とサポーターの双方にとって安心して活動できる環境**を意識しないと作れません。サポーターとしての成長も楽しめるといいなと思います。そのためにも、学生と生協の職員が一緒にやっていくことが大切だと思います。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3)　学びと成長
日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

1. 組合員が大学生活の実感や経験を自分の言葉で伝えることで、次世代の組合員が目的・目標を持ってキャンパスライフを過ごせるような機会を作りましょう。
2. 学生組合員が新生活のスタートから継続して、なりたい姿をイメージでき、達成感を持ちつつ目標に向けて行動できるよう、考える場面を作っていきましょう。
3. 生協で取り扱っている商品やキャリア事業・活動を発信したり、大学と連携したりすることで、大学内のすべての人が、自身の学びや成長に必要な情報や機会をもてるように工夫しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
大阪府立大学生活協同組合　専務理事：渡邉和典　担当：北村有華
TEL：(072)259 - 4600　E-mail：fudaimanatabi@gmail.com

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
39

立命館生協OIC
読 書 に 関 す る 取 組

活動の教訓ポイント
・組合員の参加によって「学び合い」がなされている
・組合員に「読書が楽しい」という共感が広まる

活動概要

＜ブックカフェ＞
【日時】月に１回不定期開催
【場所】OIC Room8
【対象】組合員
【内容】
お菓子やジュースを囲みながら、本について自由に語り合います。

＜ビブリオバトル＞
【日時】2018/10/23
【場所】食堂
【対象】組合員
【内容】
自分が人に読んでもらいたい本を紹介し、どの本が一文読みたいと思わすことができるか勝負する。

企画背景 ＜本を好きに＞

本好きな人は、同じ本好きの方と交流することでもっと本を好きになってもらい、本が好きでない方にも、本の魅力や興味を持ってもらうことで本を好きになってもらいたいという思いで活動しています。

アピールポイント ＜誰でも気軽に＞

ブックカフェやビブリオバトルなど、どちらも誰でも気軽に参加していただくことができます。
ブックカフェでは、本について詳しい方でもそう出ない方でも大歓迎で、小説や漫画など幅広いテーマで楽しく交流できます。また、本好きで集まることで大学生の新たな交流の場となっています。

▲ブックカフェの様子

組合員の反応 ＜豊かな個性＞

ブックカフェでは、本好きな人がのびのびと読書について語り合います。とても楽しく会話が弾み、様々な個性と個性がぶつかり合います。また、これまで知らなかったような新たな本との出会いがあり、とても勉強になります。

▲ブックカフェの様子

▲ブックカフェの様子

内容 ① ＜ブックカフェ＞

月に一回、不定期で本が好きな人が集まってお菓子屋ジュースを囲みながら交流する本好きにはたまらない憩いの場となっています。
また、本について詳しくない方でも誰でも気軽に参加できる企画になっています。

内容 ② ＜ビブリオバトル＞

参加者同士で本を紹介し合い、もっとも読みたいと思う本を投票で決めます。持ち時間は一人当たり5噴火とします。
当日７名の方がバトラーとして出場しました。結果は、とても僅差での勝負となりとても白熱した闘いになりました。

▲参加者の説明と投票

成果

本が好きな人やそう出ない人にとっても、共通の話題で喋るため、刺激しあえ、また様々な交流の場となっています。
新たな本に出会えたりと、読書に幅が広がります。

課題

企画の参加人数をさらに増やすことで読書を通した交流を深めることが今後の課題です。そのために、情報宣伝を強化したり、読書に興味を持ってもらえるような企画を行うつもりです。

取組みを参考にする上で気をつけること

この取り組みはコープクラブといって、組合員の方と学生委員との共同での運営となっています。学生委員中心ではなく、学生委員以外の組合員が中心となって企画運営することで、より良い大学生活の実現に繋がると考えます。また、気軽に参加しやすいことを意識して活動しています。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3)　学びと成長
日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

1. 組合員が大学生活の実感や経験を自分の言葉で伝えることで、次世代の組合員が目的・目標を持ってキャンパスライフを過ごせるような機会を作りましょう。
2. 学生組合員が新生活のスタートから継続して、なりたい姿をイメージでき、達成感を持ちつつ目標に向けて行動できるよう、考える場面を作っていきましょう。
3. 生協で取り扱っている商品やキャリア事業・活動を発信したり、大学と連携したりすることで、大学内のすべての人が、自身の学びや成長に必要な情報や機会をもてるように工夫しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
立命館生活協同組合　専務理事：酒井　学生委員会担当：槇村遼

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

40

甲南大学生協岡本キャンパス

年間を通じたiCommonsでのイベント実施

活動の教訓ポイント

昨年誕生した福利厚生施設「iCommons」にて、他の協同組合やTSUTAYA、大学医務室などとコラボして、組合員の「新しい学び」「成長」につながる様々なイベントを実施しました。

甲南大学生協では、年間を通じて様々なイベントを実施しています。生協単独のイベントはもちろんのこと、大学医務室・兵庫県の協同組合・甲南大学生協の子会社で運営をしているTSUTAYAなどとコラボし、iCommonsという「場所」で「新しい学び」「成長」に出会うきっかけ作りを行っています。
様々なテーマでイベントを実施していますので、いくつかのイベントを紹介します。

①TSUTAYAプロデュースイベント『人を感動させる企画』の作り方講座

活動概要

【日時】2017/12/15
【場所】甲南大学iCommons　Agora・P2・P3
【対象】マスコミ業界に興味のある人・就活生　など
【内容】ちちんぷいぷいの放送作家の方と、熱闘甲子園ディレクターの方にお越しいただき、企画を作る際のコツ・注意点や裏話をしてもらい、参加者が考えた企画にアドバイスを貰いました。

▲プロのお話しに興味津々でした

アピールポイント
●日ごろ聞くことの出来ない放送業界の話を生で聞くことができた。

組合員の反応
●テレビ番組をどうやって作っているのか知ることができておもしろかった。
●自分で企画を考えるのは難しかったが、アドバイスなども貰えて良かった！

②生協イベントジャンボ巻き寿司作り

活動概要

【日時】2018/3/7
【場所】甲南大学iCommons　キッチン
【対象】学生
【内容】
兵庫県の漁業の実態について学習し、兵庫県産のほうれん草・いかなごのくぎ煮・のりなどを使って3.5mののり巻きを作りました。

▲全員で息を合わせて巻きます！

アピールポイント
●地元の漁業・食材について知る場となった
●他の協同組合との協力

組合員の反応
●自分達の住む神戸の漁業について知ることができた。
●せっかくだから、買い物をするときには産地にも気をつけてみようと思った。

③生協イベント　格闘技フィットネス

活動概要

【日時】2018/6/1
【場所】甲南大学iCommons　スタジオ
【対象】体を動かしたい方
【内容】GW明け心身ともに疲れてくる5･6月を、「心と体を整える」月間とし、食生活相談会や、TSUTAYAイベントでアロマグッズ作りも行いました。そして、体を動かして元気にする、ということで生協スタッフで空手道場の先生をしている方を講師として、ストレッチや筋トレ、ミットトレーニングなどで汗を流しました。

④生協イベント　消費者教育講演会

活動概要

【日時】2018/10/9
【場所】甲南大学iCommons　TSUTAYABOOKカフェ
【対象】SNSのセキュリティ・使い方に興味がある人
【内容】ネットセキュリティの専門家にお越しいただいて、SNSを楽しく安全に使用するための講義をしていただきました。就活の時に、ツイッターを検索してどういう方か見られている、安易に自身の情報を公開しない等非常に有意義なお話でした。大学職員の方も参加いただきました。

成果

多種多様なテーマでイベントを実施し、学びになるもの・楽しいもの・体を動かすものと、組合員に新たな出会いや学びをお届けすることができています。
毎月様々なイベントを実施することで、続けて参加してもらえる方も増えてきました。顔見知りが増えて、生協からの情報発信なども直接お伝えすることができています。

課題

更に生協店舗や学生総合共済の提案活動などとのつながり作りを、どのイベントでも意識して行いたいと思います。
また、より多くの組合員へ参加を呼びかけるために、早めの広報や、TSUTAYABOOKSTORE店舗での告知を含めた書籍の展開などと連携したいと思います。

取組みを参考にする上で気をつけること

甲南大学生協には、学生委員会などの組織がありません。正規職員が中心となりイベントの企画・準備・運営を行っています。それぞれの企画に、大学の自治会や、生協理事の学生さんに協力いただいたり、参加してもらっています。学生委員会がないところでも、様々な生協・学内の組織との協力で、組合員へのイベントを今後も実施していきたいと思います。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3)　学びと成長
日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

1. 組合員が大学生活の実感や経験を自分の言葉で伝えることで、次世代の組合員が目的・目標を持ってキャンパスライフを過ごせるような機会を作りましょう。
2. 学生組合員が新生活のスタートから継続して、なりたい姿をイメージでき、達成感を持ちつつ目標に向けて行動できるよう、考える場面を作っていきましょう。
3. 生協で取り扱っている商品やキャリア事業・活動を発信したり、大学と連携したりすることで、大学内のすべての人が、自身の学びや成長に必要な情報や機会をもてるように工夫しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
甲南大学生活協同組合　　専務理事：内田　　担当：梅津（理事会室）
TEL：078-451-1371　　E-mail：h-umezu@konan-unvcoop.or.jp

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
41

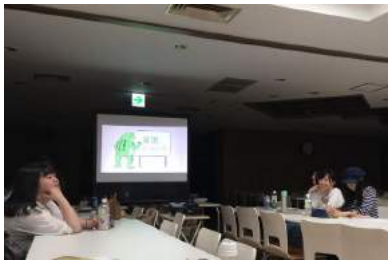
京都橘学園生協
部　会　内　勉　強　会

［活動の教訓ポイント］

学生委員が主体的に学生委員会内で学び合いを行えた点が教訓的。また、学習会のアンケートを実施し、振り返りまでできている点もアピールポイント。

活動概要

【日時】　5/14,5/28,8/3
【場所】京都橘大学
【対象】学生委員
【内容】共済、平和などの勉強会を行い、共済担当よりテーマを数個提示し、その中から学びたい内容を学生委員一人一人が選び、多かったものを勉強会として実施。



▲ 学習会の様子

企画背景　推進委員がいることを活用したい

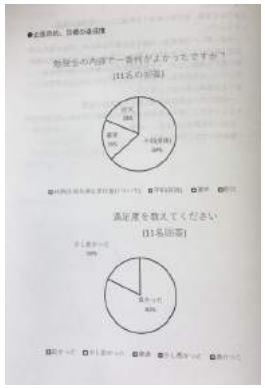
共済担当内に推進委員メンバーがいたことが始まり。共済などを実施した後自分たちでテーマを選んでもらい一回生含め学生委員内で知識をつけることを目的として実施。

アピールポイント　学生委員が選ぶ

エリア12推進課題より選択肢を作成。学生委員に興味のある内容を選んでもらえた。担当内で勉強会に実施するパワーポイントを事前に確認し、敲きを行い完成度の高いものにすることが出来ました。

組合員の反応

実施したアンケートより満足度は高いものとなりました。

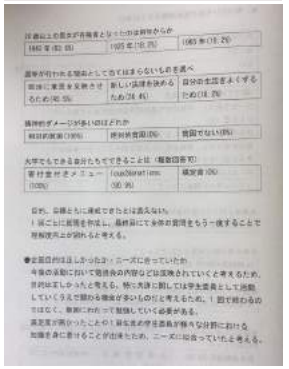


▶アンケート結果

▲勉強会のスライド

内容 ①　勉強会担当者が調べ発表

勉強会担当者が自分で調べ、発表をしました。勉強会で扱う内容で自大では寄付金付きメニューやどのような資料がどこに置いてあるのかなどどのような取り組みがなされているのかを学生委員にも伝えることが出来ました。



内容 ②　最後にアンケート実施

最後の学習会の際にどの勉強会が良かったのか、勉強会事態に対する満足度、そのほかに知りたい内容などアンケートを実施しました。また、勉強会の内容を理解できていたか、理解度を測るテストも実施。共済など以後勉強会を行う際に弱かった点などを盛り込むなど活用できました。

成果

こちらから勉強会をただ実施するだけでなく、学生委員全体に何を学びたいかこちらから数個提示し、選んでもらうことで自分たちが学びたいこと、興味があることを知るきっかけにできた事は今後の活動において大きな成果だと考えています。

課題

毎回の勉強会の後にアンケートやテストを実施したわけではなく、全ての勉強会が終わった後にアンケートを実施しました。アンケートにおけるテストの正答率に差が出しまったことが課題だと思います。また、勉強会に欠席した学生委員へのフォローも大事だったと思います。

取組みを参考にする上で気をつけること

一回生など自分が興味を持つ分野を知るきっかけになると思います。自分たちがなぜその活動を行うのか勉強会作成者含め考え、知ることが出来ました。
最後の勉強会にてテストを実施するのではなく、毎回の勉強会にてテストを行うことが大事だと思いました。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3)　学びと成長
日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

1. 組合員が大学生活の実感や経験を自分の言葉で伝えることで、次世代の組合員が目的・目標を持ってキャンパスライフを過ごせるような機会を作りましょう。
2. 学生組合員が新生活のスタートから継続して、なりたい姿をイメージでき、達成感を持ちつつ目標に向けて行動できるよう、考える場面を作っていきましょう。
3. 生協で取り扱っている商品やキャリア事業・活動を発信したり、大学と連携したりすることで、大学内のすべての人が、自身の学びや成長に必要な情報や機会をもてるように工夫しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
京都橘学園生活協同組合　専務理事：大塚専務　　学生委員会OLIVE 担当：折橋
TEL：075-571-2325

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

大学生協 関西北陸ブロック 2018年活動事例集

ありたい姿

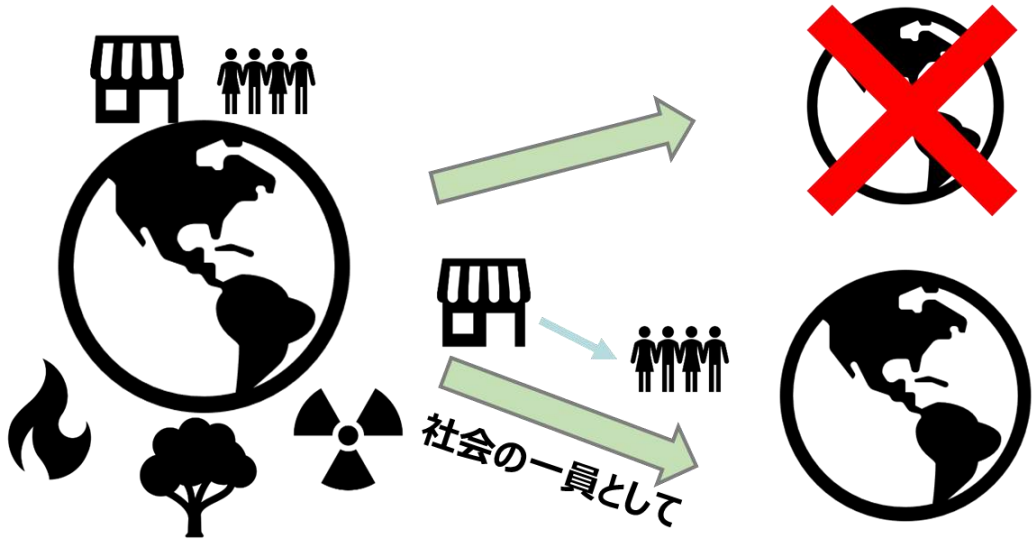
社会に生きる

4

社会の一員であることを意識・実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

実現に向けて

1. 組合員が社会の一員であることを実感できるよう、
   平和・環境をはじめとする様々な社会的課題について考える視点を増やすきっかけを作りましょう。
2. 社会の一員であると実感した組合員が、大学生協の事業や活動を通じて、
   周りの組合員や社会に対して行動が起こせる機会づくりを工夫しましょう。
3. 社会の一員として組合員が学び行動できる場面を作るため、
   大学内の教職員や各種団体との連携、協同組合間協同や連帯の場を積極的に活用していきましょう。



［事例集］

42

立命館生協OIC
＃これって平和コンテスト

活動の教訓ポイント

・組合員が平和に目を向け、「多様な価値観」に触れ、学び合いができる取組！
・組合員参加がすすんだ！

活動概要

・平和をテーマにした写真を「#これって平和」のハッシュタグをつけてSNSに投稿してもらい、コンテストを行う。（募集期間：6月11日～7月1日）
・後日当選した写真をコメント付きで貼りだす。また戦時中の日本についてのポスターを掲示し、「あなたにとって平和とは？」を考えてもらいそれも掲示する。（期間：7月9日～7月13日）

企画背景　＜平和についてなんて普段考えないよね・・・＞

普段生活している中で、学生が「平和って何だろう」と考える機会が少ないながら憲法改正など日本情勢が変わりつつあるので、戦争が他人事ではないようになってきました。そういったことから、もっと皆さんに平和について考えてほしいと思い企画しました。

アピールポイント　＜身近なSNSで気軽に参加！＞

「平和について考えてください」といきなり言われても難しいので、普段の生活の中の平和を見つけてもらうようにしました。そしてその光景を写真に撮ってもらい、大学生にとって身近なSNSに投稿してもらうことで気軽に参加してもらいました。気軽だけど、普段の生活のありがたさに気づけることが、この企画の魅力です。

組合員の反応　＜当たり前を当たり前と思わず感謝したい＞

写真の投稿には59人の方に参加していただき、平和ブースには31人の方に来ていただきました。また、『あなたにとって平和とは？』と聞いたところ、「当たり前を当たり前と思わずに感謝したい」など多くの意見が集まり、この企画をきっかけに参加者が平和について考えてくれました。

▲広報物

▲入賞作品の展示やポスターなど

内容 ①　＜コンテストについて＞

平和をテーマにした写真を「#これって平和」のハッシュタグをつけてSNSに投稿してもらい、コンテストを行いました。写真の選考は学生委員だけでなく平和の分野に関わりのある大学教授を交えて行い、選考基準は「今日当たり前となっているが、戦時中の日本では考えられなかったこと」として写真の投稿を募集しました。

内容 ②　＜展示について＞

OIC shop内に平和ブースを設け、ここでコンテストの結果発表、平和の空、ポスターを掲示しました。平和の空は「あなたにとって平和とは」というテーマで自分の意見を小さな紙にひとことで書いてもらい、模造紙に貼りました。ポスターでは戦時中の日本について書き、掲示しました。また、平和実現のために自分にできることの提案として、折り鶴を折ってもらえるように折り紙も置いていました。

成果

アンケート結果から、写真コンテストも平和ブースも、参加によって平和とは何か考えるきっかけになったと答えてくれた参加者が多く、目的は達成されたと思います。また折り紙を置いておくことや、平和実現に向けて何が出来るかアンケート上で文字にしてもらったことで、行動を起こすきっかけも参加者に与えられたと思います。

課題

これって平和コンテストに参加した人がほとんど平和ブースを訪れなかったことから、平和ブースの情報宣伝が甘かったと考えられます。写真コンテスト参加者全員が平和ブースに来てもらえるよう、より凝った情報物や宣伝手段を増やすなど、情報宣伝の工夫が課題です。

取組みを参考にする上で気をつけること

アンケートで、過去の日本についてのポスターが表面的過ぎるという意見があったことから、実際にあった事件だけではなく、当時の食事や学校、戦闘員以外の人々の生活などの実態にも焦点を当て、今と比較できるような事実や、義務教育では教わらないようなことを取り上げて、より深い内容にするよう次回から気をつけたいです。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4)　社会に生きる
社会の一員であることを意識･実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

1. 組合員が社会の一員であることを実感できるよう、
   平和・環境をはじめとする様々な社会的課題について考える視点を増やすきっかけを作りましょう。
2. 社会の一員であると実感した組合員が、大学生協の事業や活動を通じて、
   周りの組合員や社会に対して行動が起こせる機会づくりを工夫しましょう。
3. 社会の一員として組合員が学び行動できる場面を作るため、
   大学内の教職員や各種団体との連携、協同組合間協同や連帯の場を積極的に活用していきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
立命館生活協同組合　専務理事：酒井　学生委員会担当：槇村遼

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

43

京都府立医科・府立大学生協

生協学生委員会おれんじ×TFT KPU企画
～リリパックで国際貢献～

活動の教訓ポイント

「社会的課題を解決したい」という想いを形にした点、さらにその実現に向けて学内の他団体と協力することができました。またそれ以外にもリ・リパックから環境問題や、購入した組合員への栄養価も考えるという複数の想いを1つの企画で実現することができました。

活動概要

【日時】２０１８／７／９～１３
【場所】京都府立大学 生協購買
【対象】組合員

【内容】
同大学で活動しているTFT KPUという団体に**リリパック容器のヘルシーお弁当メニューを考案**してもらい、１週間購買で販売した。**１食お買い上げ毎に２０円が発展途上国に寄付される。**

▲１週間で１００食完売！

企画背景　「社会的課題を解決したいという両団体の想いが一致」

社会的課題に関する企画に取り組みたくてもなかなか取り組めずにいたが、学内の認知度は高い学生委員会と、国際貢献しているがそれをあまり認知してもらえてなかったTFT KPU。**両組織が協力すれば、互いの長所を生かしつつ互いの悩みを解決できる企画**が行えるのではないかと考え、この企画が発案・実行された。

アピールポイント　他組織と協力！！

学生委員会おれんじは小規模組織で、既存の企画を行うことで手が一杯であった。故に、取り組みたい社会的課題企画になかなか手を出すことができなかった。そこでおれんじは、他組織（TFT KPU）と協力することで、１つの企画を作ることにした。これにより、おれんじは今まで行ってきた**リリパック回収（環境活動）に、発展途上国への募金という国際貢献の要素を付け加えることができた。**

この企画を通し、**環境・国際・平和などの社会的課題は繋がっており、既存の取り組みに少し手を加えるだけで、多くの社会的課題に貢献する企画を行えるということが実感できた。**

▲TFT KPUとは

組合員の反応　毎日即完売！

プルコギ丼弁当は他の弁当より４０円も高い４００円で販売したので、売れ残る心配をしていたが、毎日すぐに完売していた。おそらく、普段と違うお弁当なので、目新しさを感じて買ってもらえたのだと思われる。

プルコギ丼弁当を食べた組合員に話を聞くと、**いつものお弁当よりもボリュームがあり、また野菜も沢山入っているのでとても良かったと言ってもらえた。**全体的に満足度は高かったと思われる。

▲購買に陳列されたプルコギ丼弁当

▲試食会で食べたプルコギ丼とメールの内容

内容 ①　両組織で試食会！！

メールで食堂の店長と日程を合わせ、導入期間から１ヶ月以上前の５月３１日に試食会を行った。この試食会では、予めTFT側が提案していたプルコギ丼と牛肉と舞茸の丼の２種類を食堂で試作してもらい、それを両組織の代表者で試食した。この時に、どちらのメニューを採用するのかと、そのメニューの**味付けや盛りつけ方などで変えて欲しいと思った部分を食堂に伝えた。**後日、店長からプルコギ丼弁当の栄養価などをメールで教えてもらった。

内容 ②　ドキドキの導入期間！！

７月９日（月）～１３日（金）の１週間、１つ４００円で１日限定２０食販売した。購買には１０時から陳列させ、１２時になると２人程で購買前に立ち、プルコギ丼弁当の宣伝をした。また**食堂の机に弁当の宣伝や使用されている食材の栄養素とその効果を書いた卓上POPを設置した。**

さらに導入期間中は、**両組織のTwitterでリリパックについてと回収方法を簡単に説明した動画付きツイートを投稿した。**

▲卓上POPと宣伝している様子

成果

毎日完売したので、１週間で１００食売れた。そして１食お買い上げごとに２０円が発展途上国に寄付されるので、**合計２０００円寄付することができた。発展途上国において２０円は１食分の給食費であるので、今回の企画で１００人分の給食が届けられた**ということである。

課題

他の企画と並行して準備を行っていたので、丁寧に企画を練ることができなかった。そのため、**企画前後のリリパックの回収率を比較することを忘れていた。**

この企画は未完成な部分も多く、改善の余地が沢山あるので、もしまたTFTとコラボするのであれば、**今回の反省点を参考にしながらより良い企画にしていきたい。**

取組みを参考にする上で気をつけること

この企画は、短期間で準備できるものではない。メニューは導入期間から１か月以上前には決定させなければならないし、またどのようなメニューでも食堂側に承認してもらえるわけではない（例えば、汁気が多いものや加熱していない野菜を使用する料理はお弁当にできない）。故に**他組織と企画をする際は、長期に渡って連携を取ることが大事である。**

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4)　社会に生きる
社会の一員であることを意識･実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

1. 組合員が社会の一員であることを実感できるよう、
   平和・環境をはじめとする様々な社会的課題について考える視点を増やすきっかけを作りましょう。
2. 社会の一員であると実感した組合員が、大学生協の事業や活動を通じて、
   周りの組合員や社会に対して行動が起こせる機会づくりを工夫しましょう。
3. 社会の一員として組合員が学び行動できる場面を作るため、
   大学内の教職員や各種団体との連携、協同組合間協同や連帯の場を積極的に活用していきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
京都府立医科・府立大学生活協同組合　専務理事：林章司
学生委員会おれんじ担当：佐野さつき
TEL：075-723-7263　E-mail：kpu.caps@gmail.com

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

44

立命館大学生協びわこ・くさつキャンパス
ユニオンカフェテリアメニュー総選挙

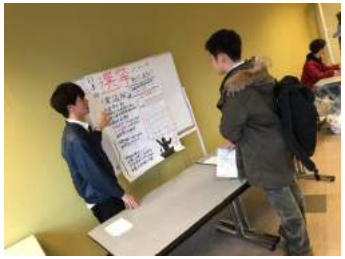
活動の教訓ポイント

選挙という視点を組合員に伝えたいという想いを企画として行うことができました。また選挙への意識を組合員に訴える活動は全国を見ても少なく、この活動は先進事例と考えられます。

活動概要

【日時】2018/11/12(月)~15(木)
【場所】ユニオンカフェテリア１階
【対象】学生、教職員

【内容】選挙の仕組みの説明をし、それを踏まえて食堂の春の新メニューを実際の選挙の仕組みで投票し決める。



企画背景

10~20代の選挙参加率、選挙への関心、選挙の仕組みの理解度の低さという現状から、企画を通して選挙を身近に感じてもらい積極的な選挙参加をして欲しいという想いから企画が生まれた。

アピールポイント

全国的に見ても稀有な選挙に関する企画で、なおかつ新メニューの考案と関連付けることで運営参加も図った。
さらに、実際の選挙についての情報宣伝も行うことで、現実的に投票への参加を推進する。

組合員の反応

(参加者A)
選挙に実際に行ってみようと思った。

(参加者B)
新メニューを決められるということで参加したら、選挙についても学べた。

内容 ①

ポスターを用いて、参加者に小選挙区制や比例代表制などの選挙の仕組みを説明する。
さらに、選挙についてのクイズにも取り組んでもらい知識の補完を行う。

内容 ②

小選挙区制を模した１２のメニューの中から一つ選んでもらう投票と、比例代表制を模した４つの党（共党、麺党など）から一つ選んでもらう投票の２つに取り組んでもらう。

成果

参加者数：２０７人
（目標参加人数：２００人）

課題

この活動を通して実際に組合員の選挙参加率が上がっているのか否かというのが図れていないので、もし、そこを数値化できるとより成果や課題が見えてくると思われる。

取組みを参考にする上で気をつけること

選挙というのは組合員が興味を持ちにくいジャンルで、組合員が意欲的に参加したくなるコンテンツと我々が伝えたい内容の融合が不可欠になってきます。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4)　社会に生きる
社会の一員であることを意識･実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

1. 組合員が社会の一員であることを実感できるよう、
   平和・環境をはじめとする様々な社会的課題について考える視点を増やすきっかけを作りましょう。
2. 社会の一員であると実感した組合員が、大学生協の事業や活動を通じて、
   周りの組合員や社会に対して行動が起こせる機会づくりを工夫しましょう。
3. 社会の一員として組合員が学び行動できる場面を作るため、
   大学内の教職員や各種団体との連携、協同組合間協同や連帯の場を積極的に活用していきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
立命館生活協同組合　　専務理事：酒井

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

45 滋賀県立大学生協 災害対策2018

活動の教訓ポイント

5分から防災を気軽に参加できる企画。期間中には、食堂に防災ポスターや卓上ビラがあり、日常生活から防災を意識できます。

活動概要

【日時】2018年10月22日（月）～10月26日（金）
【場所】学生ホール・食堂
【対象】組合員

【内容】掲示物などによる防災の提起（卓上ビラ・ハザードマップ・ポスター・防災グッズ展示・非常食配布）

▲当日の様子

企画背景　いつ災害が起きるか分からない、という現実

2018年の上半期は様々な災害に見舞われ、たくさんの被害が生じました。特に６月の大阪を中心とする地震や７月の西日本水害により県大生の中にも被害を受けた人がいました。しかし、多くの学生はそのような場合にどのように行動をすればいいのかを知りません。また、災害に備えて準備をしている人も多くはありません。そのようなことから、組合員に**いつ災害が起きても身を守れる知識をつけてほしい、という想い**により、この企画を行うことを決めました。

アピールポイント　短時間で気軽に参加できる

この企画の所要時間は５分程度であり、少しの時間で様々なことを学べるということが一番のポイントです。**学生に一番に伝えたいことは何か、などを活動中に話し合い企画内容を練っていきました。**

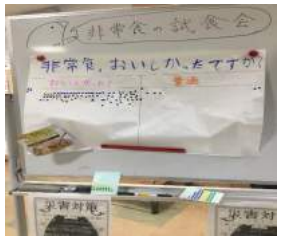
また、開催場所の学生ホールというのは食堂前であり、食堂に向かうためには全ての学生が通るスペースとなっているため、気軽に参加できるような工夫をしました。

▲卓ビラ

組合員の反応　防災を身近に感じる機会になった

参加者からは、「非常食が思っていたよりも美味しかった」、「対策をすることの大切さを知れた」などの感想がありました。防災品の展示や防災に関するポスターに足を止める学生が多かったことからも県大生の防災に対する意識が高いということを感じました。

防災品を見たり、非常食体験の様子からも、**参加者が楽しく防災の知識をつけることができました。**



▲非常食がおいしかったかどうかのアンケート結果

▲防災グッズの展示で使用したもの

内容 ①　災害への備えを知る

食堂前で非常食の試食、防災グッズの展示を行いました。

非常食を食べることに抵抗がある学生に非常食の魅力を知ってもらいたいと思い、試食会を開きました。当日は作り方を説明しながら試食してもらいました。

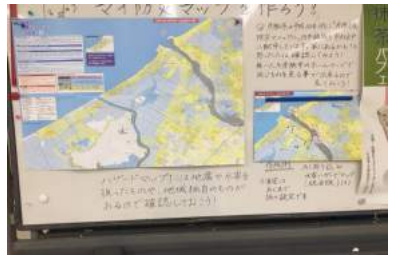
また、日常品で災害時に役に立つ物を展示しました。100均でそろえることができるグッズばかりなので、**その日からも災害に備えることができる**ようになっています。

内容 ②　災害時の行動を知る

一週間にかけて食堂でハザードマップの展示と卓ビラの設置を行いました。

ハザードマップを展示することで、**水害が起きてしまった時にどこに行動をすれば良いのかを伝えました。**彦根市が作成した防災マップを利用し、組合員１人１人がマイ防災マップを作るように呼びかけました。

また、**地震・水害・積雪が起こった時にどう行動をすればいいのかを知ってもらう**ために卓上ビラの作成をしました。彦根市の特徴を踏まえながら、積雪の時にどのように歩くのが良いのかを伝えたりしました。



▲ハザードマップの展示

成果

人が多く通る食堂前で行うことで、**100人以上**の学生が参加してくれました。**普段あまり考えることが少ない防災に対する知識を身近に感じることができる機会になった**と思います。

特に非常食の試食を行うことで、非常食の調理法の簡単さや美味しさを知ってもらえたように思います。

課題

非常食の試食に食いついてくれる学生は多かったですが、防災グッズなどに目を引いてくれない人がいました。手軽に参加できる点がこの企画の魅力ではありますが、防災を考える上では、様々なことを知る必要があります。非常食以外の、身近な防災品を手に取ってもらえるような工夫が今後求められていきます。

取組みを参考にする上で気をつけること

この取り組みから教訓として生かせるポイントは「防災への取り組みやすさ」を考えることです。身近でかつ、費用面でも取り組みやすいような企画作りが必要となります。

この機会にぜひ、**組合員が防災について考える機会をつくってみてはどうでしょうか？**

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4)　社会に生きる
社会の一員であることを意識･実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

1. 組合員が社会の一員であることを実感できるよう、
   平和・環境をはじめとする様々な社会的課題について考える視点を増やすきっかけを作りましょう。
2. 社会の一員であると実感した組合員が、大学生協の事業や活動を通じて、
   周りの組合員や社会に対して行動が起こせる機会づくりを工夫しましょう。
3. 社会の一員として組合員が学び行動できる場面を作るため、
   大学内の教職員や各種団体との連携、協同組合間協同や連帯の場を積極的に活用していきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
滋賀県立大学生活協同組合　専務理事：森山　学生委員会共済担当：野沢
TEL：0749-25-4830　E-mail：m.moriyama@usp-seikyou.com

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

46

龍谷大学生協深草キャンパス
環災縦断ウルトラクイズ

活動の教訓ポイント

・リリパック回収率が非常に低い現状に注目し、総代会という場で組合員に対して環境問題提起を行い、リリパック回収率を上げる工夫を聞き取っていた点。
・総代会だけにとどまらずその後も継続的にリリパック周知に力を入れ、数値的にも組合員の意識の変化が見られた点。

活動概要

【日時】2018/05/28
【場所】4号館地下meal&café
【対象】龍谷大学生協総代

【内容】関西地域では回収率が低いリリパックのことや、防災についてクイズを実施したり、実際に簡単に作れるグッズを解答と解説を通して紹介したりすることで、環境や防災について考えてもらいました。

▲分科会当日の様子

企画背景　「より身近に感じてもらいたい」

スケールが大きくなりやすい環境問題や防災は難しく考えられやすいため、自分からすすんで行動に移そうとは思いにくいものです。なので、実際にはとても身近なものであり、簡単なところから行動に移せるというのを伝えるために考えました。

アピールポイント　簡単に分かりやすく

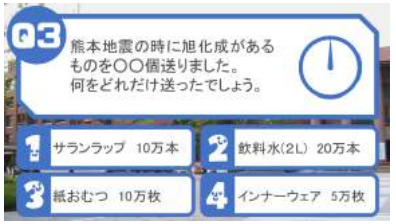
環境や防災についてより身近に、かつ容易に感じてもらうため、身近な内容に特化させた上でクイズにしました。
またゲーム感覚で参加してもらえるように、当日使用するパワーポイントのスライドを、テレビのクイズ番組のようにデザインしました。また雰囲気もそのようにするためにテーブル配置や司会の立ち位置にも工夫し、環境と防災について楽しく考えてもらえるようにしました。

▲パワーポイントのタイトル

組合員の反応　楽しく知ってもらえた

分科会当日、クイズの解答を相談している時や答え合わせの時は和気あいあいとした雰囲気でしたが、解説の際はしっかり聞いてもらえていたので、クイズを通して伝えたいことをしっかり伝えられたと感じました。
また、「自大学の現状に驚いた」など、クイズの内容に関心を持ってくれたという意見もあったので、活動の意義は十分にあったといえます。

▲グループワークの様子



▲難解にならないようクイズを実施

内容 ①　防災：家庭用品を通じて

日本で地震がどれだけ発生しているのか、非常時に備えている人はどのくらい居るのか等、日本の現状を知るクイズを出しました。その後に「食品用ラップ」を例に挙げ、日常的に使用しているものが非常時には様々な用途で使えるということをクイズの後に解説し、手軽に防災出来るということを伝えました。

内容 ②　環境：リリパックを知る

環境の問題ではリリパックの問題を実施。回収率を上げることでどのぐらいCO2などが削減できるかを問題にし、解答とともに解説することで回収の意義を伝えました。それと同時に自大学のリリパック回収の現状をクイズを通して知ってもらい、意識改善にも努めました。
また、総代会当日にはリリパックを使用したお弁当が配布されていたので、実際に触れ、その場でめくることで「環境活動は簡単に行える」というのを伝えられました。

▲2018年4月の回収ボックスの状態を紹介

成果

当日、参加者はクイズの解説を聞き入ってくれていました。また、クイズ終了後に「どうすればリリパックをたくさん回収できるか」をテーマにグループワークを行いました。後日、グループワークで出た意見も活用して回収活動を行いました。活動後、リリパックの回収率が3%から10%へ大幅に上昇しました。

課題

4択クイズにしたものの、参加者から「問題が少し難しかった」という意見もありました。また、クイズ数が少なかったため、正解数が同じになるグループがいくつかできたのもあり、全体としてゲーム性が少し悪かったと感じました。作成に関与していない学生委員に対して試験的に行ってみるなど、試行錯誤をもう少しすべきでした。

取組みを参考にする上で気をつけること

こういった企画を通して伝えたいことはたくさんあると思いますが、１回で全部伝えようとすると内容１つ１つの印象が薄くなり、却ってなにも伝わらず、頭の中に残りません。なので、「何を伝えたいか」「何を感じてほしいか」を明確にし、ある程度絞った上で制作すべきだと思います。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4)　社会に生きる
社会の一員であることを意識･実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

1. 組合員が社会の一員であることを実感できるよう、
   平和・環境をはじめとする様々な社会的課題について考える視点を増やすきっかけを作りましょう。
2. 社会の一員であると実感した組合員が、大学生協の事業や活動を通じて、
   周りの組合員や社会に対して行動が起こせる機会づくりを工夫しましょう。
3. 社会の一員として組合員が学び行動できる場面を作るため、
   大学内の教職員や各種団体との連携、協同組合間協同や連帯の場を積極的に活用していきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
龍谷大学生活協同組合　専務理事：谷口一宏　学生委員会地域担当：前田和哉
E-mail：J170351@mail.ryukoku.ac.jp

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

47

大阪大学生協豊中キャンパス
いちょう祭における環境活動

活動の教訓ポイント

模擬店に出店した組合員自身が、学祭参加者にごみの分別を指導することで、多くの組合員に環境活動の大切さを実感してもらうことができた

活動概要

【日時】2018/4/29～5月2日
【場所】大阪大学 豊中キャンパス
【対象】大学祭いちょう祭に参加する来場者

【内容】大学祭において屋外臨時ごみ箱、館内臨時ごみ箱での分別作業を通して環境活動に参加できる機会を提供するとともにリリパックの提供を通して大学祭における環境負荷の削減を目指しました。

▲分別の最終確認中の学生委員

企画背景　大学祭参加者も巻き込んだ環境活動をしたい

大学祭で生じる大量のごみでおこる環境にかかる負荷を分別やリリパックなどで少しでも削減し、分別作業、分別指導を通して大学祭の参加者に環境に対する意識を向上させるきっかけを提供したいという想いから実施しました。

アピールポイント　分別指導されるだけじゃない

模擬店の担当者に屋外臨時ごみ箱「ごみナビーゲション」でごみ箱の管理と大学祭参加者への分別指導をお願いしています。私たち学生委員が模擬店出店者に分別指導するだけでなく、模擬店出店者自身にも分別指導を参加者にしていただくことで分別の輪が広がることを目指しています。

模擬店出店者への分別指導とマニュアル▲

参加者の反応　分別を通しての意識変化

「ごみナビーゲション」の活動を通して環境意識に変化があったと答えた模擬店出店者は64.7%（無回答は除外）に上りました。アンケートの回答には「いかに普段分別していないか分かった」や「ごみの分別をしない人にだんだん腹が立つようになってきた」などの感想があり、分別指導される側から分別指導する側に立場が変わったことで意識の変化が促されたと考えます。

▲実際のごみナビゲーション

▲リターナブル皿の洗浄様子

内容 ①

模擬店を実施する団体に向けてリターナブル皿、リリパックや樹恩割り箸の提供も行っています。分別も大事ですが、この活動ではreduce, recycleも大事だと思っています。リターナブル容器として利用しているお皿も食堂で使われなくなった古い食器を利用しています。

少しでも環境によいものの使用のハードルを下げるためにリリパックと樹恩割り箸のセット割引や大学祭期間中の追加注文の受付などの利用特典サービスも行っています。

内容 ②　ごみ箱の管理

館内臨時ごみ箱や屋外臨時ごみ箱の管理は模擬店参加者に協力していただいています。学生委員で見回りや最終確認なども行いますが、ごみ箱にどの団体が管理しているごみ箱であるか明記することで責任をもってごみを管理してもらっています。分別指導する立場になっていただくことでより環境意識に変化を与えるきっかけにしたいと思っています。

ごみ箱の並び方にもこだわっていて、ごみを捨てるときに自然な動作で行えるようにリリパックの右横は必ず燃えないごみになるようなどに設営されています。

▲屋外臨時ごみ箱の設置

成果

特に、リリパック、樹恩割り箸、リターナブル皿を使用した団体の環境意識向上の実感は大きくなっています。年2回ある大学祭で長年環境活動を継続していることによる認知度も大きいようです。特に、ごみナビゲーションのアンケートでは好意的なコメントは多くよせられていました。

課題

阪大では、リリパック、樹恩割り箸の使用は管理の関係上、大学祭期間中のみ行われおり日常生活における分別意識や環境意識にどれほど影響を与えているのか測れていません。大学祭という非日常体験以外にとどまらず、日常的な環境に関する企画を継続的にやることでより生活に根差した環境意識が構築できるのではないかと考えます。

取組みを参考にする上で気をつけること

この取り組みには、大学祭運営団体や大学との連携が欠かせません。また、模擬店関係者への丁寧な対応も必要です。学生委員が率先して分別、環境啓発を行うもの大事ですが、多くの人がかかわる大学祭で学生委員だけが頑張るのはたかがしれています。いかに、多くの人を上手に巻き込んだ企画を行えるかが大事になってくるのではないかと考えています。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4)　社会に生きる
社会の一員であることを意識･実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

1. 組合員が社会の一員であることを実感できるよう、
   平和・環境をはじめとする様々な社会的課題について考える視点を増やすきっかけを作りましょう。
2. 社会の一員であると実感した組合員が、大学生協の事業や活動を通じて、
   周りの組合員や社会に対して行動が起こせる機会づくりを工夫しましょう。
3. 社会の一員として組合員が学び行動できる場面を作るため、
   大学内の教職員や各種団体との連携、協同組合間協同や連帯の場を積極的に活用していきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
大阪大学生活協同組合　専務理事：關戸　学生委員会環境局担当：苑田
TEL：06-6841-3326　E-mail：eco@Osaka-univ.coop

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］

48

大阪教育大学生協
環境企画・「リ・リパックのお菓子ハント ～もう1回遊べる丼～」

活動の教訓ポイント

リ・リパックの回収の呼びかけ、さらに環境問題というテーマに目を向けることができてる点が教訓的。楽しみながら組合員を巻き込むことで、より興味を持ってもらう工夫も教訓的です。

活動概要

【日時】7月9日～景品がなくなるまで
昼休み（12時15分～12時50分）
【場所】A215、事務局棟前
【対象】リ・リパックを回収してくれてない人

【内容】持ってきてもらったリ・リパックで、お菓子が入った箱の中からお菓子をすくいあげる ゲットできたお菓子をプレゼント。

▲学委メンバーも笑顔✨

企画背景　＜リ・リパックに興味をもってもらいたい！＞

楽しい企画によって普段回収しない人に興味を持ってもらうことで、リ・リパックの存在を知ってもらい、回収率をあげる。

アピールポイント　＜組合員を楽しませるを焦点に＞

組合員をどうやって環境の活動に興味をもってもらえるかに焦点を当ててみると、やはり組合員を楽しませて企画に参加させることであった。そこで、リ・リ・リパックを用いてお菓子をすくいあげ、そのリ・リパックを回収箱に入れてもらうという楽しませつつ、社会的な活動にも貢献してもらった。回収箱も工夫して、どっちになりたい？という風にして投票制にしてこちらも楽しませる工夫をした。

▲組合員がお菓子をすくう姿

組合員の反応　＜興味をもってもらえた！＞

お菓子をリ・リパックを使ってすくいあげることができるので、皆さんが興味をもってきてくれていた。口コミが広がったみたいで、徐々に来てくれる方が多くなった。組合員が楽しんで企画に参加してくれているのが目に見えた。同時にリ・リパックにも関心を得てくれ、ビニールのはがし方を積極的に聞きに来てくれ、環境にも関心を得てくれた。

▲組合員が企画に参加している姿

▲リ・リパックでお菓子をすくっている様子

内容 ①　＜去年の反省をいかす＞

前年にも環境企画をやったが、反応はあまりよくなかった。そこで、何が良くなかったかを考えたところ、組合員を楽しませる所があまり出来てないことがあげられた。そこで、より楽しませるためにお菓子をリ・リパックですくってもらい、それを全部あげることにした。

内容 ②　＜環境にも目をむけるために＞

組合員を楽しませることで終わらせるのではなく、環境にも目を向けてもらいたかった。なので、持って来たリ・リパックを実際に回収箱に入れてもらうこともした。その回収箱にもどちらになりたい？という風にして投票制にして、組合員を楽しませた。また、ビラもお菓子を入れる中にいれ、これからも回収箱に入れてもらうように協力を促した。

▲リ・リパックを回収箱を実際に入れてもらってます

成果

これからの企画の方針が見えたと思う。どのようにして、組合員を楽しませなおかつ社会的な問題にも興味をもってもらえる方法が分かった。また、回収率も少しだがあがり、この企画を通して環境にも目を向けてもらえたと感じている。

課題

お菓子を全部上げてしまい。予想していたものより早くなくなってしまった。なので、お菓子の調整が必要であると感じた。また、ビラの内容ももう少し工夫すればよかったなと感じている。

取組みを参考にする上で気をつけること

社会的な内容の企画に組合員の参加率を上げる方法を模索すること。
社会的なことに組合員をどうやって興味をもたせるか。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4)　社会に生きる
社会の一員であることを意識･実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

1. 組合員が社会の一員であることを実感できるよう、
平和・環境をはじめとする様々な社会的課題について考える視点を増やすきっかけを作りましょう。
2. 社会の一員であると実感した組合員が、大学生協の事業や活動を通じて、
周りの組合員や社会に対して行動が起こせる機会づくりを工夫しましょう。
3. 社会の一員として組合員が学び行動できる場面を作るため、
大学内の教職員や各種団体との連携、協同組合間協同や連帯の場を積極的に活用していきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
大阪教育大学生活協同組合　専務理事：下永　学生委員会担当：山根
TEL：072－976-3636　E-mail：daikyougaku@gmail.com

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
49

神戸大学生協
古紙回収企画（PRP）

活動の教訓ポイント

組合員が日常的に使用する身近なものから環境意識を持ってもらうことができている取り組み

活動概要

【日時】通年
【場所】神戸大学国際文化学部、工学部、文理農学部キャンパス
【対象】全組合員
【内容】大学内に古紙回収BOXを設置して組合員に入れてもらう。今年度後期からはペットボトルキャップの回収も行っています。環境意識に目を向けてもらう目的のもと行っている。また、付随して古紙回収BOXにポスターなども張り、GIのイベントなどの情宣も行っています。

▲活動の様子

企画背景　＜環境意識に目を向けてもらいたい＞

多くの組合員に古紙回収BOXの存在を認知してもらい、実際に利用してもらうことで、環境問題に目をむけてもらいたいという考えのもと生まれた企画です。

アピールポイント　＜現状に満足せず、常に向上を目指しています＞

今年度の後期から新たに別のキャンパスでもBOXを設置し、ペットボトルキャップの回収も始めました。また、常に認知度をあげるため、二択アンケートを回収の量で結果を図ったりするなどで興味をもってもらう工夫なども行っています。

▲二択アンケートの様子

組合員の反応　＜テスト後は古紙がたくさん＞

特に事後アンケートなどのようなものはとってないので、具体的な反応は把握していませんが、テスト後などはレジュメなどを一気に古紙回収BOXに入れる学生がかなり見られました。
また、週刊少年ジャンプなどの漫画雑誌や古書を入れる学生も見られました。

▲BOXにいれてあったかなり昔の本

◀古紙回収BOX

内容 ①　＜古紙、ペットボトル回収＞

神戸大学内の複数のキャンパスにおいて、古紙回収BOXを作成してそこにいらなくなった紙を入れてもらい、まとめて業者に配送して、リサイクルする。その過程において、**環境に意識を向けてもらいます。**また、今年の後期からペットボトルの回収を行い、こちらは業者に送り、ワクチンにリサイクルします。

▲活動の様子

内容 ②　＜回収量を増やす工夫＞

上の項目に述べたようにアンケート結果を古紙回収という媒体によって図ったり、回収量が増えると。Twitterで報告したりなどいくつかの工夫を考えています。

成果

現在継続中であり、月ごとに回収量を測定しているが、回収量が増えたり減ったりなどの原因は企画内容よりもテスト時期などが大きいと思われます。

課題

回収量の増減はわかるが、実際に参加者の人数が増えたかどうかを知る手段が現状ないことで現状把握がしにくいこと。
回収量を増やす工夫がなかなか思いつかないこと。
組合員が環境意識に目をむけられたのかを知る術がないこと。

取組みを参考にする上で気をつけること

特にありません。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4)　社会に生きる
社会の一員であることを意識･実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

1. 組合員が社会の一員であることを実感できるよう、平和・環境をはじめとする様々な社会的課題について考える視点を増やすきっかけを作りましょう。
2. 社会の一員であると実感した組合員が、大学生協の事業や活動を通じて、周りの組合員や社会に対して行動が起こせる機会づくりを工夫しましょう。
3. 社会の一員として組合員が学び行動できる場面を作るため、大学内の教職員や各種団体との連携、協同組合間協同や連帯の場を積極的に活用していきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
神戸大学生活協同組合　専務理事：坂本康弘　学生委員会　担当：高木
TEL：078-871-3691　E-mail：gi@kucoop.jp(学生委員会)

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
50

関西学院大学生協上ケ原キャンパス
生協祭・環境ブース

活動の教訓ポイント
難しい・とっつきにくいというイメージに対して様々な工夫を実施。企画をする側の想いも基とし、組合員が主体的に考え、かつ興味を持てるという場面を創出することができています！

活動概要

【日時】2018/10/16・17・18
【場所】上ケ原キャンパス学生会館前プラザ
【対象】組合員全員

【内容】
環境についてのストーリー性のある動画を見てもらい、
環境に良い行動と悪い行動を見つけ回答用紙に記入してもらう

▲当日の様子

企画背景　＜環境はとっつきにくいというイメージがある＞

・環境について関心の薄い組合員が多い
・環境について学ぶ機会が日常生活、大学生活において少ない

▲制作物もキャッチーなものにし興味

アピールポイント　＜主体的な学びを意識！＞

今回の環境ブースは、動画を見て環境について良い行動、悪い行動を見つけるというゲーム形式にすることで**組合員が自然に自身の日常生活を振り返り、考えてもらう機会**となった。環境問題についてその場の解決だけでなく、一人ひとりに呼びかけ**それぞれの生活の中で環境について意識してもらうことを実現できた。**また環境に関するブースを生協祭という場で行うことで**より多くの組合員に環境について考えてもらうきっかけ**となった。

組合員の反応　＜環境について考えさせられた！＞

・短い時間で環境について学べてよかった
・これから分別していきたいと思った
・リ・リパックの分別はやっていない人が多いと感じた
・動画が日常の映像でわかりやすい
・自分の行動について気を付けていきたいと思った
など

▲当日の様子

▲当日の様子

内容 ①　＜動画を見て考えてもらう＞

今回は『今日、エコをはじめます』というタイトルの動画を視聴してもらい、その中で登場人物のとる環境に良い行動、悪い行動を探してもらうという形をとった。また回答が終わったあとの答え合わせ→解説も大切にし、参加した組合員が自身の行動を振り返ることができるようにした。景品も『エコレールマーク』のついたお菓子を選ぶことでゲームが終わった後も環境について考え、より身近に感じられるよう細部まで工夫を凝らした。

内容 ②　＜リ・リパック回収も＞

環境ブースではリ・リパックの回収も行うことで、普段食べている弁当や丼の容器も環境活動の一つであることを組合員に伝える良い機会となった。上述した動画の中でもリ・リパックを分別するシーンがあり、解説の中で回収について説明することができた。またリ・リパック回収ボックスをはじめとした制作物も組合員の目を引くようこだわった。結果49個のリ・リパックを回収できた。
多くの組合員の目にとまる生協祭でこれを行うことで、組合員の印象に残るものとなっただろう。

▲リ・リパック回収所の様子

成果

今回の環境ブースでは目標人数を80人と設定していたが、三日間で145人の組合員が訪れ、活気溢れるブースとなった。感想シートもほとんどの人に記入していただき、その内容も自身の生活を振り返るものが多いと、企画の意図も伝わったと言える。環境について難しいイメージを持っていた組合員にも興味を持ってもらえたのではないだろうか。

課題

エコレール商品の説明時に集中力が持たず途中で帰ってしまった組合員もいたため、解説・説明の方法などの改善で、より多くの組合員に環境に対する興味を持ってもらえるだろう。

取組みを参考にする上で気をつけること

環境に限らず社会的課題を取り扱った企画全般に言えることだが、『難しい・とっつきにくい』というイメージのあるものをいかに分かりやすく伝えるかが大切であると感じた。本企画では動画を用いたクイズ形式をとったが興味を持ってもらえる工夫、帰った後も継続して考えてもらう工夫が大切である。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4)　社会に生きる
社会の一員であることを意識･実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

1. 組合員が社会の一員であることを実感できるよう、
平和・環境をはじめとする様々な社会的課題について考える視点を増やすきっかけを作りましょう。
2. 社会の一員であると実感した組合員が、大学生協の事業や活動を通じて、
周りの組合員や社会に対して行動が起こせる機会づくりを工夫しましょう。
3. 社会の一員として組合員が学び行動できる場面を作るため、
大学内の教職員や各種団体との連携、協同組合間協同や連帯の場を積極的に活用していきましょう。

関西学院大学生活協同組合　専務理事：髙橋　学生委員会　担当：河合
E-mail:kggi2018@gmail.com

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
51

神戸市外国語大学生協
ちょっきにボード

活動の教訓ポイント
外国語大学ならではの組合員の特徴をとらえ、世界との比較から成人年齢や選挙権について考えるきっかけを作ることができているちょっきにボード。多くの組合員の目に留まるように食堂に掲示されている。

活動概要

【日時】2018/10/3~
【場所】神戸市外国語大学食堂前
【対象】組合員

【内容】
全国の大学生協で行われている「ちょっと気になるけど調べるほどでもないなぁと思うことを調べてみましたボード」を工夫しながら取り入れた。

▲クイズ形式のちょっきにボード

企画背景　＜シンプルで様々な工夫が効く企画＞

ボランティア活動などに積極的な人が多く、国際社会に関心を向けている組合員が多いこの大学では、ちょっきにボードという取り組みも多くの組合員の興味を得やすいと思われた。また、どの学科も海外に関連している神戸市外国語大学はより組合員のニーズが分かりやすく、組合員にとってもさらに関心を深めやすい企画であるとも感じられた。

アピールポイント　＜組合員参加型＞

ちょっきにボードは学生委員が調べ、まとめて掲示するものであり、どうしても一方的になってしまう。また、自大学の組合員の特徴として、自分の意見は持っているもののその意見を発信できる場が少ないことがあげられる。そのため、ちょっきにボードのテーマや掲示されているボードに関する意見をGoogle Formで募集している。今後もっと組合員の参加を促し、組合員が意見を出せる場を増やすため、意見を集める媒体を増やし、組合員同士の意見交換が可能なちょっきにボードを目指している。

▲テーマ募集のGoogle Form

組合員の反応　＜SNSでは多くの人が反応＞

Twitterでこのちょっきにボードを宣伝したところ、ツイートアクティビティのインプレッション数7,636、エンゲージメント総数673という普段より多くの反応を得ることができた。
またこの反応は自大学だけでなく、他の大学の組合員からも得ることができた。まだ開始したばかりの企画であり、多くの組合員の関心を集めることができたことは予想を超えた成果であった。

▲通常より多くの反応を獲得

▲世界の成人年齢、選挙権に関するちょっきにボード

内容 ①　＜充実した情報量＞

ちょっきにボードを作る際は2人または3人で分担して調査をし、まとめている。またより多くの情報を、偏りなく取り入れるために日本語の文献だけでなく、英語で書かれた文献も情報源として用いている。
左の成人年齢と選挙権を得る年齢に関するちょっきにボードでは日本語文献を5個、英語文献を5個ソースとして用いて作成している。

内容 ②　＜より多くの組合員に向けて＞

神戸市外国語大学には食堂が1つしかなく、お昼の時間にはかなり多くの学生が食堂に集まる。ちょっきにボードといったような掲示物はまず多くの人の目に留まることが重要であるため、返却口近くの人が良く通る場所にちょっきにボードを掲示した。また多くの人にとって見やすいものとなるよう、デザインにも気を使っている。
さらにTwitter上でもちょっきにボードやテーマ募集を投稿することで、SNSを利用する組合員の目にも留まるよう、工夫した。

▲ちょっきにボードの掲示場所

成果

自大学の部会で、組合員の意見も拾えるような企画にしたいという熱意のもと、ちょっきにボードの内容や発信方法を深く話し合うことができたため、自大学に合わせた活動ができた。
多くの情報をもとに作ったため、充実した内容のちょっきにボードを完成させることができ、また組合員からの評価も上々であった。

課題

テーマや意見があまり集まっておらず、組合員の声をあまり収集できていないことが現状である。しかし組合員の関心を得られていることは確かであるため、テーマや意見を収集する媒体を増やすなどの対策が考えられる。
このちょっきにボードが知名度が高いものとなるまで続ける必要があると感じる。

取組みを参考にする上で気をつけること

シンプルな企画の一つであるちょっきにボードは工夫しがいがあり、学生委員会内で深く吟味することで自大学らしさを加えることができる。全国規模で行っている企画だからこそ、組合員に寄り添い、自大学の雰囲気に合わせることが大事である。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4)　社会に生きる
社会の一員であることを意識･実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

1. 組合員が社会の一員であることを実感できるよう、
   平和・環境をはじめとする様々な社会的課題について考える視点を増やすきっかけを作りましょう。
2. 社会の一員であると実感した組合員が、大学生協の事業や活動を通じて、
   周りの組合員や社会に対して行動が起こせる機会づくりを工夫しましょう。
3. 社会の一員として組合員が学び行動できる場面を作るため、
   大学内の教職員や各種団体との連携、協同組合間協同や連帯の場を積極的に活用していきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
神戸市外国語大学消費生活協同組合　専務理事：衛藤昭二　学生委員会：林
TEL：078-794-8191　E-mail：gaidaigi2016@gmail.com

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

［事例集］
52

消費者教育推進チーム
地産地消体感セミナー

活動の教訓ポイント
行政・事業者・消費者の三者で考えた企画案をもとに、大学生に「社会への影響を考えた消費行動」を行う大切さを知ってもらうことを目指して、セミナーを実施しました。

活動概要

【日時】2018/10/28(日) 9:45～17:00
【場所】兵庫県漁協水産加工セミナー、明石水産会館ほか
【対象】学生委員、組織委員、その他専務理事が認めた方

【内容】消費者教育について学んでもらうとともに、地産地消をテーマとして食品選択の重要性を知ってもらうため、漁協の職員さんの講演や底引き網漁選別体験、調理体験を実施しました。

▲当日の集合写真。15名の参加者を迎えることができました。

企画背景　食品選択の重要性を知ってほしい

食品選択は人生の中で非常に選択回数が多いため重要ですが、ついつい自分の食べたいものや値段が安い食材を選んでしまいがちです。この原因として、**食品選択についての知識や重要性を十分に把握していないこと**が挙げられます。そのためこのセミナーは地産地消をテーマとし、底引き網漁選別体験や調理体験などの実体験を通して**食品選択の大切さを知ってもらうこと**を目的として開催しました。

アピールポイント　行政・事業者・消費者の三者連携

このセミナーは今年３月に開催された「三者の想いをつなげよう～春からはじめるかしこい選択～」で挙がった企画案をもとに、**消費者・行政・事業者が連携**して実施されたものです。この中でも消費者の立場である消費者教育推進チームのメンバーが企画準備の中核を担いました。例えば、セミナー内で実施するコンテンツは消費者教育推進チームのメンバーが意見を提案し、行政・事業者とも会議を行って、決定されました。つまり、このセミナーは三者による連携の賜物といえます。

▲推進チーム内での会議は勿論のこと、行政や事業者との打ち合わせのために兵庫県庁もたびたび訪れました。

組合員の反応　「とても濃い１日となりました」

消費者教育の説明から選別体験・模擬競り体験・調理体験・ワークショップに至るまで、コンテンツ量が多いセミナーとなりました。そのため、参加者にとっては学びや気付きが多かったようで、「普段やらないことを経験できた」「身近なところに様々な問題が隠されていると分かった」などの感想を得ることができました。

その一方、予想外のハプニングが起きて時間が押してしまい、「もっと企画内容を深めたかった」「準備をちゃんとしてほしい」という意見・指摘もいただきました。

▲このセミナーのポスター

▲参加者全員で選別体験を行いました。

内容 ①　底引き網漁選別体験

瀬戸内海で行われている漁法である底引き網漁では、獲物となる魚や甲殻類の他に、商品にならないヒトデや雑魚、さらには海底に沈んでいたごみも一緒に網の中へ入ります。実際の漁師さんは１人で**商品になる魚などとその他のものに分ける選別作業**を船上でされていますが、今回はその作業の体験を岸で行いました。生きている魚を素手で触るということ自体もなかなかない参加者にとって**漁師さんの苦労を実体験によって知ることができた**貴重な機会でした。

内容 ②　調理体験

内容①で選別した魚や甲殻類は参加者の手によって全て調理されました。魚は捌かれた後、塩焼きや煮付け、天ぷらになりました。エビは塩茹でや素揚げに、カニも塩茹でされました。普段料理をしない参加者も多かったようですが、慣れない工程に苦戦しながらも楽しんで体験をすることができたと思います。また、**実際に調理して、その料理を食べることによって、魚のおいしさや食品のありがたさを再認識することができました。**

▲完成した料理の数々。

成果

「組合員の反応」にもあったように、今回のセミナーでは普段生活しているだけでは絶対に知ることのできない漁業の仕事や現状に触れることができました。この実体験を通じて、多くの参加者が食品選択の重要性に気付くことができたという意味においては、成果があったと言えます。

課題

このセミナーは当日体験型の企画であったため、想定外のハプニングが多々起こりました。その結果、かなり時間が押してしまい、最後は慌ただしくなってしまいました。「ハプニングは起こるもの」という認識を持って事前に対応策を練り、それを実行委員の中で周知させておく必要があったと痛感しました。

取組みを参考にする上で気をつけること

このセミナーのように他の団体と連携する企画の場合、**相手との綿密な打ち合わせが非常に大事になってきます。**両者の間で認識に齟齬が生じていると、当日の運営がうまくいかず、相手だけでなく参加者にも迷惑をかけてしまうからです。連携相手が大人であっても大学生であっても、意思疎通をうまく取ることが企画成功のカギになると思います。

2019年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4)　社会に生きる
社会の一員であることを意識･実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

1. 組合員が社会の一員であることを実感できるよう、
   平和・環境をはじめとする様々な社会的課題について考える視点を増やすきっかけを作りましょう。
2. 社会の一員であると実感した組合員が、大学生協の事業や活動を通じて、
   周りの組合員や社会に対して行動が起こせる機会づくりを工夫しましょう。
3. 社会の一員として組合員が学び行動できる場面を作るため、
   大学内の教職員や各種団体との連携、協同組合間協同や連帯の場を積極的に活用していきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】
大阪・兵庫・和歌山エリア 消費者教育推進チーム　担当：吉山（学生事務局）
E-mail：yoshiyama.rr@fc.univcoop.or.jp

TOYAMA ISHIKAWA FUKUI SHIGA KYOTO NARA OSAKA HYOGO WAKAYAMA

事例集 電子版

この事例集に掲載している活動は、
みなさんに執筆していただいた事例集の一部です。

活動事例集の電子版を
「**大学生協　関西北陸ブロック**」**ホームページ**に
アップいたします。(※12月下旬を予定)
各会員生協から寄せられた多くの活動を
ご覧いただき、学びあいにご活用ください♪

←こちらからアクセスしてください♪
http://ksnet.u-coop.net/

高めあい
つながる想いを大切に

最後まで「関西北陸ブロック活動事例集」をお読みいただきありがとうございました。

関西北陸ブロックの各会員生協では、2018年様々な取組みが行われました。組合員のよりよい生活を実現するために、強い想いと新たなアイデアを生かして、活動のレベルアップに取り組むことができました。そして、3つのエリアを越えて学び合うことでお互いに刺激となり、高めあうことができた1年でした。

今後も、ブロックに関わるすべての人が力を合わせて、活動のレベルアップにつなげられるよう、共に頑張ります。

大学生協 関西北陸ブロック学生事務局 一同

編集後記

つながる元気、ときめきキャンパス。

univ. CO-OP